

経済学部 経営情報学科 (2015年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	1学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	10
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	11	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	1学期	2	2	12	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	13	
2年					
共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	16
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	2学期	2	2	17
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	18
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 石川 敬之	1学期	1	2	19
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 日高 京子	1学期	1	2	20
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 小林 道彦	1学期	1	2	21
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	22
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 徳永 政夫	1学期	1	2	23
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 稲月 正	1学期	1	2	24
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 廣川 祐司	1学期	1	2	25
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) GES101F 戸蔭 仁司	1学期	1	2	26
	1年				
教養基礎演習I GES101F 伊原木 大祐	1学期	1	2	27	
	1年				
教養基礎演習I GES101F 高西 敏正	1学期	1	2	28	
	1年				
教養基礎演習II GES102F 石川 敬之	2学期	1	2	29	
	1年				
教養基礎演習II GES102F 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	30	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F 日高 京子	2学期	1	2	31
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 小林 道彦	2学期	1	2	32
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	33
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 徳永 政夫	2学期	1	2	34
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 稲月 正	2学期	1	2	35
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 廣川 祐司	2学期	1	2	36
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) GES102F 戸蒔 仁司	集中	1	2	37
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 伊原木 大祐	2学期	1	2	38
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 高西 敏正	2学期	1	2	39
		1年			
教養演習A I GES201F 徳永 政夫 他	1学期	2	2	40	
	2年				
教養演習A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	41	
	2年				
教養演習A I GES201F 伊原木 大祐	1学期	2	2	42	
	2年				
教養演習A I GES201F 稲月 正	1学期	2	2	43	
	2年				
教養演習A I GES201F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	44	
	2年				
教養演習A I GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	45	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I (防衛セミナー) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	46
		2年			
	教養演習 A I GES201F 日高 京子	1学期	2	2	47
		2年			
	教養演習 A II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	48
		2年			
	教養演習 A II GES202F 徳永 政夫 他	2学期	2	2	49
		2年			
	教養演習 A II GES202F 日高 京子	2学期	2	2	50
		2年			
	教養演習 A II GES202F 二宮 正人	2学期	2	2	51
		2年			
	教養演習 A II GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	52
		2年			
	教養演習 A II GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	53
		2年			
教養演習 A II (防衛セミナー) GES202F 戸蒔 仁司	集中	2	2	54	
	2年				
教養演習 A II GES202F 稲月 正	2学期	2	2	55	
	2年				
教養演習 A II GES202F 伊原木 大祐	2学期	2	2	56	
	2年				
教養演習 B I GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	57	
	3年				
教養演習 B I GES301F 徳永 政夫 他	1学期	3	2	58	
	3年				
教養演習 B I GES301F 日高 京子	1学期	3	2	59	
	3年				
教養演習 B I GES301F 小林 道彦	1学期	3	2	60	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ GES301F 神原 ゆうこ	1学期	3	2	61
	3年				
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) GES301F 戸蒔 仁司	1学期	3	2	62
	3年				
	教養演習BⅠ GES301F 稲月 正	1学期	3	2	63
	3年				
	教養演習BⅠ GES301F 伊原木 大祐	1学期	3	2	64
	3年				
	教養演習BⅡ GES302F 徳永 政夫 他	2学期	3	2	65
	3年				
	教養演習BⅡ GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	66
	3年				
	教養演習BⅡ GES302F 日高 京子	2学期	3	2	67
	3年				
	教養演習BⅡ GES302F 小林 道彦	2学期	3	2	68
3年					
教養演習BⅡ GES302F 神原 ゆうこ	2学期	3	2	69	
3年					
教養演習BⅡ(防衛セミナー) GES302F 戸蒔 仁司	集中	3	2	70	
3年					
教養演習BⅡ GES302F 稲月 正	2学期	3	2	71	
3年					
教養演習BⅡ GES302F 伊原木 大祐	2学期	3	2	72	
3年					
教養演習BⅡ GES302F 二宮 正人	2学期	3	2	73	
3年					
■テーマ科目	自然学のまなごし ENV002F 岩松 文代 他	1学期	1	2	74
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	75
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	76
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	77
	1年				
	くらしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期	1	2	78
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	79
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	80
	1年				
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	81
	1年				
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍 有二 他	1学期	1	2	82
	1年				
	私たちと宗教 PHR006F 佐藤 真人	2学期	1	2	83
	1年				
思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	84	
1年					
文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	2学期	1	2	85	
1年					
言語とコミュニケーション LIN001F 漆原 朗子 他	2学期	1	2	86	
1年					
芸術と人間 PHR001F 花田 伸一	2学期	1	2	87	
1年					
文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2		
1年					
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	88	
1年					
民主主義とは何か PLS002F 大澤 津 他	1学期	1	2	89	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	90
		1年			
	政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	91
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	92
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	93
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	94
		1年			
	共生の作法 LAW001F 今泉 恵子 他	1学期	1	2	95
		1年			
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期	1	2	96
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	97
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	98
		1年			
企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	99	
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	100	
	1年				
現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	101	
	1年				
都市と地域 RDE002F 南 博 他	1学期	1	2	102	
	1年				
地域防災への招待 SSS001F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	103	
	1年 (2015年度以降入学生)				
現代の国際情勢 IRL003F 山本 直 他	1学期	1	2	104	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	105
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他	1学期	1	2	106
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	107
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	1学期	1	2	108
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	109
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F チャン ユンヒャン	2学期	1	2	110
		1年			
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 北 美幸 他	1学期	1	2	111
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	112
		1年			
歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	113	
	1年				
そのとき世界は HIS002F 小林 道彦 他	2学期	1	2	114	
	1年				
戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	115	
	1年				
ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	116	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	117	
	1年				
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	118	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 内山 一幸	2学期	1	2	119
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	120
	1年				
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	121
	1年				
	人文地理学 GEO110F 外戸保 大介	2学期	1	2	122
	1年				
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	123
	1年				
	地誌学 GEO112F 外戸保 大介	1学期	1	2	124
	1年				
	日本国憲法 LAW120F 植木 淳	2学期	1	2	125
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	126
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 坂本 毅啓	2学期	1	2	127
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	128
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	129
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	130
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 高西 敏正	2学期	1	2	131
	1年				
フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	132	
1年					
フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	133	
1年					
自己管理論 HSS003F 山本 浩二	2学期	1	2	134	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	135
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) HSS081F 磯貝 浩久	1学期	1	1	136
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	137
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	138
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	139
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	140
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	141
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	142
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	143
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	144
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	145	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	146	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	147	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	148	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	149	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	150
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	151
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 永田 公彦	1学期	1	2	152
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	153
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	154
	1年				
	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	155
	1年				
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 永田 公彦	2学期	1	2	156
	1年				
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	157
	2年				
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	158
	2年				
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	159
	2年				
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	160
	1年				
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	161
	1年				
	プロジェクト演習I CAR280F 見館 好隆	1学期	2	2	162
	2年				
	プロジェクト演習II CAR281F 見館 好隆	2学期	2	2	163
	2年				
	プロジェクト演習III CAR380F 見館 好隆	1学期	3	2	164
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習IV CAR381F 見館 好隆	2学期	3	2	165
	3年				
■教養特講	教養特講I (北九州市の観光振興) SPL001F 北九州市観光協会、基盤教育センター 真鍋和博	2学期	1	2	166
	1年				
	教養特講II (ホスピタリティ論) SPL002F 西澤 健次 他	2学期	1	2	167
	1年				
	教養特講II (セクシュアル・ライツ) SPL002F 河嶋 静代	2学期	1	2	168
	1年				
教養特講III (まなびと講座 A) SPL003F 真鍋 和博	1学期	1	2	169	
1年					
教養特講IV (まなびと講座 B) SPL004F 真鍋 和博	2学期	1	2	170	
1年					
■情報教育科目	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	1学期	1	2	171
	営 1 - 1 . 再履				
	データ処理 INF101F 岩田 一男	1学期	1	2	172
	営 1 - 2 . 再履				
	データ処理 INF101F 岩田 一男	1学期	1	2	173
	営 1 - 3 . 再履				
	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	174
	1学期未修得者再履				
	情報表現 INF230F 中尾 泰士	2学期	2	2	175
	2年				
情報表現 INF230F 棚次 奎介	2学期	2	2	176	
2年					
情報表現 INF230F 浅羽 修丈	1学期	2	2	177	
2年					
情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	2学期	3	2	178	
3年					
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (営 1 - A) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	179
	営 1 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (営 1 - B) ENG101F 船方 浩子	1学期	1	1	180
		営 1 - B			
	英語I (営 1 - C) ENG101F 下條 かおり	1学期	1	1	181
		営 1 - C			
	英語I (営 1 - D) ENG101F 安丸 雅子	1学期	1	1	182
		営 1 - D			
	英語I (営 1 - E) ENG101F 渡邊 晶子	1学期	1	1	183
		営 1 - E			
	英語II (営 1 - A) ENG111F ホセ・クルーズ	2学期	1	1	184
		営 1 - A			
	英語II (営 1 - B) ENG111F 船方 浩子	2学期	1	1	185
		営 1 - B			
	英語II (営 1 - C) ENG111F 下條 かおり	2学期	1	1	186
		営 1 - C			
	英語II (営 1 - D) ENG111F 安丸 雅子	2学期	1	1	187
		営 1 - D			
	英語II (営 1 - E) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	188
		営 1 - E			
	英語III (営 1 - A) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	189
		営 1 - A			
英語III (営 1 - B) ENG102F デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	190	
	営 1 - B				
英語III (営 1 - C) ENG102F ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	191	
	営 1 - C				
英語III (営 1 - D) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	192	
	営 1 - D				
英語III (営 1 - E) ENG102F 安丸 雅子	1学期	1	1	193	
	営 1 - E				
英語IV (営 1 - A) ENG112F アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	194	
	営 1 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV (営 1 - B) ENG112F デビッド・ アダム・ ストット	2学期	1	1	195
		営 1 - B			
	英語IV (営 1 - C) ENG112F デビット・ ニール・ マクレラン	2学期	1	1	196
		営 1 - C			
	英語IV (営 1 - D) ENG112F ダンカン・ ウォトリイ	2学期	1	1	197
		営 1 - D			
	英語IV (営 1 - E) ENG112F マイケル・ バーク	2学期	1	1	198
		営 1 - E			
	英語V (営 2 - A) ENG201F ダンカン・ ウォトリイ	1学期	2	1	199
		営 2 - A			
	英語V (営 2 - B) ENG201F 永末 康介	1学期	2	1	200
		営 2 - B			
	英語V (営 2 - C) ENG201F 葛西 宏信	1学期	2	1	201
		営 2 - C			
	英語V (営 2 - D) ENG201F 渡邊 嘉則	1学期	2	1	202
		営 2 - D			
	英語V (営 2 - E) ENG201F 吉田 禎子	1学期	2	1	203
		営 2 - E			
	英語VI (営 2 - A) ENG211F 永末 康介	2学期	2	1	204
		営 2 - A			
英語VI (営 2 - B) ENG211F 葛西 宏信	2学期	2	1	205	
	営 2 - B				
英語VI (営 2 - C) ENG211F 村田 希巳子	2学期	2	1	206	
	営 2 - C				
英語VI (営 2 - D) ENG211F 渡邊 嘉則	2学期	2	1	207	
	営 2 - D				
英語VI (営 2 - E) ENG211F 吉田 禎子	2学期	2	1	208	
	営 2 - E				
英語VII (営 2 - A) ENG202F クリストファー・ オサリバン	1学期	2	1	209	
	営 2 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII (営 2 - B) ENG202F マーニー・セイデイ	1学期	2	1	210
		営 2 - B			
	英語VII (営 2 - C) ENG202F ホセ・クルーズ	1学期	2	1	211
		営 2 - C			
	英語VII (営 2 - D) ENG202F ケネス・ギブソン	1学期	2	1	212
		営 2 - D			
	英語VII (営 2 - E) ENG202F 十時 康	1学期	2	1	213
		営 2 - E			
	英語VIII (営 2 - A) ENG212F クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	214
		営 2 - A			
	英語VIII (営 2 - B) ENG212F ジャマール・ミラー	2学期	2	1	215
		営 2 - B			
	英語VIII (営 2 - C) ENG212F ホセ・クルーズ	2学期	2	1	216
		営 2 - C			
	英語VIII (営 2 - D) ENG212F ケネス・ギブソン	2学期	2	1	217
		営 2 - D			
英語VIII (営 2 - E) ENG212F マーニー・セイデイ	2学期	2	1	218	
	営 2 - E				
英語IX (済営律政 3 年) ENG301F 伊藤 晃	1学期	3	1	219	
	済営律政 3 年				
英語X (済営律政 3 年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	220	
	済営律政 3 年				
英語XI (済営律政 3 年) ENG302F ダニー・ミン	1学期	3	1	221	
	済営律政 3 年				
英語XII (済営律政 3 年) ENG312F ダニー・ミン	2学期	3	1	222	
	済営律政 3 年				
■第二外国語	中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	223
		済営 1 年			
	中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	224
		済営 1 年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語III CHN102F 王 占華	1学期	1	1	225
		済営 1年			
	中国語IV CHN112F 王 占華	2学期	1	1	226
		済営 1年			
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	227
		済営人律政群 2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	228
		済営人律政群 2年			
	中国語VII CHN202F 蘇 君業	1学期	2	1	229
		済営人律政群 2年			
	中国語VIII CHN212F 蘇 君業	2学期	2	1	230
		済営人律政群 2年			
	上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	231
		英国済営比人 3年			
	上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	232
		英国済営比人 3年			
	上級中国語III CHN302F 王 占華	1学期	3	1	233
		英国済営比人 3年			
	上級中国語IV CHN312F 王 占華	2学期	3	1	234
		英国済営比人 3年			
朝鮮語I KRN101F 金 貞淑	1学期	1	1	235	
	済営群 1年				
朝鮮語II KRN111F 金 貞淑	2学期	1	1	236	
	済営群 1年				
朝鮮語III KRN102F 金 京姫	1学期	1	1	237	
	済営群 1年				
朝鮮語IV KRN112F 金 京姫	2学期	1	1	238	
	済営群 1年				
朝鮮語V KRN201F 金 光子	1学期	2	1	239	
	済営比人律政群 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VI KRN211F 金 光子	2学期	2	1	240
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VII KRN202F 金 京姫	1学期	2	1	241
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII KRN212F 金 京姫	2学期	2	1	242
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語I KRN301F 金 貞淑	1学期	3	1	243
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語II KRN311F 金 貞淑	2学期	3	1	244
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語III KRN302F チャン ユンヒャン	1学期	3	1	245
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語IV KRN312F チャン ユンヒャン	2学期	3	1	246
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	247
		済営比人 1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	248
		済営比人 1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	249
		済営比人 1年			
ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	250	
	済営比人 1年				
ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	251	
	済営比人律政 2年				
ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	252	
	済営比人律政 2年				
ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	253	
	済営比人律政 2年				
ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	254	
	済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	255
		済営人1年			
	ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	256
		済営人1年			
	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	257
		済営人1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	258
		済営人1年			
	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	259
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	260
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	261
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	262
		済営比人律政2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	263
		済営人1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	264
		済営人1年			
フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	265	
	済営人1年				
フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	266	
	済営人1年				
フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	267	
	済営比人律政2年				
フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	268	
	済営比人律政2年				
フランス語VII FRN202F ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	269	
	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VIII FRN212F ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	270
	済営比人律政2年				
	スペイン語I SPN101F 岡住 正秀	1学期	1	1	271
	済営1年				
	スペイン語II SPN111F 岡住 正秀	2学期	1	1	272
	済営1年				
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	273
	済営1年				
	スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	274
	済営1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	275	
済営比人律政2年					
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	276	
済営比人律政2年					
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	277	
済営比人律政2年					
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	278	
済営比人律政2年					
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	279
	留学生1年				
	日本語II JSL102F 清水 順子	1学期	1	1	280
	留学生1年				
	日本語III JSL103F 徐 曉輝	1学期	1	1	281
	留学生1年				
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	282
留学生1年					
日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	283	
留学生1年					
日本語VI JSL113F 徐 曉輝	2学期	1	1	284	
留学生1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語VII JSL104F 小林 浩明	1学期	2	1	285
	留学生 2年				
	日本語VIII JSL114F 小林 浩明	2学期	2	1	286
	留学生 2年				
	日本事情(人文)A JPS101F 則松 智子	1学期	1	2	287
	留学生 1年				
	日本事情(人文)B JPS102F 清水 順子	2学期	1	2	288
	留学生 1年				
	日本事情(社会)A JPS103F 山崎 勇治	1学期	1	2	289
	留学生 1年				
	日本事情(社会)B JPS104F 山崎 勇治	2学期	1	2	290
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■必修科目	入門演習 SEM110M 西澤 健次	1学期	1	2	291
	1年				
	入門演習 SEM110M 松本 守	1学期	1	2	292
	1年				
	入門演習 SEM110M 齋藤 朗宏	1学期	1	2	293
	1年				
	入門演習 SEM110M 隈本 覚	1学期	1	2	294
	1年				
	入門演習 SEM110M 梅澤 俊浩	1学期	1	2	295
	1年				
	入門演習 SEM110M 池田 欽一	1学期	1	2	296
	1年				
入門演習 SEM110M 福井 直人	1学期	1	2	297	
1年					
入門演習 SEM110M 吉田 祐治	1学期	1	2	298	
1年					
入門演習 SEM110M 山下 剛	1学期	1	2	299	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	数学 MTH100M 豊永 憲治	1学期	1	2	300
		営1年Iグループ			
	数学 MTH100M 吉田 祐治	1学期	1	2	301
		営1年IIグループ			
	情報科学入門 INF100M 平山 克己	1学期	1	2	302
		1 - 1			
	情報科学入門 INF100M 齋藤 朗宏	1学期	1	2	303
		1 - 2			
	情報科学入門 INF100M 池田 欽一	1学期	1	2	304
		1 - 3			
	情報科学入門 INF100M 武藤 直彦	1学期	1	2	305
		1年(再履修)			
	プログラミングI INF110M 武藤 直彦	2学期	1	2	306
		営1 - 1			
	プログラミングI INF110M 武藤 直彦	2学期	1	2	307
		営1 - 2			
	プログラミングI INF110M 武藤 直彦	2学期	1	2	308
		営1 - 3			
	プログラミングI INF110M 隈本 覚	2学期	1	2	309
		1年(再履修)			
経営学入門 BUS100M 福井 直人	1学期	1	2	310	
	1年Aグループ				
経営学入門 BUS100M 福井 直人	1学期	1	2	311	
	1年Bグループ				
マネジメント論基礎 BUS111M 浦野 恭平	2学期	1	2	312	
	1年Aグループ				
マネジメント論基礎 BUS111M 浦野 恭平	2学期	1	2	313	
	1年Bグループ				
企業論基礎 BUS110M 松本 守	2学期	1	2	314	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	簿記論I ACC110M 白石 和孝	1学期	1	2	315
		1年Aグループ			
	簿記論I ACC110M 岡部 勝成	1学期	1	2	316
		1年Bグループ			
	簿記論II ACC111M 白石 和孝	2学期	1	2	317
		1年Aグループ			
	簿記論II ACC111M 岡部 勝成	2学期	1	2	318
		1年Bグループ			
	基礎演習 SEM210M 山下 剛	1学期	2	2	319
		2年			
	基礎演習 SEM210M 松本 守	1学期	2	2	320
		2年			
	基礎演習 SEM210M 吉田 祐治	1学期	2	2	321
		2年			
	基礎演習 SEM210M 浦野 恭平	1学期	2	2	322
		2年			
	基礎演習 SEM210M 山岡 敏秀	1学期	2	2	323
		2年			
	基礎演習 SEM210M 隈本 覚	1学期	2	2	324
		2年			
基礎演習 SEM210M 別府 俊行	1学期	2	2	325	
	2年				
基礎演習 SEM210M 西澤 健次	1学期	2	2	326	
	2年				
基礎演習 SEM210M 白石 和孝	1学期	2	2	327	
	2年				
基礎演習 SEM210M 梅澤 俊浩	1学期	2	2	328	
	2年				
基礎演習 SEM210M 齋藤 朗宏	1学期	2	2	329	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目	基礎演習	1学期	2	2	330
	SEM210M 池田 欽一	2年			
	専門演習I	1学期	3	2	331
	SEM311M 松本 守	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	332
	SEM311M 池田 欽一	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	333
	SEM311M 梅澤 俊浩	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	334
	SEM311M 浦野 恭平	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	335
	SEM311M 隈本 寛	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	336
	SEM311M 齋藤 朗宏	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	337
	SEM311M 白石 和孝	3年			
	専門演習I	1学期	3	2	338
	SEM311M 西澤 健次	3年			
専門演習I	1学期	3	2	339	
SEM311M 吉村 英俊	3年				
専門演習I	1学期	3	2	340	
SEM311M 平山 克己	3年				
専門演習I	1学期	3	2	341	
SEM311M 福井 直人	3年				
専門演習I	1学期	3	2	342	
SEM311M 別府 俊行	3年				
専門演習I	1学期	3	2	343	
SEM311M 山岡 敏秀	3年				
専門演習I	1学期	3	2	344	
SEM311M 吉田 祐治	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	担当者		備考			
■専門教育科目 ■必修科目	専門演習I SEM311M	山下 剛	1学期	3	2	345
			3年			
	専門演習I SEM311M	鳥取部 真己	1学期	3	2	346
			3年			
	専門演習I SEM311M	任 章	1学期	3	2	347
			3年			
	専門演習II SEM312M	松本 守	2学期	3	2	348
			3年			
	専門演習II SEM312M	池田 欽一	2学期	3	2	349
			3年			
	専門演習II SEM312M	梅澤 俊浩	2学期	3	2	350
			3年			
	専門演習II SEM312M	浦野 恭平	2学期	3	2	351
			3年			
	専門演習II SEM312M	隈本 覚	2学期	3	2	352
			3年			
	専門演習II SEM312M	齋藤 朗宏	2学期	3	2	353
			3年			
	専門演習II SEM312M	白石 和孝	2学期	3	2	354
			3年			
専門演習II SEM312M	西澤 健次	2学期	3	2	355	
		3年				
専門演習II SEM312M	吉村 英俊	2学期	3	2	356	
		3年				
専門演習II SEM312M	平山 克己	2学期	3	2	357	
		3年				
専門演習II SEM312M	福井 直人	2学期	3	2	358	
		3年				
専門演習II SEM312M	別府 俊行	2学期	3	2	359	
		3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	専門演習II SEM312M 山岡 敏秀	2学期	3	2	360
		3年			
	専門演習II SEM312M 吉田 祐治	2学期	3	2	361
		3年			
	専門演習II SEM312M 山下 剛	2学期	3	2	362
		3年			
	専門演習II SEM312M 鳥取部 真己	2学期	3	2	363
		3年			
	専門演習II SEM312M 任 章	2学期	3	2	364
		3年			
	卒業研究A SEM411M 未開講	1学期	4	2	
		4年			
卒業研究B SEM412M 未開講	2学期	4	2		
	4年				
■選択科目A	経済学入門 A ECN110M 魏 芳	1学期	1	2	365
		1年Aグループ			
	経済学入門 A ECN110M 後藤 宇生	1学期	1	2	366
		1年Bグループ			
	経済学入門 B ECN111M 後藤 尚久	1学期	1	2	367
		1年Aグループ			
	経済学入門 B ECN111M 前林 紀孝	1学期	1	2	368
		1年Bグループ			
	ミクロ経済学I ECN112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	マクロ経済学I ECN113M 休講	2学期	1	2	
		1年			
ミクロ経済学II ECN210M 休講	1学期	2	2		
	2年				
マクロ経済学II ECN211M 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	経営統計	2学期	1	2	369
	MTH150M 吉田 祐治	1年			
	統計学I	2学期	1	2	370
	ECN130M 林田 実	1年			
	統計学II	1学期	2	2	371
	ECN230M 林田 実	2年			
	経営組織論	1学期	2	2	372
	BUS212M 山下 剛	2年			
	経営戦略論	2学期	2	2	373
	BUS213M 浦野 恭平	2年			
	マーケティングI	1学期	2	2	374
	BUS230M 別府 俊行	2年			
	マーケティングII	2学期	2	2	375
	BUS231M 別府 俊行	2年			
	企業論I	1学期	2	2	376
	BUS210M 山岡 敏秀	2年			
	企業論II	2学期	2	2	377
	BUS211M 山岡 敏秀	2年			
	企業ファイナンスI	1学期	2	2	378
	BUS214M 松本 守	2年			
企業ファイナンスII	2学期	2	2	379	
BUS215M 松本 守	2年				
人的資源管理論	1学期	3	2	380	
BUS310M 福井 直人	3年				
国際経営	2学期	3	2	381	
BUS311M 王 効平	3年				
事業計画論	1学期	3	2	382	
BUS312M 吉村 英俊	3年				
中小企業論	1学期	3	2	383	
BUS313M 別府 俊行	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	応用マネジメント BUS314M 高橋 秀直	1学期	3	2	384
		3年			
	証券市場論 BUS330M 山岡 敏秀	1学期	3	2	385
		3年			
	地域企業分析 BUS400M 浦野 恭平 他	2学期	3	2	386
		3年			
	生産マネジメント BUS315M 鳥取部 真己	1学期	3	2	387
		3年			
	情報経営 BUS316M 越出 均	1学期	3	2	388
		3年			
	オペレーションズ・マネジメント INF200M 齋藤 朗宏	1学期	2	2	389
		2年			
	コンピュータシステム INF220M 武藤 直彦	1学期	2	2	390
		2年			
	プログラミングII (新JAVA) INF210M 平山 克己	1学期	2	2	391
		2年			
	データ構造 INF231M 隈本 覚	2学期	2	2	392
		2年			
	データベース INF232M 池田 欽一	2学期	2	2	393
		2年			
Webプログラミング INF212M 池田 欽一	2学期	2	2	394	
	2年				
情報ネットワーク INF320M 隈本 覚	1学期	3	2	395	
	3年				
システム分析 INF340M 平山 克己	1学期	3	2	396	
	3年				
システム設計 INF420M 平山 克己	2学期	3	2	397	
	3年				
企業データ分析 INF341M 齋藤 朗宏	1学期	3	2	398	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	経営数学	2学期	3	2	399
	MTH350M 吉田 祐治	3年			
	簿記論III	2学期	2	2	400
	ACC210M 白石 和孝 他	2年			
	工業簿記	集中	2	2	401
	ACC211M 大崎 美泉	2年			
	原価計算論I	1学期	2	2	402
	ACC212M 梅澤 俊浩	2年			
	原価計算論II	2学期	2	2	403
	ACC213M 梅澤 俊浩	2年			
	財務会計論I	1学期	2	2	404
	ACC214M 西澤 健次	2年			
	財務会計論II	2学期	2	2	405
	ACC215M 西澤 健次	2年			
	会計監査論	2学期	2	2	406
	ACC216M 任 章	2年			
	税務会計	1学期	3	2	407
	ACC310M 岡部 勝成	3年			
	管理会計論	1学期	3	2	408
	ACC311M 大崎 美泉	3年			
国際会計論	1学期	3	2	409	
ACC312M 白石 和孝	3年				
情報会計	2学期	3	2	410	
ACC313M 梅澤 俊浩	3年				
経営分析	1学期	3	2	411	
ACC400M 西澤 健次	3年				
会社法I	1学期	3	2	412	
LAW270M 高橋 衛	3年				
会社法II	2学期	3	2	413	
LAW271M 高橋 衛	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	業界研究I CAR310M 小田 浩史 他	1学期	3	2	414
		3年			
	業界研究II CAR380M 福井 直人	集中	3	2	415
		3年			
	経営学特殊講義A BUS390M 森高 正博	1学期	3	2	416
		3年			
	経営学特殊講義B BUS391M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	外書講読 SEM390M 山下 剛	1学期	3	2	417
		3年			
	ビジネス英語A (選抜クラス) ENG331M アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	418
		3年選抜クラス			
	ビジネス英語A ENG331M アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	419
		3年			
	ビジネス英語A ENG331M アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	420
		3年			
	ビジネス英語A ENG331M 林 裕二	1学期	3	2	421
		3年			
ビジネス英語B (選抜クラス) ENG332M アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	422	
	3年選抜クラス				
ビジネス英語B ENG332M アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	423	
	3年				
ビジネス英語B ENG332M アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	424	
	3年				
ビジネス英語B ENG332M 林 裕二	2学期	3	2	425	
	3年				
■選択科目B	金融論I ECN260M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	金融論II ECN261M 休講	2学期	2	2	
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	国際経済論I ECN240M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	国際経済論II ECN241M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	公共経済学 ECN262M 牛房 義明	1学期	2	2	426
	2年				
	ファイナンス論 ECN360M 武田 寛	2学期	3	2	427
	3年				
	環境経済学 ECN340M 休講	2学期	3	2	
	3年				
	財政学I ECN361M 前林 紀孝	1学期	3	2	428
	3年				
	財政学II ECN362M 前林 紀孝	2学期	3	2	429
	3年				
	産業組織論I ECN341M 後藤 宇生	1学期	3	2	430
	3年				
	産業組織論II ECN342M 後藤 宇生	2学期	3	2	431
	3年				
	労働経済学I ECN343M 畔津 憲司	1学期	3	2	432
	3年				
労働経済学II ECN344M 畔津 憲司	2学期	3	2	433	
3年					
国際貿易論I ECN345M 水戸 康夫	1学期	3	2	434	
3年					
国際貿易論II ECN346M 水戸 康夫	2学期	3	2	435	
3年					
国際マクロ経済学I ECN310M 末永 勝昭	1学期	3	2	436	
3年					
国際マクロ経済学II ECN311M 末永 勝昭	2学期	3	2	437	
3年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	経済地理学I	1学期	2	2	
	ECN242M 休講	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	
	ECN243M 休講	2年			
	地域経済I	1学期	2	2	438
	ECN244M 田村 大樹	2年			
	地域経済II	2学期	2	2	439
	ECN245M 杉浦 勝章	2年			
	地域政策	2学期	2	2	440
	ECN250M 松永 裕己	2年			
	北九州経済分析I	1学期	2	2	441
	ECN251M 城戸 宏史	2年			
	北九州経済分析II	2学期	2	2	442
	ECN252M 城戸 宏史	2年			
	地方財政論	1学期	3	2	443
	ECN365M 難波 利光	3年			
	経済学特殊講義A	1学期	3	2	
	ECN301M 休講	3年			
	経済学特殊講義B	2学期	3	2	
	ECN302M 休講	3年			
情報公開・個人情報保護法	2学期	3	2	444	
LAW322M 岡本 博志	3年				
労使関係法	1学期	2	2	445	
LAW241M 石田 信平	2年				
雇用関係法	1学期	2	2	446	
LAW240M 石田 信平	2年				
社会サービス法	2学期	2	2	447	
LAW242M 津田 小百合	2年				
所得保障法	2学期	2	2	448	
LAW243M 津田 小百合	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目B	独占禁止法 LAW340M 高場 俊光	1学期	3	2	449
		3年			
	知的財産法 LAW341M 木村 友久	1学期	3	2	450
		3年			
	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	451
		2年			
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	452
		2年			
	民法総則 LAW160M 矢澤 久純	1学期 (ペア)	1	4	453
		1年			
	企業取引法I LAW272M 今泉 恵子	2学期	2	2	454
		2年			
	企業取引法II LAW372M 前越 俊之	2学期	3	2	455
		3年			
	企業活動と法 LAW273M 今泉 恵子	2学期	2	2	456
		2年			
	企業法の現代的展開 LAW371M 木村 友久	2学期	3	2	457
		3年			
	証券市場と法 LAW370M 前越 俊之	2学期	3	2	458
		3年			
都市経済論 PLC113M 田代 洋久	1学期	1	2	459	
	1年				
行政学 PAD100M 森 裕亮	2学期	1	2	460	
	1年				
都市経営論 PAD213M 田代 洋久	2学期	2	2	461	
	2年				
都市政策論 PLC219M 田代 洋久	2学期	2	2	462	
	2年				
ビジネス英語研究 ENG232M 松田 智	2学期	3	2	463	
	3年				

経済学部 経営情報学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	Advanced English I	1学期	4	2	
	ENG353M 未開講				
	Advanced English II	2学期	4	2	
	ENG354M 未開講				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	464
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	465
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	466
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	467
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	468
	1年				
日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	469	
1年					
生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	470	
1年					
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	471	
1年					
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	472	
1年					
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 二宮 正人	1学期	1	2	473
1年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	474
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	475	
1年					
文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	476
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 大澤 津 他	1学期	1	2	476
	1年				
	社会学的思考 SOC002F 閉講	1学期	1	2	477
	1年				
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	477
	1年				
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	478
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	2学期	1	2	479
	1年				
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	480
	1年				
	市民活動論 RDE001F 休講	2学期	1	2	481
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	481
	1年				
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	482
	1年				
現代の国際情勢 IRL003F 山本 直 他	1学期	1	2	482	
1年					
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	483	
1年					
グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	484	
1年					
国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	484	
1年					
国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	484	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方I HIS004F 小林 道彦	1学期	1	2	485
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	486
		1年			
	ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2	
		1年			
■教職関連科目	日本史 HIS110F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	東洋史 HIS120F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 HIS130F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人文地理学 GEO110F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	土地地理学 GEO111F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
地誌学 GEO112F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
日本国憲法 LAW120F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	487
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 山本 浩二	2学期	1	2	488
		1年			

経済学部 経営情報学科 (2015年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	489
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 休講	2学期	1	1	
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	2学期	1	2	490
	1学期未修得者再履				
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期	2	2	491
	2年				
■専門教育科目 ■必修科目	入門演習 SEM110M 閉講		1	2	
	1年				
	数学 MTH100M 休講	1学期	1	2	
	1年 (再履修のみ)				
	情報科学入門 INF100M 休講		1	2	
	1年				
	プログラミングI INF110M 閉講		1	2	
	1年				
	経営学入門 BUS100M 休講		1	2	
	1年				
	マネジメント論基礎 BUS111M 遠藤 雄二	2学期	1	2	492
	1年 (再履修)				
	企業論基礎 BUS110M 中間 信博	2学期	1	2	493
	1年 (再履修)				
簿記論I ACC110M 池口 慶一	1学期	1	2	494	
1年 (再履修)					
簿記論II ACC111M 池口 慶一	2学期	1	2	495	
1年 (再履修)					
基礎演習 SEM210M 閉講		2	2		
2年					
専門演習I SEM311M 閉講		3	2		
3年					

経済学部 経営情報学科 (2015年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目	専門演習II		3	2	
	SEM312M 閉講	3年			
	卒業研究A		4	2	
	SEM411M 未開講	4年			
	卒業研究B		4	2	
	SEM412M 未開講	4年			
■選択科目A	経済学入門A	1学期	1	2	496
	ECN110M 藤井 敦	1年			
	経済学入門B	1学期	1	2	497
	ECN111M 畔津 憲司	1年			
	ミクロ経済学I	2学期	1	2	498
	ECN112M 朱 乙文	1年			
	マクロ経済学I	2学期	1	2	499
	ECN113M 田中 淳平	1年			
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	500
	ECN210M 朱 乙文	2年			
	マクロ経済学II	1学期	2	2	501
	ECN211M 田中 淳平	2年			
	経営統計		1	2	
	MTH150M 休講	1年			
	統計学I	1学期	1	2	502
	ECN130M 林田 実	1年(再履修)			
	統計学II	2学期	2	2	503
	ECN230M 林田 実	2年(再履修)			
	経営組織論		2	2	
	BUS212M 休講	2年			
経営戦略論	2学期	2	2		
BUS213M 休講	2年				
マーケティングI	1学期	2	2		
BUS230M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	マーケティングII		2	2	
	BUS231M 休講	2年			
	企業論I		2	2	
	BUS210M 休講	2年			
	企業論II		2	2	
	BUS211M 休講	2年			
	企業ファイナンスI	1学期	2	2	
	BUS214M 休講	2年			
	企業ファイナンスII	2学期	2	2	
	BUS215M 休講	2年			
	人的資源管理論	1学期	3	2	504
	BUS310M 山下 剛	3年			
	国際経営		3	2	
	BUS311M 休講	3年			
	事業計画論		3	2	
	BUS312M 休講	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	505
	BUS313M 別府 俊行	3年			
	応用マネジメント		3	2	
	BUS314M 休講	3年			
証券市場論		3	2		
BUS330M 休講	3年				
地域企業分析		3	2		
BUS400M 休講	3年				
生産マネジメント		3	2		
BUS315M 休講	3年				
情報経営		3	2		
BUS316M 休講	3年				
オペレーションズ・マネジメント		2	2		
INF200M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	コンピュータシステム	1学期	2	2	506
	INF220M 泉 英明	2年			
	プログラミングII (新JAVA)		2	2	
	INF210M 閉講	2年			
	データ構造	2学期	2	2	
	INF231M 休講	2年			
	データベース	2学期	2	2	
	INF232M 休講	2年			
	Webプログラミング		2	2	
	INF212M 休講	2年			
	情報ネットワーク	1学期	3	2	
	INF320M 休講	3年			
	システム分析	1学期	3	2	507
	INF340M 平山 克己	3年			
	システム設計		3	2	
	INF420M 休講	3年			
	企業データ分析		3	2	
	INF341M 休講	3年			
	経営数学		3	2	
	MTH350M 休講	3年			
簿記論III		2	2		
ACC210M 休講	2年				
工業簿記		2	2		
ACC211M 休講	2年				
原価計算論I		2	2		
ACC212M 休講	2年				
原価計算論II		2	2		
ACC213M 休講	2年				
財務会計論I	1学期	2	2		
ACC214M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■専門教育科目 ■選択科目A	財務会計論II		2	2		
	ACC215M 休講	2年				
	会計監査論		2	2		
	ACC216M 休講	2年				
	税務会計		3	2		
	ACC310M 休講	3年				
	管理会計論		3	2		
	ACC311M 休講	3年				
	国際会計論		3	2		
	ACC312M 休講	3年				
	情報会計		3	2		
	ACC313M 休講	3年				
	経営分析		3	2		
	ACC400M 閉講	3年				
	会社法I		1学期	3	2	508
	LAW270M 高橋 衛	3年				
	会社法II		2学期	3	2	509
	LAW271M 高橋 衛	3年				
	業界研究I		3	2		
	CAR310M 休講	3年				
業界研究II		3	2			
CAR380M 休講	3年					
経営学特殊講義A		3	2			
BUS390M 休講	3年					
経営学特殊講義B		3	2			
BUS391M 休講	3年					
外書講読		3	2			
SEM390M 休講	3年					
ビジネス英語A		3	2			
ENG331M 休講	3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	ビジネス英語B		3	2	
	ENG332M 休講	3年			
■選択科目B	金融論I	1学期	2	2	510
	ECN260M 後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	511
	ECN261M 後藤 尚久	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	512
	ECN240M 末永 勝昭	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	513
	ECN241M 末永 勝昭	2年			
	公共経済学		2	2	
	ECN262M 休講	2年			
	ファイナンス論		3	2	
	ECN360M 休講	3年			
	環境経済学	2学期	3	2	514
	ECN340M 牛房 義明	3年			
	財政学I	1学期	3	2	
	ECN361M 休講	3年			
	財政学II	2学期	3	2	
	ECN362M 休講	3年			
	産業組織論I		3	2	
	ECN341M 休講	3年			
産業組織論II		3	2		
ECN342M 休講	3年				
労働経済学I		3	2		
ECN343M 休講	3年				
労働経済学II		3	2		
ECN344M 休講	3年				
国際貿易論I		3	2		
ECN345M 休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	国際貿易論II		3	2	
	ECN346M 休講	3年			
	国際マクロ経済学I		3	2	
	ECN310M 休講	3年			
	国際マクロ経済学II		3	2	
	ECN311M 休講	3年			
	経済地理学I	1学期	2	2	515
	ECN242M 杉浦 勝章	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	516
	ECN243M 柳井 雅人	2年			
	地域経済I	1学期	2	2	517
	ECN244M 田村 大樹	2年			
	地域経済II	2学期	2	2	518
	ECN245M 杉浦 勝章	2年			
	地域政策		2	2	
	ECN250M 休講	2年			
	北九州経済分析I		2	2	
	ECN251M 休講	2年			
	北九州経済分析II		2	2	
	ECN252M 休講	2年			
地方財政論		3	2		
ECN365M 休講	3年				
経済学特殊講義A		3	2		
ECN301M 休講	3年				
経済学特殊講義B		3	2		
ECN302M 休講	3年				
情報公開・個人情報保護法		3	2		
LAW322M 休講	3年				
労使関係法		2	2		
LAW241M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	雇用関係法		2	2	2年
	LAW240M 休講				
	社会サービス法		2	2	2年
	LAW242M 休講				
	所得保障法		2	2	2年
	LAW243M 休講				
	独占禁止法		3	2	3年
	LAW340M 休講				
	知的財産法		3	2	3年
	LAW341M 休講				
	国際法I	1学期	2	2	2年
	LAW250M 休講				
	国際法II	2学期	2	2	2年
	LAW251M 休講				
	民法総則		1	4	1年
	LAW160M 休講				
	企業取引法I		2	2	2年
	LAW272M 休講				
	企業取引法II		3	2	3年
	LAW372M 休講				
企業活動と法		2	2	2年	
LAW273M 休講					
企業法の現代的展開		3	2	3年	
LAW371M 休講					
証券市場と法		3	2	3年	
LAW370M 休講					
都市経済論		1	2	1年	
PLC113M 休講					
行政学		1	2	1年	
PAD100M 休講					

経済学部 経営情報学科 (2015年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	都市経営論		2	2	
	PAD213M	休講	2年		
	都市政策論		2	2	
	PLC219M	休講	2年		
	ビジネス英語研究		3	2	
	ENG232M	閉講	3年		
	Advanced English I		4	2	
	ENG353M	未開講	4年		
	Advanced English II		4	2	
	ENG354M	未開講	4年		

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。
本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代に至るまでの家族・親族関係の変容

第4回 伝統的社会における親族関係

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教紛争と日常の中の宗教

第12回 不幸への対処としての呪術

第13回 中間テストの解説

第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 政教分離と世俗化

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート 40%、期末レポート 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- E・フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の変容(1)【高度産業社会】
- 5回 生活世界の変容(2)【テクネーの美】
- 6回 生活世界の変容(3)【複製技術と政治】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容(4)【全体主義と思考能力・前半】
- 9回 生活世界の変容(5)【全体主義と思考能力・後半】
- 10回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説・前半】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャ概説・後半】
- 13回 公私の区別とその起源(3)【古代ギリシャの公と私】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(1)【寛容の概念】
- 15回 宗教の私事性と公的領域(2)【衝突と共生】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと（例年2～3割の受講者が不合格となっている）。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。板書した内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			日本の防衛	PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障と防衛(1)
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第3回 安全保障と防衛(2)
安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、遺伝子や生物の多様性と進化、それに影響を与えてきた生命を取り巻く環境について広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高・中尾)
- 2回 ミクロとマクロの世界(日高・中尾)【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質(中尾)【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち(日高)【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞(日高)【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ(日高)【地球環境の変化と生物】
- 7回 生物の分類と系統(日高)【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性(日高)【有性生殖】【減数分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前(日高)【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線(日高)【放射性同位元素】
- 11回 科学と似非科学(日高・中尾)【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境(中尾)【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源(日高)【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 映画鑑賞(日高)
- 15回 質疑応答とまとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・小テスト 40%
期末テスト 60%

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -干潟の仕組み-
- 第3回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -海はだれのものか-
- 第4回 伝統的な農村部の生活と自然環境
- 第5回 農業の環境保全的機能と大規模集約型農業について
- 第6回 農業の可能性と第6次産業化
- 第7回 山を守る人々 -守るために利用すること-
- 第8回 森林を焼き払う農業 -焼き畑農業は環境保全的か-
- 第9回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります)
- 第10回 日本人における自然観の変遷と考え方 -環境倫理-
- 第11回 生物多様性と日本の草原
- 第12回 国際的枠組み -SATOYAMAイニシアティブの取り組み-
- 第13回 食物連鎖と地域内物質循環
- 第14回 なぜ環境問題は生じるのか -レポート試験の実施- (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括と復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
不定期に何回か実施する試験(レポート試験含む)：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境問題概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
可能性としての歴史 HIS200F			

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「15年戦争」史
- 3回 「中国革命」と日本の対応【山東出兵】【張作霖】
- 4回 満州事変【石原莞爾】【満蒙領有論】【関東軍】
- 5回 第一次上海事変と政党内閣の崩壊【朝鮮独立問題】【「満州国」】
- 6回 2・26事件と日中戦争への道【高橋是清】
- 7回 日中戦争【第二次上海事変】【ドイツ】【近衛文麿】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【ナチス・ドイツ】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
- 10回 第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
- 12回 太平洋戦争1【真珠湾攻撃】【ミッドウェイ海戦】【東条英機】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身に付けることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半は私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考がちな身体に関する文化についての講義を行い、文化を理解することについて考察を深める。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々 / 第1部 まとめ

第10回 中間テスト

第II部 他者の内側

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識

第12回 身体の近代化

第13回 中間テストの解説

第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体

第15回 癒しの多様性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト30%、期末テスト70%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

共生社会論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの身体観1【プラトン】
- 3回 古代ギリシャの身体観2【ソポクレス】
- 4回 古代ギリシャの身体観3【通時的概観】
- 5回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 6回 身体の変容と限界1【夢と現実のあいだ】
- 7回 身体の変容と限界2【身体表現の可能性】
- 8回 身体の変容と限界3【排除される身体】
- 9回 身体・家族・社会1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会3【差別される身体】
- 12回 身体・家族・社会4【シミュレーバー症例】
- 13回 身体のポリティクス1【全体主義】
- 14回 身体のポリティクス2【統制される身体】
- 15回 身体のポリティクス3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。
「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

共同体と身体 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期末テストは授業範囲すべてに関わるものであり、比較的密度の濃い内容となる。そのため、当たり前のことだが、休めば休むほど成績上不利になる。単位取得のためには、かなりの努力と忍耐力が求められるだろう。卒業予定の4年生に対しても、同じく厳しい採点態度で臨むので、受講にあたってはこの点を十分に熟考しておくこと。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサビエンスと戦争の起源(1)
- 第3回 ホモサビエンスと戦争の起源(2)
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。ただし、「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命科学と社会【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学とはどのようなもので、我々の生活をどのように変えてきたのだろうか。また、人間が遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのだろうか。本講義では人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の歴史1【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の歴史2【タンパク質】
- 4回 生命科学の歴史3【ヒトゲノム計画】
- 5回 遺伝子操作と遺伝子組換え作物【カルタヘナ法】
- 6回 DNA鑑定とその限界【PCR】【足利事件】
- 7回 食品と医薬品【生物資源】【医薬品】
- 8回 先端医療と生命科学【分子標的薬】
- 9回 人体と放射線(外部講師)【確率的影響】【がん】
- 10回 モデル生物と人間(外部講師)【動物愛護】
- 11回 運命と遺伝子【遺伝子診断】【出生前診断】
- 12回 生命科学と家族(神原)【遺伝的つながり】
- 13回 ニュースの話題より【ノーベル賞】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題(小テスト含む) 40%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師（放射線基礎医学等）および基盤教育センター・神原ゆうこ（文化人類学）とともに、さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。基礎部分をより体系的に学びたい者は2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

情報社会を読む【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】【GPS】
- 3回 演習1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 ソーシャルメディアがもたらすコミュニケーションの変化と集合知 【SNS】【ミニブログ】
- 5回 ソーシャルメディアを利用したビジネスモデル 【ソーシャルコマース】
- 6回 演習2：ソーシャルメディアを利用した未来のサービスを読む
- 7回 「雲」の向こう側にある情報 【クラウドコンピューティング】【データセンター】【共有】
- 8回 全てがインターネットに接続されると何が起きるか【IoT】
- 9回 カメラは何を認識できるか 【画像処理】【画像認識】
- 10回 個人を特定できるコンピュータとその危険性 【顔画像認証】
- 11回 演習3：クラウドコンピューティング・画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 12回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 13回 近未来の入力装置 【モーション操作】
- 14回 演習4：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
- 15回 まとめ

情報社会を読む【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 50%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 40%、レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術のある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループワークを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
		地域資源管理論	
		ENV200F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。

本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。

- ①東京都国立市の国立マンション訴訟 - まちの景観を住民は守ることができるのか -
- ②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
- ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 - まちづくり会社 (TMO) の役割と権利の集約 -

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木龍也, 富野暉一郎編著 (2006) 『コモンズ論再考』 晃洋書房
- 角谷 嘉則著 (2009) 『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』 創成社

地域資源管理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 資源とは何か？
- 第3回 地域資源管理のための最も望ましい形とは？

- 第4回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 - まちの景観を住民は守ることができるのか -
 :なぜこの問題が起きたのか？(問題背景)
- 第5回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 : 法的な解釈と住民たちの意識とのズレについて
- 第6回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 : 問題解決に向けた新たな法制度の提案
- 第7回 ①地域資源管理における都市エリアの特徴 - 流動性の観点から -

- 第8回 ②地域資源を生かした地域活性化策 - フットパスの取り組み -
- 第9回 ②フットパスとオルレの特徴 - 九州における歩く文化の創造と法的権利 -
- 第10回 ②フットパスの実践家を招いたフットパス講義

- 第11回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 - まちづくり会社(TMO)の役割と権利の集約 - :問題の背景
- 第12回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 「まちづくり三法」と「まちづくり会社の役割」について
- 第13回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 伝統的文化である「長浜曳山祭り」の継承という役割
- 第14回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 新たな課題の出現とその解決策の提示

- 第15回 総括と復習

成績評価の方法 /Assessment Method

専門的知識の習得度(試験やレポートで確認): 80%
 授業への積極的参加姿勢や貢献度: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話(判例)や法律の話に言及する機会が多々ある。平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作ってもらいます。
小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：

本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、近年話題となった文庫を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

松田美佐2014『うわさとは何か』中公新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編)2009『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマのを見つけかた
- 第9回 レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・ 第1回の授業は必ず出席してください。
- ・ 教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・ レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』(1)
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』(2)
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』(3)
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』(4)
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める(1) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める(2) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる(1) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる(2) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジユメを準備すること。
レジユメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジユメの作成方法については授業中に説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジユメを精読してのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジユメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。
なお、本基礎演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養ってきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習(1)
- 13回 キャンプ実習(2)
- 14回 キャンプ実習(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永)と同時期に実施をします。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

教養基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定回に着用しての受講となります。
クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修（ホスピタリティ/サービス実践等）を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：

教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い（＝評価される）レポートが書けることは違います。本演習では、教養基礎演習Iの受講者の問題関心に近いテキストを輪読し、ディスカッションを通して、各自のテーマをさらに掘り下げることを通して課題発見能力を養います。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度度のレポートを書くことを目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習に候補の本をいくつか持っていき、出席者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

教養基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
※レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートはとりあえず書けるけれど、いい(評価される)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当・高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
 - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的社会調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題(レポート)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来） 20%
専門的基礎知識の理解度 30%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等へ赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内から離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人との協調や、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 スキー実習についての講義 (1) (場所の選定)
- 1 3回 スキー実習についての講義 (2) (スキーの安全面)
- 1 4回 スキー実習についての講義 (3) (スキー技術)
- 1 1回 スキー実習についての講義 (4) (スキー実習について)
- 1 2回 スキー実習 (1)
- 1 3回 スキー実習 (2)
- 1 4回 スキー実習 (3)
- 1 5回 スキー実習 (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習の参加を義務付け）... 80% レポート... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。
なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

民族問題・多文化との共生について考える：

本演習では、民族問題や多文化の共生に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて民族問題や多文化の共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
(候補：塩川伸明『民族とネイション』、塩原良和『共に生きる』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の講義で学生の関心が高い「民族」に関する問題をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、共生

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 A II」とセットで履修することを希望します。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1年次までに生物を学んでいることが望ましい。
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」や「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 2学期 /Class Format 演習 / クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習II（担当：徳永、高西）と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1年次までに生物を学んでいることが望ましい。
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①社会科教育法AまたはC，もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD，もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。
小林担当の「教養演習 AI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / Semester 2学期 / Class Format 演習 / Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

宗教と文化について考える：

本演習では、現代世界の宗教と文化に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教と文化に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストについて各自批判的によみ、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界の宗教と文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「異文化理解の基礎（人間と文化）」で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、宗教性

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AⅠの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーⅠ(教養基礎演習Ⅰ、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ)を受講した者に限られる。「Ⅰ」を受講しないで、「Ⅱ」だけ受講することはできない。詳細は、「Ⅰ」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題 (論文) ...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1) 文献概要、(2) 内容要約、(3) 論点整理、(4) 議論を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 10 回 読解と議論 9
- 11 回 読解と議論 10
- 12 回 読解と議論 11
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%
(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 15 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
活動への参加度50%
活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校あるいは2年次までに生物を学んでいることが望ましい。
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。
小林担当の「教養演習 AI・AII」「教養演習 BII」とセットで履修することを希望します。
AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

民族問題・多文化との共生について考える：

本演習では、民族問題や多文化の共生に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて民族問題や多文化の共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
(候補：塩川伸明『民族とネイション』、塩原良和『共に生きる』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の講義で学生の関心が高い「民族」に関する問題をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、共生

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

BI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。
なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務） ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習Ⅱ(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
第11回・12回：活動報告
第13回・14回：振り返り学習
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
活動への参加度50%
活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1)
- 3回 基本的事項の確認 (2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 40% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 40%、課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校あるいは2年次までに生物を学んでいることが望ましい。
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。
小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

宗教と文化について考える：

本演習では、現代世界の宗教と文化に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教と文化に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストについて各自批判的によみ、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界の宗教と文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

教養演習BⅡ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「異文化理解の基礎（人間と文化）」で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、宗教性

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BII
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題（論文）...70%

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1) 文献概要、(2) 内容要約、(3) 論点整理、(4) 議論を記したレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 10 回 読解と議論 9
- 11 回 読解と議論 10
- 12 回 読解と議論 11
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%
(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 15 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

教養演習 B II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①教育実習 1 を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科, 木下 靖子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を越えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENV002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

とくになし。適宜、参考文献を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 木下
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラワーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 人類学のフィールドから
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 山と自然学

成績評価の方法 /Assessment Method

- (木下)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
- 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
- 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目：まとめと演習

地球の生いたち【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館見学（1）ー博物館を楽しもう
- 3回 二次的自然と哺乳類（馬場）【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 4回 アンモナイトの古生物学（御前）【化石】【進化】【古生態】
- 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）【絶滅危惧】【生物多様性】
- 6回 ヒスイが語る地下深部の世界（森）【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 7回 アラビアの砂漠に棲む生き物たち（山根）【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 8回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）【化石】【生命史】【絶滅】
- 9回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 10回 深海生物ーその形と適応的意義ー（下村）【深海】
- 11回 昆虫の多様性と進化（葦島）【分類】【学名】
- 12回 森の移り変わりを考える（真鍋）【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 13回 化石が語る魚類の進化（藪本）【魚類化石】
- 14回 自然史博物館見学（2）ー課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。
授業への参加（授業中の課題）10%、期末レポート60%、期末テスト30%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1回目の博物館見学は10月4日(日)、2回目は12月～1月のいずれかの日曜日を予定しています(変更の場合は掲示します)。
授業スケジュールについての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		くらしと化学	
		CHM001F	

授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民は其中で、身近な問題での科学・技術情報の開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、科学・技術分野への一定の興味と基礎的な化学知識を必要とされます。

そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、自然界の現象で重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子の構造の関係を学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質と身近な問題との関わりを、生活に必要な生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境に影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

教科書 /Textbooks

芝原 寛泰、後藤景子：「身の回りから見た化学の基礎」：化学同人：2010/6/3015：¥1800+税：ISBN978-4-7598-1292-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）2200円、ISBN 978-4-621-04227-4

「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著(丸善) ¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として

○「沈黙の春」R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）

○「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

くらしと化学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 1章 化学ってなんだ? -化学の基本事項+補足
- 2) 14章 物質は自在に変わる -固・液・気の化学
- 3) 5章 もっとも身近でもっとも不思議な物質 -水の化学と(水の浄化・省く)
- 4) 2章 真水・お酢・石けん水の違って? -酸性・塩基性の化学, 石けんは4章
- 5) 8章 生活を彩る驚異の粒子 -コロイドの化学
- 6) 4章 環境にやさしい洗濯を -洗濯の化学
- 8) 12章 電気パワーが社会を明るくする -電池の化学
- 9) 6章 生活材料今昔物語 -プラスチックの化学
- 10) 7章 お料理は化学実験 -料理の化学 発酵 補足事項: 核酸、脂質
- 11) 9章 化学の力で命を守る -薬の化学
- 12) 15章 化学は未来をひらく -環境と調和する化学
- 13) 補足プリント、放射能・原子力
- 14) 補足プリント、放射能・原子力
- 15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な理解を確認するミニレポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくといい。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師, 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
		現代人のこころ	
		PSY003F	

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

現代人のこころ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 やればできる？成長する考え方と成長できない考え方はどう違うのか？
【動機づけ】【マインドセット】
- 第6回 その気にさせる心理学
【動機付け】【動因】【誘因】【フィードバック】
- 第7回 コミュニケーションとは？
【認知】【スキーマ】【メンタルモデル】
- 第8回 わかりやすい文章作成，勝てるプレゼンテーション
【影響力】【説得】【社会的認知】
- 第9回 人づき合いの技術
【社会的スキル】【アサーション】【報告コミュニケーション】
- 第10回 三人寄れば文殊の知恵？船頭多くして船山に登る？
【集団討議】【集団思考】【創造性】
- 第11回 組織を動かす心理学
【リーダーシップ】【リスクマネジメント】【レジリエンス】
- 第12回 ストレスは人生のスパイス
【ストレス理論】【ストレスマネジメント】【ソーシャルサポート】
- 第13回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第14回 感情はコントロールできるか？
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。
【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第15回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。
【積極的傾聴法】【私メッセージ】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・75% (範囲：第2～12回)
課題 (レポート)・・・25% (範囲：第13～15回)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と生命【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年(NHK出版新書)819円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 細胞とその構成成分【糖】【脂質】
- 3回 生命活動の主役・タンパク質【タンパク質】【アミノ酸】
- 4回 遺伝子とは何をするもの【核酸】【DNA】
- 5回 遺伝子が働くしくみ【RNA】【遺伝子の発現】
- 6回 遺伝子でどこまで決まるか【ゲノム】【体質】
- 7回 体はどのように作られるか【発生】【細胞の分化】
- 8回 細胞はどのように増えるか【細胞分裂】【細胞周期】
- 9回 細胞と個体の寿命【染色体】【テロメア】
- 10回 細胞のコミュニケーション【受容体】【シグナル】
- 11回 細胞社会の反逆者【がん遺伝子】
- 12回 万能細胞とは何か【ES細胞】【iPS細胞】
- 13回 体を守るしくみ【ウイルス】【抗体】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題 40%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力	
		環境都市としての北九州
		ENW001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2014年 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学①～環境ミュージアム
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 10回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 11回 環境首都検定に向けて・小テスト(日高)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 社会が求める環境人材とは(外部講師)
- 14回 学生による環境問題への取り組み
- 15回 施設見学②～各自で実施

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。
環境首都検定の成績(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(20%)、授業への参加・授業中の課題など(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境都市としての北九州【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 環境首都検定は12月13日(日)の予定。
- ・ 施設見学①は11月15日(日)に北九州市環境ミュージアムを見学する予定。
- ・ 施設見学②は各自で都合の良い日を選んで関連施設を見学すること。尚、9月30日(水)にエコタウンバスツアーを予定しているが、こちらへの参加を以て施設見学②に当てることができる。事前に申込が必要なので掲示物に注意すること。
- ・ スケジュールは変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
- ・ 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

キーワード /Keywords

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 龍 有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~), 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19~)
鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~), 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科
泉 政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19~), 吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~)
松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科, 佐藤 敬 / Takashi SATOH / 情報システム工学科 (19~)
佐藤 雅之 / Masayuki SATO / 情報システム工学科 (19~), 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)
城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~)
櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)
森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		
			未来を創る環境技術
			ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会における環境技術の役割
- 第2回：バイオ燃料の製造技術
- 第3回：放射性物質の危険度
- 第4回：未来の環境分析
- 第5回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その1・燃料電池）
- 第6回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その2・エンジン、次世代発電システム）
- 第7回：環境に配慮した高精度高効率な精密加工法・最適設計法について
- 第8回：無人航空機システム～空から豊かで安全・安心な環境を創る～
- 第9回：ユニバーサルデザイン～人間の多様性に配慮した生活環境の設計～
- 第10回目：環境に配慮する建築デザイン
- 第11回目：地震の多い日本で安全な建物をつくり長く使うための技術
- 第12回目：都市・建築における省エネルギー・自然エネルギー利用と環境技術
- 第13回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生み出すバイオテクノロジー
- 第14回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について
- 第15回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 20%
- レポートおよび小テスト30%
- 期末課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にも目を通すようにすること。
- 私語をしないこと。 ノートはこまめにとること。
- 都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

- 環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

私たちと宗教 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 宗教の諸類型
- 4回 宗教の構成要素
- 5回 一神教について1（ユダヤ教）
- 6回 一神教について2（キリスト教とイスラム教）
- 7回 一神教について2（一神教の論理）
- 8回 仏教について1（インド仏教と日本仏教）
- 9回 仏教について2（中国の宗教と中国仏教）
- 10回 仏教について3（日本仏教の諸宗派）
- 11回 仏教について4（日本仏教の祖先崇拝・本覚思想）
- 12回 神道について1（日本の神と祭り）
- 13回 神道について2（神道の成立）
- 14回 神道について3（神仏習合）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 平常の学習状況... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

私たちと宗教【昼】

履修上の注意 /Remarks

事前に配布した資料については下読みしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教、ユダヤ教、キリスト教、仏教、神道

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

今年度は、サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、精神分析・音楽・文学・映画・倫理等のジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通してユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点(1)【概説】
- 3回 ユダヤ人の原点(2)【トーラー信仰】
- 4回 ユダヤ人の歴史(1)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(2)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(3)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 11回 文学の思想【カフカ】
- 12回 倫理の思想【ヨナス】
- 13回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・前半】
- 14回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・後半】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 期末テスト...60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第7回に確認テスト（第3回～第6回が試験範囲）を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。同じ原則は卒業予定の4年生に対しても等しく適用される。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
			文化と表象
			MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文化と表象【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師
平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。
それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』（講談社現代新書）
佐々木健一『美学への招待』（中公新書）
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』（フィルムアート社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品のコンテクスト
- 3回 芸術作品に見るジェンダー１：国内の事例
- 4回 芸術作品に見るジェンダー２：海外の事例
- 5回 カワイイ文化と社会
- 6回 メイクと社会
- 7回 サブカルチャーと社会
- 8回 芸術とリアリティ
- 9回 引き算の美・足し算の美
- 10回 芸術と生活
- 11回 芸術の力×権力×暴力
- 12回 芸術と教育
- 13回 芸術と宗教
- 14回 北九州アートシーン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題（生命倫理と法）]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちには民主主義が当たり前のルールになっているかもしれませんが、しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 古代ギリシアの民主制

第3回 近代デモクラシーの基礎① 【秩序か権利か：ホブズとロック】

第4回 近代デモクラシーの基礎② 【一般意志と同調圧力：ルソーとトクヴィル】

第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【日本への輸入：福澤諭吉と中江兆民】

第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】 【ラディカル・デモクラシー】

第7回 現代日本の民主主義理論① 【集合行為問題・境界線の政治学】

第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】

第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】 【権威主義体制】 【全体主義体制】

第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】 【対立理論】 【ポピュリストモデル】

第11回 民主政治の形成と崩壊③ 【調和理論】 【民主化支援】

第12回 民主主義と有権者① 【政治参加】 【エリート民主主義】 【参加民主主義】

第13回 民主主義と有権者② 【政治的有効性感覚】

第14回 民主主義と有権者③ 【シティズンシップ教育】

第15回 民主主義と議会【代表・立法・審議・行政監視機能】 【二院制】 【ねじれ国会】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (80%)、講義への参加態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

民主主義とは何か 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、階層と社会移動、社会的排除、グローバル化、排外主義等を予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1：集合意識と行為
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2：『自殺論』
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1：理解社会学
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - フロム1：『自由からの逃走』
- 第9回 現代社会の解説1 - 階層と社会移動
- 第10回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除
- 第11回 現代社会の解説3 - 子どもの貧困
- 第12回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展
- 第13回 現代社会の解説5 - エスニシティ
- 第14回 現代社会の解説6 - ナショナリズムと排外主義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題...15% 期末試験...85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

社会学的思考 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえると嬉しいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、理解社会学、社会階層、社会移動、社会的排除、貧困、グローバル化、エスニシティ、排外主義

政治のなかの文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			政治のなかの文化
			ANT001F

授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代国家的な政治体制や経済体制が世界中に共有される以前から、さまざまな共同体において統治の方法があったし（これもまた文化のひとつである）、近代国家的な制度が共有されるようになって、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、概念を問いかえすことが目的である。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』NTT出版
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
- 本多俊和ほか編2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入/グローバル化の時代と文化
- 第2回 理念の土着化は可能か？
- 第3回 伝統社会のなかの政治の始まり
- 第4回 互酬と社会
- 第5回 伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
- 第6回 価値観と文化
- 第7回 資本主義への対抗
- 第8回 中間テスト
- 第9回 政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
- 第10回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
- 第11回 開発の現場における文化と公共性
- 第12回 中間テストの解説
- 第13回 地域通貨の可能性とコミュニティの現在
- 第14回 「求められる市民参加」の時代
- 第15回 公共性と文化

政治のなかの文化【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト30%、期末テスト70%
※そのほか講義への貢献を平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。このほか適宜授業への積極的参加を加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目I「異文化理解の基礎」やビジョン科目II「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生は、授業の理解度が高まります。

キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、互酬性、国家

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			人権論
			SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。
私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学 SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 今泉 恵子 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 高橋 衛 / 法律学科
 植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 中村 英樹 / 法律学科
 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共生の作法
			LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(高橋)
- 第2回 法と道徳について(重松)
- 第3回 障害のある人の権利—日本国憲法から(植木)
- 第4回 生命の「自己決定」権?(中村)
- 第5回 行政活動と法治主義(福重)
- 第6回 犯罪とは何か(大杉)
- 第7回 刑事裁判とはなんだろう?(水野)
- 第8回 家族とは何か(小野)
- 第9回 契約とは何か(民法入門:契約の意義,種類,成立から終了まで)(福本)
- 第10回 商事(ビジネス)に関する法の特徴は何か(今泉)
- 第11回 民事訴訟とは何か(小池)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立,雇用関係の展開,雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 日本人の法・権利意識と歴史的基層(山口)

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポートによる(100%,④に注意)。
- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから,テーマを1つ選び,レポートを1本作成して提出すること。
 - ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
 - ③ レポートには,所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
 - ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は,レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲(テーマ群)が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲(テーマ群)は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'15』信山社(1,000円)をお勧めします。

法律の読み方 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成(1)
- 第6回 ワーディングと調査票の作成(2)
- 第7回 ワーディングと調査票の作成(3)
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データファイルの作成(実習)1
- 第11回 データファイルの作成(実習)2
- 第12回 分布と統計量
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題をきちんと提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という意識）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家の生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのようには振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。
また、レジユムも配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012年(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012年)(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の最新の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002、その他、この論争を紹介している最近の資料を紹介していく。

企業と社会【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらない」?
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語 【資本主義】【市民社会】【ブルジョア社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか 【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程 【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生・英国のケース 【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉 【剰余価値】【利潤】【公表利益】(【公開】【開示】)
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業 【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会そのものの脆弱性 【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場 【恐慌と危機】【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機・市場回帰の新自由主義の台頭 【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食・システム統合危機から社会統合危機へ 【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合・マーケットとその外側(生活世界) 【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻りに聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とした魔物(私達の社会的産物)にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。それというのも、私達の社会的産物そのものが、私達自身に刃向かってくるのだから。

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【ブラック企業】
 【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭利堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における人命の価値（6）【FLO】
- 9回 現代における差別の問題（1）【種差別の問題】
- 10回 現代における差別の問題（2）【種差別の諸相】
- 11回 現代における差別の問題（3）【工業化と経済格差】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【食糧問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【公平主義】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
現代社会と新聞ジャーナリズム			
SOC001F			

授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活動している記者やデスクなどの講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 追跡・振り込め詐欺 / 深刻化する高齢者への犯罪 (社会部記者)
- 第3回 九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 第4回 人口減少社会を追う / 超高齢者社会の先にあるもの (社会部記者)
- 第5回 デジタル時代の新聞 / 電子メディアへの挑戦 (q B i x 編集長)
- 第6回 ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第7回 アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (前中国総局長)
- 第8回 地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第9回 新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 第10回 スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第11回 分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 第12回 報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 第13回 働く現場とは / 企画「働く 生きる」を取材して (生活特報部記者)
- 第14回 戦後70年を迎えて / 国の安全保障を考える (社会部記者)
- 第15回 北九州の現場から / 半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (3 回) ・ ・ ・ 100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可 (D) とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、ネットなど多メディア時代における新聞の役割、価値について、少しでも理解を深めてくれれば幸いです。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー（メディアを読み解く力）

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域
			RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 【地域】 適宜文献や資料を紹介する。
- 【都市】 特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : 授業及び講師紹介
- 2回 地域 1 : 地域の概念：世界と日本の事例
- 3回 地域 2 : 地域をどのように学問するか：地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域間という考え方
- 5回 地域 4 : グループ討論：地域とはなにか？何が地域を規定するか？
- 6回 地域 5 : 地域事例紹介 1 (国内事例予定)
- 7回 地域 6 : 地域事例紹介 2 (海外事例予定)
- 8回 地域 7 : 課題レポート発表・討論
- 9回 都市 1 : 都市の概念
- 10回 都市 2 : 都市へ人や産業が集まる理由
- 11回 都市 3 : 都市問題、都市の衰退
- 12回 都市 4 : 今後の日本の都市のあり方を考える際に必要な視点
- 13回 都市 5 : 都市間の連携による政策推進
- 14回 都市 6 : 北九州の都市政策を考える (1) 【にぎわいづくり】
- 15回 都市 7 : 北九州の都市政策を考える (2) 【総合的な政策推進】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 【地域】 全体の50% : クイズ... 15% 授業内貢献... 10% レポート... 25%
- 【都市】 全体の50% : レポート... 35% 日常の授業への取り組み... 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

都市と地域【昼】

履修上の注意 /Remarks

【地域】前半の「地域」のどこかで数回、クイズ(小テスト)を行う(当日発表)。レポートは各自印刷の上、地域7の授業に持参し授業終了後の提出とする。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。

【都市】特になし。レポート提出方法等については授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。

【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い/悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ現状のようになっているのか」「今後どのように改善すべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市政策、にぎわい

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~) , 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19 ~)
 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19 ~) , 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 (2015年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。

地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。

さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中邨章、市川宏雄編著 (2014) : 危機管理学～社会運営とガバナンスのこれから、第一法規
 岡田恒男、土岐憲三(2006) : 地震防災のはなし、朝倉書店
 京都大学防災研究所編(2011) : 自然災害と防災の事典、丸善出版
 金吉晴(2006) : 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 危機管理と地域防災の基本概念 (北九大・南)
- 2 気象と地震 (北九州市危機管理室又は福岡管区气象台)
- 3 北九州市の防災体制と減災への取組み (北九州市危機管理室)
- 4 避難所運営訓練HUG (北九州市危機管理室)
- 5 防災と河川：降雨を安全に流すために (北九州市建設局)
- 6 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状 (北九州市消防局)
- 7 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み (北九州市教育委員会)
- 8 産官学連携による消防技術の革新 (北九大・上江洲)
- 9 都市防災：建物の耐震性とは何か (北九大・城戸)
- 10 組織の防災能力見える化：図上シミュレーション訓練 (北九大・加藤)
- 11 ジェンダーと防災：地域での実践 (北九大・二宮)
- 12 災害時のこころのケア (北九州市保健福祉局)
- 13 大学生にもできる防災：災害ボランティア活動 (地域共生教育センター)
- 14 地域協働によるまちづくり (外部講師)
- 15 人が死なない防災 (外部講師)

なお、最後の2時間分は、北九州市が主催する大学生を対象とした防災講座に合わせて実施。
(7月の土曜日に実施。小倉駅周辺の会場を予定。)

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義の一部でグループ活動を行うため、履修者数を80人までとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

- 第1回 山本 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国の海洋進出、南シナ海・東シナ海、シーレーン、アジア・リバランシング戦略
- 第3回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 開発協力大綱、防衛装備移転三原則
- 第4回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(1) 概論
- 第5回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(2) ミュージカル
- 第6回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(3) 演劇
- 第7回 三浦 国境を越える放送文化
- 第8回 下野 中国と民主化
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙
- 第12回 堀地 北京探索 - 悠久の歴史と再開発の現在 -
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(1) 東アジアとは何か、日本との経済関係
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(2) 東アジアの地域統合、九州との経済交流
- 第15回 山本 ヨーロッパの多国間主義と国際情勢

都合により、講義の順番を変えることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回) 100%

現代の国際情勢【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめると同時に		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回 韓国セウォル号沈没事件に見る韓国のガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回 セウォル号 問題の解決はどのようになされたのか？ 危機管理とガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第8回 韓国版水俣病の発現の実態		担当：ソンミンホ・三宅
第9回 健康被害を出さないための取組みはどこまで実施されているか？		担当：ソンミンホ・三宅
第10回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回 アメリカにおけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第12回 エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回 食品ロス削減運動に見るガバナンス	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回 まとめ～ガバナンスに関してのグループワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易 【比較優位】 【貿易保護】
- 3回 地域貿易協定 【FTA】 【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地 【人件費】 【為替レート】
- 6回 企業の国際展開(1) 【グローバル企業の類型】 【グローバル統合】 【ローカル適応】
- 7回 企業の国際展開(2) 【イノベーション】 【ブランド】
- 8回 グローバル化と人材① 【トヨタ生産方式】 【熟練】
- 9回 グローバル化と人材② 【マザー工場】 【人材育成】
- 10回 グローバル化と途上国の成長・発展 【開発経済】 【労働移動】
- 11回 グローバル化と先進国の経済 【格差】 【ジニ係数】
- 12回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】 【ダイバーシティ】 【世界同時情報共有】 【ネットワークキング】
- 13回 グローバル文化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】 【グローバル人事】
- 14回 バブルと国際金融危機 【バブル】 【不良債権】
- 15回 バブルと国際金融危機 【リーマンショック】 【証券化】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る 【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第5回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第6回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第7回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第8回 国連による平和の創出③：司法的解決 【国際司法裁判所（ICJ）】【法の支配】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第8回～第15回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
前半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、前半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)
がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争 【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治、大陸経営と国際関係 【三・一運動】【五・四運動】
- 6回 国際情勢の緊迫 【満州事変】【日中戦争】
- 7回 第二次世界大戦開戦から日本の敗戦へ【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 冷戦のはじまり 【日本占領】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習を行い、関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

韓国の社会と文化【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考え、それをグローバルなコミュニティに活かしてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国について概観
- 3 韓国の文学
- 4 韓国の歴史と政治
- 5 ハングルの誕生とその仕組み、韓国人の名字と名前
- 6 現代韓国社会の特徴 (外部講師)
- 7 韓国の公演文化と「韓流」について考える
- 8 遊び文化の過去と現在
- 9 韓国の食文化
- 10 知韓派日本人の見た韓国 (外部講師)
- 11 韓国の韓服
- 12 韓国の大学生とアルバイト
- 13 冠婚葬祭
- 14 異文化体験視点から日韓比較プレゼンテーション
- 15 まとめ

* 上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズ、進行状況などにより変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (ミニペーパーやプレゼンテーション) 40%
中間レポート 20%、期末試験 40%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 毎回のテーマについて「調べ」て「考え」ること。
- ・ 初回の授業には必ず出席する。
 - ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決する。
 - ・ 調べ事や発表等を積極的に行う。
 - ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは0点とする。
 - ・ グループで異文化理解のプレゼンテーションを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名
/Instructor

北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			エスニシティと多文化社会
			IRL001F

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 東南アジアの多文化社会とエスニシティ
- 3回 「本物・本質」探し：「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 4回 「独立か否か」：インドネシア・アチエの事例
- 5回 文明の「本場」と「周縁」：東南アジアの華人
- 6回 「想像の共同体」の読み方
- 7回 共存のための区切り
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念：るつぽとサラダ・ポウル
- 11回 黒人史と公民権運動
- 12回 マイノリティをめぐる政策：アファーマティブ・アクション
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人
- 14回 今日のエスニシティ状況：ヒスパニックと不法移民
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験（中間50%、期末50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 明治維新と国民国家
- 3回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 4回 新渡戸稲造の『武士道』
- 5回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 6回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 7回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 8回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 9回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 10回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 11回 「国語」とは何か
- 12回 網野善彦と日本史の多様性
- 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 14回 「桃太郎」と吉備王国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		歴史の読み方II	HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史の読み方II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			そのとき世界は	HIS002 F

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN (小林)
第2・3・4回 日本 (小林) 【バブル経済】、【昭和の終焉】
第5・6・7回 東南アジア (伊野) 【ビルマの民主化運動】
第8・9回 ドイツ (岩本) 【ベルリンの壁崩壊】 【ドイツ統一】
第10・11回 アメリカ (寺田) 【レーガン政権】
第12・13回 中国 (下野) 【天安門事件】
第14・15回 ポーランド (スピルマン) 【「連帯」運動】 【ソ連崩壊】
以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます（課題は別途指示。1,200字×2本）。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※講義の順番や担当者（地域）は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
			戦後の日本経済
			ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、「Japan as No 1」と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、「Japan as No 1」と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 I 現代社会の理想と現実
 - 1. とある研究者の履歴を事例として
- 第3回 2. 家族モデルを巡る理想と現実
- 第4回 3. 戦後家族モデルのルーツ
- 第5回 II 「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
 - 1. 日本の敗戦と人口問題
- 第6回 2. 「高度経済成長」の目的 - 「所得倍増計画」とその背景 -
- 第7回 3. 「高度経済成長」の要因 - 「人口ボーナス」 -
- 第8回 4. 「裏日本」の誕生 - 「高度経済成長」と人口流動 -
- 第9回 III 「エコノミックアニマル」の誕生
 - 1. 上昇志向の時代
- 第10回 2. 「勤勉」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
- 第11回 3. 「豊かさ」の象徴 - 「大衆消費社会」と家族 -
- 第12回 IV 現代社会と「豊かさ」
 - 1. 「バブル崩壊」
- 第13回 2. 新たな時代の人口問題
- 第14回 3. 「失われた20年」における「豊かさ」
- 第15回 総括

戦後の日本経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代 人口問題

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史
			HIS003 F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 デザイン、広告、クレジット【情報化社会】【大量消費システム】
- 第12回 自動車の社会的費用【宇沢弘文】、【社会的費用】
- 第13回 原発事故を考える【原子力産業】、【地域振興】
- 第14回 原子力発電所と社会【NPT】、【反原発運動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (既戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメイヤー・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだイギリス経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』(1869年)を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言える。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義 (山崎)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)

○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)

○中村彰彦『保科正之』(中公新書)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』(ミネルヴァ書房、2008年)

人物と時代の歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(1)

第5回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(2)

第6回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(1)

第7回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(2)

(山崎)

第8回 イギリスとはどんな国か

第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー

第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎

第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか一雇われ外国人たちを中心に

第12回 経済学の父、アダム・スミス『と国富論』とはどんな本か

第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』

第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・宗教・演劇・映画・音楽などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに内容を入れ替えており、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度と異なり、古代世界における道徳思想の展開に焦点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの道徳(1)【悲劇の誕生】
- 3回 古代ギリシャの道徳(2)【悲劇の生成】
- 4回 古代ギリシャの道徳(3)【道徳哲学の誕生】
- 5回 古代ギリシャの道徳(4)【道徳哲学の発展】
- 6回 古代ギリシャの道徳(5)【道徳哲学の完成】
- 7回 古代ローマの道徳
- 8回 古代ユダヤ教の道徳(1)【宗教民族史】
- 9回 古代ユダヤ教の道徳(2)【信仰の革新】
- 10回 ローマの中のユダヤ(1)【権力と隷属】
- 11回 ローマの中のユダヤ(2)【新時代の萌芽】
- 12回 古代キリスト教の道徳(1)【イエスからパウロへ】
- 13回 古代キリスト教の道徳(2)【新しい契約】
- 14回 古代キリスト教の道徳(3)【教義の生成】
- 15回 批判的総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

本講義の一部で扱うユダヤ思想の社会的背景と現代的展開については、同担当者によるテーマ科目「思想と現代」を受講すればより理解が深まるだろう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』（講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年）
- 小熊英二『「日本人」の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球と近世・近代のアジア
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体と樺太
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未滿の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、近年では経済成長も著しい。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの日本人に欠けている視点がある。歴史的な考察・分析といえる。
そこで、中国における古代文明の誕生から隋唐時代までの歴史について、とくに政治史上の展開、支配システムの変遷、東アジア（日本をふくむ）・北アジア・東南アジアなどとの国際関係を中心に講義する。本講義では、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義のガイダンス
 - 第2回：中国の歴史と日本－日中交流史－
 - 第3回：秦の始皇帝と皇帝制度－古代文明の誕生から中国統一まで－
 - 第4回：前漢前期－楚漢戦争と郡国制－
 - 第5回：前漢中期－漢帝国と匈奴－
 - 第6回：前漢後期－儒教と「古典的国制」－
 - 第7回：後漢前期－統一帝国の再建と漢委奴国王印－
 - 第8回：後漢中期－「後漢の平和」－
 - 第9回：後漢後期－漢帝国の滅亡－
 - 第10回：三国時代－『三国志』の実像と邪馬台国の卑弥呼－
 - 第11回：西晋時代－三国統一から新たな動乱へ－
 - 第12回：東晋南朝時代－江南における貴族制－
 - 第13回：五胡北朝時代－華北における諸民族－
 - 第14回：隋唐時代－隋唐世界帝国とその影響－
 - 第15回：唐宋変革－安史の乱と唐の滅亡－
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%
双方の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくにより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論：自然環境、産業、EU統合と分離の動き
- 第3回 欧米地誌(2) フランス地誌
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) イタリア地誌
- 第7回 欧米地誌(6) ベネルクス地誌
- 第8回 欧米地誌(7) アメリカ合衆国地誌
- 第9回 日本地誌(1) 日本の自然・人文環境
- 第10回 日本地誌(2) 近世城下町の変容
- 第11回 日本地誌(3) 塩田地域の変容
- 第12回 日本地誌(4) 軍事都市の変容
- 第13回 日本地誌(5) 炭鉱地域の変容
- 第14回 日本地誌(6) 工業都市の変容
- 第15回 日本地誌(7) 港湾都市の変容

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのたがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第3版)』(青林書院・2015年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論①(人権総論)
- 第4回 人権論②(人権享有主体)
- 第5回 人権論③(幸福追求権)
- 第6回 人権論④(平等原則)
- 第7回 人権論⑤(信教の自由)
- 第8回 人権論⑥(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権・権力分立)
- 第10回 統治機構②(日本の政治制度)
- 第11回 統治機構③(日本の選挙制度)
- 第12回 統治機構④(日本の裁判制度)
- 第13回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第14回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第15回 平和主義③(憲法9条と裁判所)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本国憲法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

特に必要なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
 - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
 - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
 - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
 - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
 - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
 - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
 - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルスII	PSY002F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）について、精神病理や心理学、そして社会福祉学の観点から考えていく科目です。まずは自己分析を通して、自らの可能性を感じ、自己肯定感を高めるための方法について考えていただきます。さらに、実際の事例などを紹介しながら、生きづらさを感じ、メンタルヘルスが壊れるとはどういう事なのかを考えていきます。そして、何よりも「助けて」と言えることの大切さや、「お互い様」の中での支え合いで社会が作られているということを少しでも理解していただきたいです。

教科書 /Textbooks

なし。
適宜、紹介をします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大平 健 (1995) 『やさしさの精神病理』岩波書店
春日 武彦 (2004) 『援助者必携 はじめての精神科』医学書院
他、適宜紹介をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、受講上の注意など。
- 2回 心理テキストに挑戦【自己分析】
- 3回 あるもの探し【ポジティブシンキング、ストレングス・パースペクティブ】
- 4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 10回 事例検討①【非行】
- 11回 事例検討②【虐待】
- 12回 事例検討③【ホームレス】
- 13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 14回 事例検討⑤【障害】
- 15回 助けてと言える力【受援力、援助力】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題の提出状況.....50%
定期試験.....50%

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中島俊介先生の後を受けて、2015(平成27)年度より担当することになりました。私の専門は社会福祉学ですが、できるだけ受講生にとって、癒しの場であったり、笑いの場であったり、あるいはこれから生きていく上で、少しでも楽になるヒントをお伝えすることができれば幸いです。

キーワード /Keywords

精神保健、心理学、社会福祉学、

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks
 授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウェイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか・被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. コミュニケーション【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
12. 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
15. 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
- ②外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室を禁止する。私語厳禁。
- ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
 - 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
 - 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
 - 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
 - 6回 サービスの基礎練習
 - 7回 ボレーの基礎練習
 - 8回 スマッシュの基礎練習
 - 9回 ルールの説明
 - 10回 戦術の説明・実践
 - 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
 - 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
 - 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
 - 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

●授業の概要（ねらい・テーマなど）

本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。労働政策研究・研修機構の調査（2013年）によると、若年者を採用する時に重視する資質として、「働くことへの熱意」（73.6%）、「積極性、チャレンジ精神、行動力」（62.0%）、「チームワーク」（52.5%）、「コミュニケーション能力」（51.7%）の順で高くなっており、特に「働くことへの熱意」「積極性、チャレンジ精神、行動力」「コミュニケーション能力」の割合が大きく増加しています。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動とは、以下の4つです。

1. いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
2. 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
3. 外へ出て視野を広げる
4. 失敗を恐れず挑戦して、振り返る

以上を理解するために、本授業は全てグループワークを通して実践をします。よって講義はほとんどありません。また、たくさんの先輩や社会人のゲストが登場します。目標となるかもしれない先輩や社会人（ロールモデル）との対話を通して、理解を深めてほしいからです。

まとめると、授業で実際に行動してみること、そしてロールモデルとの対話を通して、自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において実践して頂くことが目標です。最終授業では、以上の4つの行動を実践し、将来の見通しを具体的にし、叶えるために、どんな学生生活を過ごせばいいのかをプランしていただきます。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して持参してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の4つの行動：【1】いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける、【2】長いスパンで考えて、今しかできないことをする、【3】外へ出て視野を広げる、【4】失敗を恐れず挑戦して、振り返る

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 アイデンティティ(大学生だからできること)【1】【2】【3】【4】
- 3回 地域活動に挑戦する(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 4回 アクティブ・リスニング(傾聴)【1】
- 5回 働くということ(社会人登壇)【2】【3】【4】
- 6回 アイデンティティ(自分の長所を活かす)【1】
- 7回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 8回 アサーション・トレーニング(爽やかな自己表現)【1】
- 9回 将来の見通しを立てる(企業団体研究)【2】
- 10回 ダイアログ(対話)とワールドカフェ【1】
- 11回 リーダーシップ【1】
- 12回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 13回 就職活動を知る(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 14回 計画された偶発性とセレンディピティ【1】【2】【3】【4】
- 15回 まとめ&発表(将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および、小テストもしくは実践レポート、グループ発表の相互評価：75%
課題レポート(2回)：15%
最終レポート(相互評価)：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋先生の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違えて履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※1年生が優先的に受講できます。ただし、教室のキャパシティに余裕がある場合には、2、3、4年生も受講可能です。また、優先的に受講できる1年生であっても受講希望者が多数であれば、受講者数調整の対象になります。
※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)と合わせて全8コマあります。グループワークの運営上、可能な限り各コマ均等な数に調整するため、第1回の授業で希望するコマを確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

グローバル・リーダーシップ論【昼】

担当者名 /Instructor 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	グローバル社会の潮流を予測および的確に捉え、多様な文化・価値観をもつ人々と共に、仕事や人生のプロジェクトを成し遂げる力を養う。
	社会的責任・倫理観	●	グローバル（地球）およびローカル（地域）の視点から、文化・価値観の多様性を尊重し、社会と人間性の発展に貢献できる力をつける。
	生涯学習力	●	世界的な人的ネットワークを構築し、常に大局観をもって世界と地域でおこる出来事に関心を抱き、自らこれに積極的に関わっていく姿勢を養う。
	コミュニケーション力		
		グローバル・リーダーシップ論	CAR112F

授業の概要 /Course Description

世界そして日本に押し寄せるグローバル化の波が、皆さんの将来の就職先となる企業や各種団体、さらに皆さん個人の人生にどのような影響を与えるかを考察し、学生時代に何をしておくべきかのヒントを与えます。
また将来、皆さんが、多様な文化価値観をもつ人々が集まるグローバル社会の中で、リーダーシップを発揮し、活躍するための基本的な視点、心構え、能力、知識を習得します。

< 授業の進め方 >

「講師の話を一方的に聞いて、メモして覚える」のではなく「講師や仲間の話しを傾聴し、主体的かつ積極的に質問と発言をしながら考える」ことに重点を置きます。そのために、次の5つを取り混ぜたインタラクティブな（対話型）授業になります。

- ① 国際舞台で活躍する社会人の講演（国際事業・経営の体験談と皆さんへのメアドバイス等）
- ② 海外インターン（研修）をおこなった先輩の体験談や受入企業担当者の評価
- ③ ケーススタディ、ロールプレイ、ゲーム等
- ④ グループワーク（8名程度のグループで、調査、討議、レポート作成・提出、プレゼンテーション）
- ⑤ 個人ワーク（レポート作成・提出、プレゼンテーション）

教科書 /Textbooks

なし（適宜プリントを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『国際ビジネス入門1』（江夏健一・太田正孝・藤井健 編）中央経済社 ￥3,045
- 『採用基準』（伊賀泰代著）ダイヤモンド社 ￥1,575
- 『日本人こそ見直したい、世界が恋する日本の美德』（永田公彦著）ディスカバー出版 ￥1,050

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 グローバル展開に積極的な企業・団体の第一線で働く社会人の講演と補足講義で構成

（内訳） 社会人の講演（6回～リーダーシップ、国際ビジネス・経営に関する体験談と皆さんへのアドバイス）、講義（3回～グローバル事業経営の全体像、異文化マネジメントの基本概念、グローバルリーダーシップとの交流（1回～海外インターン体験）、グループワーク（3回～グローバル企業研究）の考察）、先輩

第15回 個人ワークと総括

グローバル・リーダーシップ論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業中の参加態度・・・70% (クラス出席時に記入・提出する習得レポート及び積極的な質問と発言)
- ② アサインメント・・・30% (グループワーク、個人ワーク)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業のルール (10箇条) ~ 「積極的に、聴いて、質問して、発言する」

①~⑤は国際社会では当たり前です。⑥~⑩は社会人として最低限のマナーです。

- ① アクティブリスニング (相手の意見にしっかり耳を傾け反応する)
- ② 積極的に質問する (質問は恥ではなく糧だ ~ 質問5個ルール)
- ③ 積極的に発言する (講義中やグループワーク時に、反論も含め自分の考えを発信する)
- ④ 授業に「出る」のではなく「参加する」
- ⑤ 答えは「人から知らされて覚える」のではなく「自分で考えてつくる」
- ⑥ 私語厳禁
- ⑦ 携帯電話メール厳禁 (マナーモードでバッグの中)
- ⑧ 脱帽 (事情がある場合は事前にご相談下さい)
- ⑨ 飲食は禁止 (事情がある場合は事前にご相談下さい)
- ⑩ 作業時間は守る

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の主役は皆さん、つまり皆さんががつくる皆さんのための授業です。講師は、そのための基本的な枠組みやヒントを与えサポートする脇役です。

キーワード /Keywords

リーダーシップ、グローバルビジネス、グローバル経営、ダイバーシティ、異文化マネジメント、主体的行動

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行） / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製薬所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

プロフェッショナルの仕事I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...90% 最終レポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。

※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			プロフェッショナルの仕事II
			CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる課題解決能力を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。

<進め方> 以下のスキームで地元企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、各チームで競います。

1. 地元企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる課題解決能力を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページおよび店舗訪問などして予習してください。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～4回 各企業団体による課題提示
- 第5回 課題解決の方法についての講義
- 第6～10回 中間発表
- 第11～15回 最終発表

※2014年度の企業団体と課題：

- 株式会社名門大洋フェリー：LCCの出現に伴い、新幹線の安価販売など、モード間競争が激化する旅客輸送マーケットにおいて、北九州市や福岡市民のフェリー乗船客を増やすにはどうすればいいのか？
- 株式会社朝日新聞 西部本社：北九州市立大学の入学予定者に送付する、同社購読を促進する小冊子の企画制作。
- 株式会社井筒屋：井筒屋が「人生の大切なイベントの時に行く場所・ファッションアドバイザー」である価値を、特に若年層に認知させるにはどうすればいいのか？
- 株式会社タカギ：同社製品「キモチイISHOWER」を賃貸住宅利用者に対して、「付け替えブーム」を起こすにはどうすればいいのか？
- 北九州市役所 産業経済局 食の魅力創造・発信室：本市の食による産業振興・まちづくりをさらに進展させるため、「本市の食の魅力は何か」「本市の食の認知度が低い要因は何か」「それを市内外に発信するためにどのような取り組みを行うべきか」などを、調査・研究し、今後、市が取り組みを進める上での提案・アイデア出しをしていただきたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業への取り組み（相互評価）・・・75%
- プレゼンテーションに対する評価（企業団体からの評価）・・・20%
- 最終レポート・・・5%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員（mitate@kitakyu-u.ac.jp）までメールで連絡をしてください。
- ※2年次前期に「プロフェッショナルの仕事1」を受講していることが望ましい。
- ※授業および、授業時間以外でのグループワークの参加が必須となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに、将来の見通しのヒントを得ることを願っています。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、職業統合的学習、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

地域の達人【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～13回 地域の達人によるお話
第14回 達人を振り返る
第15回 まとめ

【2014年度登壇者】

デザイナー兼地域イベントプロデューサー、地域のヒーローキャラクター、FMラジオナビゲーター、古民家再生などのまちづくりデザイナー、公務員でありながら若者向けファンドを立ち上げた人、ソーシャル系大学学長、教育改革を目指すNPO法人に大卒新卒で入社した人、演劇団体主宰、サラリーマンでありながらミュージシャン、障がい者自立支援NPO法人代表、スポーツ誌ライター・ジャーナリスト、カフェオーナー、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事がどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、

2015年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、主に以下の点をねらいとします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた、受講生の地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動への参加通じた学びの実践

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①
- 第3回目 サービスラーニング概論②
- 第4回目 地域活動概論① 地域活動の紹介
- 第5回目 地域活動概論② コミュニティワークの紹介と応用
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①(予定)
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②(予定)
- 第8回目 ボランティア活動の紹介
- 第9回目 ボランティア参加に向けて①
- 第10回目 ボランティア参加に向けて②
- 第11回目 事前報告①
- 第12回目 事前報告②
- 第13回目 事前研修①
- 第14回目 事前研修②
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前レポート(30点) + 講義中の課題(70点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本科目は、サービスラーニングへの実際の参加を前提をしています。
従って、自ら参加したいボランティア活動を探し、実際に参加してもらうことになります。
当然、単位もボランティアに参加する学生に対して与えられますので、この点、十分にご留意ください。
詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。
また、この講義は、基本的に第2学期開講の「サービスラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。
			サービスラーニング入門II
			CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この講義の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加しているボランティア活動の内容とそこでの学びを報告し、学生同士の議論を通じて、相互の学習を進めていきます。この講義を通じて多くの学びと気づきを得ることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 活動記録の方法
- 3 報告・ふりかえり・ディスカッション①【グループワーク①】
- 4 報告・ふりかえり・ディスカッション②【グループワーク②】
- 5 報告・ふりかえり・ディスカッション③【グループワーク③】
- 6 報告・ふりかえり・ディスカッション④【プロセスレコード作成】
- 7 報告・ふりかえり・ディスカッション⑤【プロセスレコードの発表】
- 8 報告・ふりかえり・ディスカッション⑥【活動の困りごと、課題の共有化】
- 9 報告・ふりかえり・ディスカッション⑦【課題の解決方法を考える】
- 10 報告・ふりかえり・ディスカッション⑧【体験のカタルシス】
- 11 報告・ふりかえり・ディスカッション⑨【活動報告作成】
- 12 報告・ふりかえり・ディスカッション⑩【活動報告のピアレビュー】
- 13 受講生によるシンポジウム①
- 14 受講生によるシンポジウム②
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加貢献 (50点) + 活動報告書 (50点) = 100点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本科目は、実際にボランティア活動に参加している、もしくは参加することを前提としています。
授業では、実際のボランティア活動に関する自らの経験を報告してもらうことになりますので、受講に当たっては、ボランティアに参加することを念頭に置いてください。

サービスラーニング入門II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は「サービスラーニング入門I」と連動していますので、先に受講することをお勧めします。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

プロジェクト演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習II	CAR281F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習IIの対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

プロジェクト演習II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
			プロジェクト演習Ⅲ
			CAR380F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習Ⅰの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

プロジェクト演習Ⅲ【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロジェクト演習Ⅳ	
		CAR381F	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習IIの対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (北九州市の観光振興) 【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市観光協会、基盤教育センター 眞銅和博

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

地域経済の活性化策としてどの地域も力を入れている観光振興。
本授業では、民間事業者や行政の様々な取組みや観光産業の現状、その他今後の方向性等を学習することによって、地域社会への貢献および観光振興に資する人材の育成を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市観光情報ファイル『彩遊季』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（オリエンテーション）【北九州市立大学】
- 第2回：北九州市の観光産業【北九州市観光協会】
- 第3回：旅行会社からみた観光の現状【JTB九州】
- 第4回：観光客と地元を繋ぐ【法政大学】
- 第5回：門司・小倉の観光地と歴史について【北九州市自然史・歴史博物館】
- 第6回：八幡・若松・戸畑の観光地と歴史について【北九州市立大学】
- 第7回：北九州市の観光動態と施策【北九州市観光・コンベンション課】
- 第8回：産業観光と夜型観光【北九州市観光・コンベンション課】
- 第9回：近代化遺産について【北九州市門司麦酒煉瓦館】
- 第10回：北九州市の主要観光地の視察【観光案内ボランティア】
- 第11回：北九州市の主要観光地の視察【観光案内ボランティア】
- 第12回：北九州市の文学について【北九州市立文学館】
- 第13回：北九州市フィルムコミッションの取組みについて【広報室報道課】
- 第14回：北九州市観光案内ボランティア制度、活動について【観光案内ボランティア、北九州市観光協会】
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：40%
- ・ 理解度確認テスト：30%
- ・ レポート：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養特講I (北九州市の観光振興) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は北九州市観光協会提供の講義です。近代化遺産や産業観光などの観光振興の推進に力を入れている北九州市の現状について学んでいただきます。将来旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域活性化などに興味がある人には最適です。

キーワード /Keywords

観光振興、人材育成、地域活動、横断的学習

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった＜関係性＞を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

教科書 /Textbooks

教科書はなし。
講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)
「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)
「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】【授業の進め方】【学習目標】【評価方法】
- 2回 ホスピタリティの歴史と文化 【ホスピタリティとは何か】【西洋のホスピタリティ文化】
- 3回 ホスピタリティとおもてなし 【東洋のホスピタリティ文化】【茶道】【仁】【おもてなし】
- 4回 ホスピタリティとサービスの語源と概念比較【ホスピタリティ】 【サービス】
- 5回 ホスピタリティ産業の現状(その1) 【近年の航空事業の動向】【接客現場】【国際線業務】
- 6回 ホスピタリティと心理1 【EQ】
- 7回 ホスピタリティと心理2 【交流分析】
- 8回 ホスピタリティとコミュニケーション1 【ラポール】【言語非言語】【空間管理】【スマイル】
- 9回 ホスピタリティとコミュニケーション2 【聴き方の基本】【効果的な話し方】【敬意表現】
- 10回 中間のまとめ
- 11回 ホスピタリティとビジネス1 【プロ意識】【身だしなみ】【人間関係】【電話やメール】
- 12回 ホスピタリティとビジネス2 【顧客心理】【クレーム対応】【CS】
- 13回 ホスピタリティ産業の現状(その2) 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 14回 ホスピタリティと企業1【職場環境】【内部顧客】【メンタルヘルス】【企業の社会的責任】
- 15回 ホスピタリティと企業2【企業の社会貢献】【ホスピタリティの意義と可能性】 【暗黙知と形式知】

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み 【①授業中に行う練習問題の取り組み ②中間のまとめ問題の提出】 50%

期末試験の成績 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1回目には、ｼﾞﾊﾞｽを持参のこと。

ホスピタリティを理解し、実践していくことを目的にしています。遅刻・途中退室・私語は慎んで下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知 コミュニケーション能力

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
本学教員と外部講師とによるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 ジェンダーチェック 【ジェンダー・バイアス】
- 3回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 4回 トランスジェンダー 【性同一性障害】 【性別違和】
- 5回 性的自立とリアリティ・ヘルス / ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 6回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 7回 セクシュアル・ハラスメント 【パワー・ハラスメント】 【アカデミック・ハラスメント】 【ホスピタル・ハラスメント】 【実習ハラスメント】
- 8回 デートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力とトラウマ 【PTSD】 【少年の性被害】 【強姦神話】
- 10回 トラウマの影響(「漂流少女」の事例を通して) 【二次被害】 【性依存】 【危機介入】
- 11回 性暴力裁判に見る二重基準(売春婦と主婦のケースから) 【フェミニスト・カウンセリング】
- 12回 メディアと性表現、性の商品化 【風俗営業法】 【児童買春・児童ポルノ禁止法】
- 13回 日本における公娼制度と売春の歴史 【からゆきさん】 【売春防止法】 【婦人保護施設】
- 14回 世界の売買春をめぐる動向 【セックスワーク】 【売春の合法化】 【性的自己決定】
- 15回 これまでの振り返り

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講Ⅲ (まなびと講座 A) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		教養特講Ⅲ	
		SPL003 F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とします。
また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いです。
この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当します。また、各大学からの受講生と一緒に学びます。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1日 5月17日(日)
～多様な価値観を感じる～【自分】
- 第2日 5月31日(日)
～地球は小さく偉い～【グローバル】
- 第3日 6月7日(日)
～みんなが住みやすい社会～【ローカル】
- 第4日 6月21日(日)
～「食べる」から自分を考える～【自分】
- 第5日 7月5日(日)
～微力だけど無力ではない私たちが考える「素敵な未来に向けての第一歩」～【アクション】
- ※各日程ともに10:30～16:00(休憩含む)で開講されます

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養特講Ⅲ (まなびと講座 A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション (小倉北区の魚町商店街内) 」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (まなびと講座B) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

【2014年度実績】

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等 - 九州工業大学提供
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ 国際理解 - 北九州市立大学提供
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ 誰もが住みやすい社会のデザイン - 西日本工業大学提供
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ 生物多様性から生命を学ぶ - 九州共立大学提供
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来 - 北九州市立大学提供

教養特講Ⅳ (まなびと講座B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 営 1 - 1 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 1 - 2 . 再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 1 - 3 . 再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
データ処理			
INF101F			

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 / 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報メディア演習
			INF330F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間に与える影響について考える力を身に付けることである。現代の情報社会では、様々な情報メディアが存在する。それらの情報メディアを通じて、情報が正確に伝わり、有効に活用される場合はよいが、逆に、誤って伝わったり、有害になったりする場合もある。様々な情報メディアの特性を十分に理解した上で、それらを受け入れ、不要・過剰な情報を制限し、有効活用し、効果的な情報を新しくつくるのが大切である。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 様々な情報メディアの特性に関する知識
- 情報メディアが人間の心理や認知、学習に与える影響（情報受信）
- 効果的な情報発信の方法（情報発信）
- 情報メディアの有効活用の方法（情報活用）
- 様々な情報メディアの課題点と解決策

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

坂元昂 監修、高橋秀明、山本博樹 編著：メディア心理学入門、学文社、2002年、2,592円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か 【ガイドンス】【情報メディア】
- 2回目：情報メディアと人間の心理 【情報発信】【情報受信】
- 3回目：情報メディアとしての絵本・紙芝居 【知的発達】【情緒的発達】
- 4回目：情報メディアとしてのマンガ 【文字と絵】【記号】【コマ割り】
- 5回目：議論1：絵本・紙芝居・マンガが人間の心理に与える影響
- 6回目：映像の理解と心理 【映像技法】
- 7回目：分かりやすい映像のデザイン 【つくるリテラシー】【映像表現】【撮影・編集技術】
- 8回目：インターネットと映像 【動画投稿サイト】
- 8回目：議論2：映像が人間の心理に与える影響
- 9回目：電話・テレビ電話とコミュニケーション 【情報伝達】【認知過程】
- 10回目：インターネットとコミュニケーション 【ミニブログ】【SNS】
- 11回目：議論3：情報メディアの違いがコミュニケーションに与える影響
- 12回目：情報メディアと感性 【感性工学】
- 13回目：使いやすいデザインと面白いデザイン 【エモーショナル・デザイン】
- 14回目：問題提起4：デザインが人間の心理に与える影響
- 15回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・50%、日常の授業に対する積極的な取り組み・・・40%、授業中に実施するグループワーク課題・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて、積極的に学習してもらいたい。分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。
また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

情報メディアと人間、コミュニケーション、認知、感性

英語I (営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ● 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	● 英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち特に「聴く・読む」力をTOEICテスト問題に取りくむ学習を通して向上させることにある。TOEICでは、リスニング100、リーディング100の計200題という多くの問題が出題されるが、その問題には、円滑なコミュニケーションを目的とした国際英語に必要な不可欠な「文法・語法・語彙・表現・発音」等の各項目の習熟度を総合的に測る内容が網羅されている。従って、多くのTOEIC問題に取り組むことは、英語運用力を身につける上で最も必要な知識を効率よく習得し、意識的に習得した知識が無意識にはたらく英語運用力養成への大きな助けとなる。授業で使用するテキストは、リーディング・リスニングそれぞれのパートに対応したTOEIC対策問題をドリル形式で日常的に取り組めるように配慮されている。また、テキスト終了後の英語習熟度到達レベルは(990点中)450~500に設定されている。当授業では、このリーディング・リスニングの2冊のテキストを中心に、リーディングにおいては、特に文法・語法を押さえた上で英文を文頭から読み取っていく読解力、リスニングにおいては、英語を母語とする英・米・豪・加の発音の違いを聞き分ける聴解力の養成に重点を置いて学習を進めていく。尚、受講者には、指導の参考資料として個人個人の弱点を把握するために初回の授業において英語の熟達度レベルを測るテストを実施する。

教科書 /Textbooks

David E. Bramley 他著 『New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 450』 松柏社 ￥1100
 “ 『New Steps to Success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 2』 “ ￥1100

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽、マーク・ピーターセン共著 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 英語力確認テスト (必ず出席のこと)
- 第2回 (L)(R) レベル 1
- 第3回 (L)(R) レベル 1
- 第4回 (L)(R) レベル 1
- 第5回 レベル 1 の復習テスト
- 第6回 (L)(R) レベル 2
- 第7回 (L)(R) レベル 2
- 第8回 (L)(R) レベル 2
- 第9回 レベル 2 の復習テスト
- 第10回 (L)(R) レベル 3
- 第11回 (L)(R) レベル 3
- 第12回 (L)(R) レベル 3
- 第13回 レベル 3 の復習テスト
- 第14回 総合問題
- 第15回 まとめ

※各授業で単語の小テストを実施

英語I (営 1 - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
欠席は2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST” (安丸雅子共著) 金星堂 ¥1,900 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語演習
- 2回 TOEICテストについて、Introduction
- 3回 Unit 1 Daily Life : Listening Section、基本 5 文型
- 4回 Unit 1 Daily Life : Reading Section、基本 5 文型
- 5回 Unit 2 Eating Out & Leisure Activities : Listening Section、品詞
- 6回 Unit 2 Eating Out & Leisure Activities : Reading Section、品詞
- 7回 Unit 3 Cooking & Purchasing : Listening Section、名詞・主語と動詞の一致
- 8回 Unit 3 Cooking & Purchasing : Reading Section、名詞・主語と動詞の一致
- 9回 Unit 4 Traffic & Travel : Listening Section、形容詞・副詞
- 10回 Unit 4 Traffic & Travel : Reading Section、形容詞・副詞
- 11回 Unit 5 Advertising & ICT : Listening Section、時制
- 12回 Unit 5 Advertising & ICT : Reading Section、時制
- 13回 Unit 6 Production & Logistics : Listening Section、接続詞・前置詞
- 14回 Unit 6 Production & Logistics : Reading Section、接続詞・前置詞
- 15回 Review Test 1

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：30%
最終評価にはTOEIC受験の可否が反映されるので、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (営 1 - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業の範囲は宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of management majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon, Inspire 2, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・順番決め
- 第2回 Food
- 第3回 Festivals
- 第4回 Review 1 The Big Picture 1
- 第5回 Cities
- 第6回 Jobs
- 第7回 Review 2 The Big Picture 2
- 第8回 Music
- 第9回 Journeys
- 第10回 Review 3 The Big Picture 3
- 第11回 Family
- 第12回 Nature
- 第13回 Review 4 The Big Picture 4
- 第14回 Happiness
- 第15回 Conservation

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 3回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 4回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 10回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 11回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 12回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 13回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを加味して総合的に評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験し、スコアを提出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEIC(R)で300点を獲得することを目標とします。ここでは、初歩的な英文法を中心に確認していきます。

教科書 /Textbooks

早川幸治 『Mastery Drills for the TOEIC(R) TEST : All in One』 (ピアソン桐原, 2011年)
ISBN978-4-342-55308-0 (1700円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 TOEIC(R)の紹介、英語の構造
- 2 回 人物の動作と状態、表・用紙
- 3 回 疑問詞を使った疑問文、手紙・Eメール
- 4 回 電話での会話、品詞
- 5 回 留守番電話、動詞
- 6 回 物の状態と位置、広告
- 7 回 基本構文と応答の決まり文句、ダブルパッセージ
- 8 回 屋外や交通機関での会話、代名詞・関係代名詞
- 9 回 アナウンス、接続詞・前置詞
- 10 回 Yes/No 疑問文、Part 7 の復習
- 11 回 店での会話、Part 5 の復習
- 12 回 ラジオ放送、時制・代名詞・語彙問題
- 13 回 オフィスでの会話、つなぎ言葉
- 14 回 ツアー・トーク・スピーチ、Part 6 の復習
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、課題20%、期末試験60%に出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。
(正当な理由なく、4回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。)
尚、最終評価にはTOEIC(R)スコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英語I (営 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC(R) listening reading

英語II (営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語II (営 1 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST” (安丸雅子共著) 金星堂 ¥ 1,900 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Unit 7 Business & Economics : Listening Section、助動詞
- 2回 Unit 7 Business & Economics : Reading Section、助動詞
- 3回 Unit 8 Employment & Personnel : Listening Section、受動態
- 4回 Unit 8 Employment & Personnel : Reading Section、助動詞
- 5回 Unit 9 Office Work & Correspondence : Listening Section、分詞・分詞構文
- 6回 Unit 9 Office Work & Correspondence : Reading Section、分詞・分詞構文
- 7回 Unit 9 Office Work & Correspondence : Reading Section、分詞・分詞構文
- 8回 Unit 10 Health & the Environment : Listening Section、不定詞・動名詞
- 9回 Unit 10 Health & the Environment : Reading Section、不定詞・動名詞
- 10回 Unit 10 Health & the Environment : Reading Section、不定詞・動名詞
- 11回 Unit 11 Finance & Banking : Listening Section、代名詞・関係詞
- 12回 Unit 11 Finance & Banking : Reading Section、代名詞・関係詞
- 13回 Unit 12 Law & Administration : Listening Section、比較構文
- 14回 Unit 12 Law & Administration : Reading Section、比較構文
- 15回 Review Test 2

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：30%
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業の範囲は宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of management majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon, Inspire 3, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・順番決め
- 第2回 Friendship
- 第3回 Friendship
- 第4回 Fear
- 第5回 Fear
- 第6回 Health
- 第7回 Health
- 第8回 Change
- 第9回 Change
- 第10回 Success
- 第11回 Success
- 第12回 Consumerism
- 第13回 Consumerism
- 第14回 Review
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 3回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 4回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 5回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 6回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 7回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 12回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 13回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを加味して総合的に評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語II (営 1-D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、英語の基礎力をつけることにある。例年、このクラスの受講者は学習能力が高いにも関わらず、英語を理解する上で必要不可欠とされる基本文法の習得が不十分である。そうした現状を踏まえ、当授業では、基本文法の学習を中心に英作・読解・聴解といった学習活動を効果的に配分したテキストを使用し、文法全般にわたる基本事項をこの学期間に習得できるよう指導していく。尚、TOEICに関しては、各授業の文法項目に応じたTOEIC問題をプリントで配布し、学習事項の理解を再確認する副教材として扱っていく。

教科書 /Textbooks

佐藤 哲三他著 『英文法から学ぶ英作と読解』 南雲堂 ¥2052 (CD付き)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽、マーク・ピーターセン共著 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&英語力確認テスト(必ず出席のこと)
- 第2回 CH 1 文型
- 第3回 CH 2 動詞
- 第4回 CH 3 進行形・未来形
- 第5回 CH 4 名詞・冠詞・代名詞
- 第6回 CH 5 前置詞・接続詞
- 第7回 CH 6 形容詞・副詞と比較
- 第8回 CH 8 不定詞
- 第9回 CH 9 動名詞・分詞
- 第10回 CH 11 受動態
- 第11回 CH 12 完了形
- 第12回 CH 14 仮定法
- 第13回 CH 15 関係詞
- 第14回 総合問題
- 第15回 まとめ

※各授業で前回授業の復習として小テストを実施

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・40% 授業への取り組み・・・10%
欠席は2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

英語II (営 1 - E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Business Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Money-Introductions
- 第 3 回 Money-Building Skills
- 第 4 回 Money-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Presentations-Introduction
- 第 7 回 Presentations-Building Skills
- 第 8 回 Presentations-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Investing-Introduction
- 第11回 Investing-Building Skills
- 第12回 Investing-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class Service 1, Cengage, ISBN: 9814319430

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Explaining facilities
- 6 回 Describing locations
- 7 回 Opening times
- 8 回 Talking about schedules
- 9 回 Reservation problems
- 1 0 回 Confirming reservations
- 1 1 回 Changing reservations
- 1 2 回 Asking about preferences
- 1 3 回 Checking in
- 1 4 回 Checking out
- 1 5 回 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅲ (営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

This course uses high-interest themes to integrate speaking, grammar vocabulary, pronunciation, listening and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of this course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication

教科書 /Textbooks

Interchange 2 4th edition Richards, Hull and Proctor Cambridge University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

-

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introducing yourself, talking about yourself
- 2回 Writing a paragraph about your childhood
- 3回 Talking about transportation problems and city services
- 4回 Writing a letter to the editor
- 5回 Describing positives and negative features
- 6回 Writing an e-mail describing an apartment
- 7回 Talking about food, expressing likes and dislikes
- 8回 Writing a recipe
- 9回 Describing vacation plans, giving travel advice
- 10回 Writing travel suggestions
- 11回 Making requests, accepting and refusing requests
- 12回 Writing a set of guidelines
- 13回 Writing a note giving instructions
- 14回 Talking about general topics
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

50% exam, 30% participation and 20% peer journal

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができます。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

「基礎から・徹底的に」復習を行う文法学習をメインに、リスニング、語彙力養成を交えて、総合的英語力を養います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 be動詞と一般動詞
- 3回 be動詞と一般動詞
- 4回 動詞と疑問文
- 5回 動詞と疑問文
- 6回 命令文と助動詞
- 7回 命令文と助動詞
- 8回 命令文と助動詞
- 9回 品詞と修飾
- 10回 品詞と修飾
- 11回 接続詞
- 12回 接続詞
- 13回 前置詞
- 14回 前置詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、発表・授業への貢献を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語III (営 1-E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 携帯電話は音もバイブ機能も切り、完全なサイレントモードして、手元に置かないでください。
- ・ 電子辞書を持って来てください。
- ・ 通常の授業に関しては、復習に重点を置き、単元を一つ一つ習得するよう努力してください。
- ・ 授業で配布されたプリントは全てファイルに保管してください。
- ・ 準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news with particular emphasis on business and economic matters. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

goldfish365.com

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Introduction to the course.
- Week 2. Topic 1. Pair conversation.
- Week 3. Asking open and closed questions.
- Week 4. Topic 2. Group discussion.
- Week 5. Communication Strategy. Repeating.
- Week 6. Topic 3. Pair conversation.
- Week 7. Giving long answers.
- Week 8. Topic 4. Group discussion.
- Week 9. Confirmation. Understanding the speaker.
- Week 10. Topic 5. Pair conversation.
- Week 11. Agreeing and disagreeing.
- Week 12. Topic 6. Discussion.
- Week 13. Interrupting. Getting a word in.
- Week 14. Topic 7. Pair conversation.
- Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語IV (営 1 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class Service 1, Cengage, ISBN: 9814319430

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student Presentations – Summer Holidays
- 2 回 Transferring calls
- 3 回 Responding to requests
- 4 回 Travel itineraries
- 5 回 Reacting to schedule changes
- 6 回 Ordering in restaurants
- 7 回 Complaining about problems
- 8 回 Fixing problems
- 9 回 Taking messages
- 1 0 回 Asking and giving directions
- 1 1 回 Recommending and giving travel advice
- 1 2 回 Discussing prices and bargaining
- 1 3 回 Changing money
- 1 4 回 Extra charges
- 1 5 回 Saying goodbye to guests and customers

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

英語IV (営 1 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語Ⅳ (営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This course is designed to help you strengthen your speaking, and self-presentation skills through active participation in communicative activities. Working in pairs and small groups, you will be given the chance to develop your English ability to both research and discuss current world-events and lifestyle-related topics. Development of academic presentation and writing skills will also be stressed throughout the course.

教科書 /Textbooks

Smart Choice (level 1): Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Please bring an electronic dictionary (or smartphone).

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Course orientation
- 第 2 回: Timed speaking and Q&A - Self introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Different Countries)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (Jobs and Careers)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Sports and Exercise)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Daily Routines)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Problems)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Fashion)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Personality)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Local Attractions)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (Around Town)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Vacations)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be through a single end of semester examination and homework assignments.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

This course is non-elective and attendance is important.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please tell me what you think by speaking in English.

キーワード /Keywords

Communicate, have fun, make friends.

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV (営 1-E) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語V (営 2 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (営 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語V (営 2 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (営 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 営 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト(3回)... 30% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (営 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (営 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEIC (Test of English for International Communicaton)テストは英語のコミュニケーション能力を測定する世界標準テストです。年間236万人が受験し、企業の人員採用や、昇進・昇格の要件として活用されています。本授業では、問題を解き全英文を音読することで、英語に対する感性を研ぎ澄ますことを目指します。

教科書 /Textbooks

Crossing the TOEIC Bridge Shiho Hayashi Asahi Press 1,800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時参考資料を配付します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第 2 回 Unit 1 Eating Out be動詞
- 第 3 回 Unit 2 Travel 一般動詞
- 第 4 回 Unit 3 Amusement 品詞
- 第 5 回 Unit 4 Meetings 自動詞・他動詞
- 第 6 回 Unit 5 Personnel 受動態
- 第 7 回 Unit 6 Shopping 代名詞
- 第 8 回 Unit 7 Advertisement 数えられる名詞、数えられない名詞
- 第 9 回 Unit 8 Daily Life 数量詞
- 第 10 回 Unit 9 Office Work To不定詞
- 第 11 回 Unit 10 Business 動名詞
- 第 12 回 Unit 11 Traffic 助動詞
- 第 13 回 Unit 12 Finance and Banking 前置詞
- 第 14 回 Unit 13 Media 接続詞
- 第 15 回 Unit 14 Health and Welfare 比較

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 30% 学期末考査 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず予習をして授業に臨みましょう。 授業時には辞書必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 営 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト(3回)... 30% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

英語VI (営 2 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。さらに小説を読んで、読解力を養う。

教科書 /Textbooks

The ToEIC Test Trainer Target 470 by Masahiko Yamaguchi, George W Pifer センゲージ・ラーニング

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Lesson 1 予定
- 3回 Lesson 2 数量を尋ねる
- 4回 Lesson 3 命令・依頼
- 5回 Lesson 4 広告・宣伝
- 6回 Lesson 5 時間を尋ねる
- 7回 Lesson 6 場所を尋ねる
- 8回 Lesson 7 確認
- 9回 Lesson 8 留守電
- 10回 Lesson 9 アドバイス
- 11回 Lesson 10 誘い
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"

成績評価の方法 /Assessment Method

単語テスト 25% 予習 10点 試験 65%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価には、TOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

英語VI (営 2 - C) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備、リスニングのところをディクテーションしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回で席を決めるので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
 クラス /Class 営 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語VI (営 2 - D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEIC (Test of English for International Communicaton)テストは英語のコミュニケーション能力を測定する世界標準テストです。年間236万人が受験し、企業の人員採用や、昇進・昇格の要件として活用されています。本授業では、問題を解き全英文を音読することで、英語に対する感性を研ぎ澄ますことを目指します。

教科書 /Textbooks

Crossing the TOEIC Bridge Shiho Hayashi Asahi Press 1,800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時参考資料を配付します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第 2 回 Unit 1 Eating Out be動詞
- 第 3 回 Unit 2 Travel 一般動詞
- 第 4 回 Unit 3 Amusement 品詞
- 第 5 回 Unit 4 Meetings 自動詞・他動詞
- 第 6 回 Unit 5 Personnel 受動態
- 第 7 回 Unit 6 Shopping 代名詞
- 第 8 回 Unit 7 Advertisement 数えられる名詞、数えられない名詞
- 第 9 回 Unit 8 Daily Life 数量詞
- 第 10 回 Unit 9 Office Work To不定詞
- 第 11 回 Unit 10 Business 動名詞
- 第 12 回 Unit 11 Traffic 助動詞
- 第 13 回 Unit 12 Finance and Banking 前置詞
- 第 14 回 Unit 13 Media 接続詞
- 第 15 回 Unit 14 Health and Welfare 比較

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 30% 学期末考査 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず予習をして授業に臨みましょう。 授業時には辞書必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Level 2 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Course introduction, expectations, study skills, preparation advise, and grading procedure.
- 第 2 回 : Unit 1: Food from the Earth. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 3 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 4 回 : Unit 2: Communication. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 5 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 6 回 : Unit 3: Cities. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 7 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 8 回 : Unit 4: The body. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 9 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 0 回 : Unit 5: Challenges. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 1 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 2 回 : Unit 6: Transitions. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 3 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 4 回 : All outstanding work to be completed.
- 第 1 5 回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 50%, class participation 50%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.
Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skill using basic English for business and communication.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS REVIEW / CATCHING UP WITH SCHOOL FRIENDS
- 2 回 ANSWERING PERSONAL QUESTIONS / EXPANDING INFORMATION
- 3 回 UNDERSTANDING NEW NAMES /ASKING FOLLOW UP QUESTIONS
- 4 回 LESSON 1~3 EXPANSION ACTIVITY
- 5 回 OCCUPATIONS – JOBS IN THE GLOBAL COMMUNITY
- 6 回 DESCRIBING JOB RESPONSIBILITIES
- 7 回 DESCRIBING WORKPLACES
- 8 回 LESSON 5~7 EXPANSION ACTIVITY
- 9 回 ADDRESSING PEOPLE IN BUSINESS/SOCIAL SITUATIONS
- 1 0 回 ASKING ABOUT PERSONAL EXPERIENCES
- 1 1 回 ASKING & ANSWERING ABOUT COMPLETION OF TASKS
- 1 2 回 MONEY MATTERS: LARGE NUMBERS & PRICES
- 1 3 回 MONEY MATTERS: DOLLARS AND CENTS
- 1 4 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION
- 1 5 回 SPECIAL PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required

英語VII (営 2 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次 / 単位 /Credits: 1単位 / 学期 /Semester: 1学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 営 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 “Weekends”
- 3 回 Text Unit 2 “Excuses”
- 4 回 Text Unit 3 “Life Events”
- 5 回 Text Unit 4 “Travel”
- 6 回 Text Unit 5 “Culture Shock”
- 7 回 Text Unit 6 “Party Time”
- 8 回 Text Unit 7 “Describing People”
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 “Movies”
- 1 1 回 Text Unit 10 “Big Issues”
- 1 2 回 Text Unit 13 “Keepsakes”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語VII (営 2 - D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Homework must be completed before each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded in every class on how much you speak and on how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

本授業で扱うテキストは、スタンフォード大学の心理学者ケリー・マクゴニガルへのインタビューと、彼女の連載記事によって構成されている。ケリー・マクゴニガルは多くのビジネス誌にも登場し、彼女の著作は日本だけではなく世界中で翻訳され読まれている。彼女は、心理学、神経科学、医学の知見を応用し、個人の幸福、健康、成功といった私たちが日常で直面する課題へアプローチする。

本授業では彼女へのインタビュー「意志力を鍛えて夢をつかむ！」と彼女自身の連載記事である「英語をモノにする意志力の鍛え方」「<なりたいたい自分>になるための戦略」を英語で読む。そして学んだ英語表現を定着させ、アウトプットするトレーニングを徹底的に行う。

教科書 /Textbooks

ケリー・マクゴニガル『（対訳）スタンフォードの「英語ができる自分」になる教室』朝日出版、2014年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ケリー・マクゴニガル『スタンフォードの自分を変える教室』神崎朗子訳、大和書房、2012年。

英語VII (営 2 - E) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス：授業の概要説明、成績評価方法など。

インタビュー編 (以下インタビューでの質問項目ごとに進めていく)

2. スタンフォード大学での講座が人気になった理由
3. 意志力をどう定義しますか
4. 意志力をコントロールしているのは？
5. 意志力を鍛えることはできるのか？
6. 意志力を鍛える運動とは？
7. 意志力を弱める要因は？ / 呼吸と意志力の関係は？
8. 語学学習者へのアドバイスは？

連載記事編

9. 「意志力の科学者」になって自分を観察する
「英語を学んでいる」ではなく「英語学習者」だと言おう
10. 英語学習を先延ばしにしない3つの戦略
やる気の出る時間帯を把握しよう
11. 「なぜ英語を勉強しているのか」を思い出す
意志力のパートナーを持つ
12. 自分の間違いや失敗を許す
意志力は感染する
13. 「変わろう」という決心の落とし穴
完璧な「新年の誓い」とは？
14. ストレスに対する見方を変える
自分を信じて「なりたい自分」になる！
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (毎回の小テスト30%、自主学習提出など20%) : 50%
期末試験 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

意志力

英語VIII (営 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Series 2 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Unit 7: Luxuries. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 2 回 : Unit 7: Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 3 回 : Unit 8: Nature. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 4 回 : Unit 8: Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 5 回 : Unit 9: Life in the past. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 6 回 : Unit 9: Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 7 回 : Unit 10: Travel. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 8 回 : Unit 10: Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 9 回 : Unit 11: Careers. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 10 回 : Christmas quiz.
- 第 11 回 : Unit 11: Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 12 回 : Unit 12: Celebrations. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 13 回 : Unit 12: Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 14 回 : All outstanding work to be completed.
- 第 15 回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 50%, class participation 50%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.
Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Textbook 7 by Mark Mylson. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-88920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course review
2. Topic: Love / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The Enviroment / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Wildlife / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Green House Effect / Grammar Focus ; Future tense
6. Presentations Group A
7. Presentations Group B
8. Topic: Writing Practice 1 / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: Writing Practice 2 / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The Great Kings
11. Topic: Tech Giants
12. Topic: Fashion and Fame
13. Topic: At the Movies
14. Topic: Pop
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 営 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語Ⅶ). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques 1
Week 8	Control Techniques 2
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting 1
Week 11	Charting 2
Week 12	Group Conversation 1
Week 13	Group Conversation 2
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 営 2 - E / 営 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VIII	ENG212F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
- 5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
- 7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
- 8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
- 9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
- 1 0 回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
- 1 1 回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
- 1 2 回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 2
- 1 3 回 REVIEW
- 1 4 回 FINAL TEST PREPARATION I
- 1 5 回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese / English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 済営律政 3年 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 / 3 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 済営律政 3年 / 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力のさらなる伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット1
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット1
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット1
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット1
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット1
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット1
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット1
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット1
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット1
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット1
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語ⅩⅡ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 3/American English Student Access』(2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Making plans, and accepting and declining invitations
- 4回 Telling people news or gossip and responding
- 5回 Proposing ideas and responding, and convincing people to accept ideas
- 6回 Confirming that you know someone and responding
- 7回 Giving orders and making requests
- 8回 Talking about possibilities
- 9回 Keeping a conversation going and asking follow-up questions
- 10回 Expressing certainty and uncertainty
- 11回 Asking, giving, and denying permission and offering help
- 12回 Asking for and giving opinions
- 13回 Expressing and asking questions about necessity
- 14回 Requesting clarification and responding
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王占華 編）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト(4割)、定期試験の成績(6割)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王占華 編）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト(4割)、定期試験の成績(6割)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政群2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月
「体験漢語 - 公務編」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 第1課 単語練習、聴解練習
 - 第2回 第1課 会話、作文練習
 - 第3回 第1課 場面の体験
 - 第4回 第2課 単語練習、聴解練習
 - 第5回 第2課 会話、作文練習
 - 第6回 第2課 場面の体験
 - 第7回 第3課 単語練習、聴解練習
 - 第8回 第3課 会話、作文練習
 - 第9回 第3課 場面の体験
 - 第10回 第4課 単語練習、聴解練習
 - 第11回 第4課 会話、作文練習
 - 第12回 第4課 場面の体験
 - 第13回 第5課 単語練習、聴解練習
 - 第14回 第5課 会話、作文練習
 - 第15回 第5課 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BC T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語II	CHN311F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月
「体験漢語 - 公務編」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期
第1回 第6課 単語、聴解練習
第2回 第6課 会話、作文練習
第3回 第6課 場面の体験
第4回 第7課 単語、聴解練習
第5回 第7課 会話、作文練習
第6回 第7課 場面の体験
第7回 第8課 単語、聴解練習
第8回 第8課 会話、作文練習
第9回 第8課 場面の体験
第10回 第9課 単語、聴解練習
第11回 第9課 会話、作文練習
第12回 第9課 場面の体験
第13回 第10課 単語、聴解練習
第14回 第10課 会話、作文練習
第15回 第10課 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英国済営比人 3年 /British Business and Economics 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。それと同時に、日本で同じ場面で中国（台湾・香港などを含む）の観光客を接客する際における活用方法も勉強する。また、中国語検定試験・中国語HSK試験などの能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』[改訂版]王占華・劉慶 駿河台出版社、補充プリント

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版)王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 ホテルの予約【起点・終点】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「外国語は用いる時になってはじめてその重要さを感じるものだ。」実力としての中国語運用能力を身につけておこう。
「外国語は単なる知識ではなく、能力である。」車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

上級中国語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 3年次 /Year 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。それと同時に、日本で同じ場面で中国（台湾・香港などを含む）の観光客を接客する際における活用方法も勉強する。また、中国語検定試験・中国語HSK試験などの能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改定版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『中国語学概論』 (改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「外国語は用いる時になってはじめてその重要さを感じるものだ。」実力としての中国語運用能力を身につけておこう。
「外国語は単なる知識ではなく、能力である。」車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2010年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語の文字である「ハングル」を習得し、基礎韓国語及び韓国文化への理解を高めることを目標とする。

〈到達目標〉

- (1) ハングル文字を習得する。
- (2) 簡単な自己紹介ができる。
- (3) 日常生活で使われる身近な挨拶表現ができる。
- (4) 韓国の日常生活文化への理解ができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千律子著、『新チャレンジ！ 韓国語』、白水社、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・熊谷明泰編集、『パスポート朝鮮語小辞典(朝和+和朝)』、白帝社、2012年
- ・小学館・韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	講義案内及び第1課基本母音字母と合成母音字母
第2回	第2課基本子音字母(平音・激音)
第3回	第2課: 双子音字母(濃音)
第4回	第3課: 合成母音字及び日本語のハングル表記
第5回	復習
第6回	第4課: 一文字パッチム
第7回	発音上手になるためのコツ
第8回	第4課: 二文字パッチム
第9回	第5課: 「私は～です」
第10回	第5課: 「私は～です」
第11回	第6課: 「時間ありますか」
第12回	第6課: 「時間ありますか」
第13回	第7課: 「それは何ですか」
第14回	第7課: 「それは何ですか」
第15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・授業参加度(日常授業への取り組み・小テスト・課題) 50%
- ・定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 毎回ペア練習後、口頭発表をする予定なので、授業に積極的に取り組んでもらいたいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

〈教育目標〉
韓国語の文字である「ハングル」を習得し、基礎韓国語及び韓国文化への理解を高めることを目標とする。

〈到達目標〉
(1) ハングル文字の読み・書きを習得する。
(2) 簡単な自己紹介や自己PRができる。
(3) 日常生活で使われる身近な会話表現ができる。
(4) 韓国の日常生活文化への理解度をより深める。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千律子著、『新チャレンジ！ 韓国語』、白水社、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・熊谷明泰編集、『パスポート朝鮮語小辞典(朝和+和朝)』、白帝社、2012年
- ・小学館・韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義案内及前期の復習
- 第2回 第8課「日曜日に何をしますか？」
- 第3回 第8課「日曜日に何をしますか？」
- 第4回 第8課「日曜日に何をしますか？」
- 第5回 第9課「何が好きですか？」
- 第6回 第9課「何が好きですか？」
- 第7回 第9課「何が好きですか？」
- 第8回 第10課「週末は何をしましたか？」
- 第9回 第10課「週末は何をしましたか？」
- 第10回 第10課「週末は何をしましたか？」
- 第11回 第11課「明日は何をするつもりですか？」
- 第12回 第11課「明日は何をするつもりですか？」
- 第13回 第11課「明日は何をするつもりですか？」
- 第14回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 第15回 第12課「スープが冷たくておいしいです」

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・授業参加度(日常授業への取り組み・課題への取り込み・小テスト): 50%
- ・定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回ペア練習後、口頭発表を行う予定なので、授業に積極的に取り組んでもらいたいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）初級での学習事項（基礎文法）に加え中級文法を学ぶ。
文法の知識を踏まえて読み書きの力を養う。音読練習の徹底や会話練習も取り入れながら学習内容の理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新装版できる韓国語初級II』（新大久保語学院、李志瑛・金鎮姫）アスク出版 定価2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 初級のまとめ
3. 【動詞の現在連体形】
4. 【先行動作の用法】
5. 【動詞の過去連体形】
6. 【動詞の未来連体形】【～するつもりです】
7. 【形容詞の現在連体形】
8. 【名詞文の現在連体形】
9. 【～なのに】【～のですが】【語彙の補足】
10. 1課～5課のまとめ
11. 【不規則活用①】【理由】
12. 【不規則活用②】【～しなければなりません】
13. 【不規則活用③】【ために、ので】
14. 【不規則活用④】【～じゃないですか】
15. 6課～9課のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）前期での学習事項に加え中級文法を学ぶ。
文法の知識を踏まえて読み書きの力を養う。音読練習の徹底や会話練習も取り入れながら学習内容の理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新装版できる韓国語初級II』（新大久保語学院、李志瑛・金鎮姫）アスク出版 定価2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 【不規則活用◎】【～てみてください】
3. 【話者の意志・約束】
4. 【完了状態の継続】
5. 【～しないでください】
6. 【過去 / 現在 / 未来の推量】
7. 【～する前に】【～する後】
8. 【～するほうだ】【～になる】
9. まとめ10課～15課
10. 【時間の経過】【～しようと思っています】
11. 【名詞化】
12. 【推測・予測】
13. 【するとき・したとき】
14. 【～てあげる / ～てくれる】
15. まとめ16課～19課

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

講義概要：朝鮮語の言語能力及び朝鮮文化への理解を通して、国際化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目的とする。
到達目標：朝鮮語Ⅶでは、朝鮮語Ⅲ・Ⅳ前期・後期で学習した基礎韓国語を基にして、初級上レベルのコミュニケーション能力の向上を目標としています。前期は、「自己紹介」「約束」「道案内」など、身の回りのトピックについて学習します。

教科書 /Textbooks

「ちょこっとチャレンジ！韓国語」金順玉・阪堂千津子・崔栄美 著 白水社、2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『パスポート朝鮮語小辞典』（朝和+和朝）、塚本勲監修、白水社
- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』、油谷幸利他編集、小学館
- 『朝鮮語辞典』、油谷幸利他編集、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回講義案内及び第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第2回第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第3回第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第4回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第5回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第6回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第7回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第8回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第9回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第10回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第11回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第12回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第13回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」
- 第14回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」
- 第15回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト（音読・会話・語彙・文型）及び課題への取り組み度（30%）
- 授業への参加意欲及び発言度（20%）
- 学期末試験（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1. 朝鮮語Ⅲ(前期)・朝鮮語Ⅳ(後期)の単位取得済みが望ましい。
2. ペア授業を行うので会話演習へ取り組みと講義での積極的な発言意欲をもつこと。
3. 音読・会話テストに向けた自習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

講義概要：朝鮮語の言語能力及び朝鮮文化への理解を通して、国際化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目的とする。

到達目標：朝鮮語VIIIでは、朝鮮語III、IV（前期・後期）で学習した基礎韓国語を基にして、中級上レベルのコミュニケーション能力の向上を目標としています。後期は、「買い物」「体の具合」「思い出」など身の回りのトピックについて学習します。

教科書 /Textbooks

「ちょこっとチャレンジ！韓国語」金順玉・阪堂千津子・崔栄美 著、白水社、2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『パスポート朝鮮語小辞典』（朝和+和朝）、塚本勲監修、白水社
- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』、油谷幸利他編集、小学館
- 『朝鮮語辞典』、油谷幸利他編集、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回講義案内及び第6課「ファンの集いに行ってみたんですけど・・・」
- 第2回第6課「ファンの集いに行ってみたんですけど・・・」
- 第3回第6課「ファンの集いに行ってみたんですけど・・・」
- 第4回第7課「少し安くしてください。」
- 第5回第7課「少し安くしてください。」
- 第6回第7課「少し安くしてください。」
- 第7回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第8回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第9回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第10回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第11回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第12回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第13回第10課「字幕を見ながら勉強します。」
- 第14回第10課「字幕を見ながら勉強します。」
- 第15回第10課「字幕を見ながら勉強します。」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト（音読・会話・語彙・文型）及び課題への取り組み度（30%）
- 授業への参加意欲及び発言度（20%）
- 学期末試験（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1. 朝鮮語VII(前期)の単位修得済みが望ましい。
2. ペア授業を行うので会話演習へ取り組みと講義での積極的な発言意欲をもつこと。
3. 音読・会話テストに向けた自習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。
専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業概要、オリエンテーション (韓国語で自己紹介を含む)
2. 必要な文法事項確認及び練習：良い人間関係を維持する方法
3. 会話練習：良い人間関係について
4. 聞き取り：良い人間関係
5. 討論する：良い人間関係について
6. 必要な文法事項確認及び練習：公演情報を伝達する
7. 聞き取り：公演情報の
8. 会話練習：公演情報を伝達する
9. 必要な文法事項確認及び練習：余暇活動のおすすめ
10. 聞き取り：余暇活動の長所
11. 会話練習：余暇活動を勧める
12. 必要な文法事項確認及び練習：友達にアドバイスする
13. 聞き取り：感情表現
14. 会話練習：友達にアドバイスする
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト・プレゼンテーション 50% 定期試験 50%

毎回の小テストと暗記、筆記の課題と授業の参加態度も総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人
/Class 3年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業のオリエンテーション
2. 必要な文法事項確認及び練習：紛失物を探す
3. 聞き取り：地下鉄の紛失物センター
4. 会話練習：紛失した場所を推測する
5. 必要な文法事項確認及び練習：友達を説得する
6. 聞き取り：成功した人物の談話プログラム
7. 会話練習：友達を説得する
8. 討論する：異文化コミュニケーション
9. 必要な文法事項確認及び練習：異性問題の相談
10. 聞き取り：夫との出会い
11. 会話練習：異性問題についてアドバイスする
12. 必要な文法事項確認及び練習：失敗に関する言い訳
13. 聞き取り：言い訳
14. 会話練習：失敗に関する言い訳
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト・会話テスト 50% 定期試験 50%

毎回の小テストと暗記、筆記の課題と授業の参加態度も総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /1 Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

ロシア語II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 済営比人律政 2年 /Class of Law and Economics 2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 < СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ > 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 < МАМА И ФУТБОЛ > 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 < МАТЬ > 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 < САЛЮТ > 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 < ГИПНОЗ > 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 < ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР > 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 < ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН > 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 < ДОМ ОТДЫХА > 時の表現、動詞の体
- 9 回 < БАБУШКА И ВОВКА > 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 < ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ > 複文、動詞の体
- 11 回 < О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ > 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 < КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД > 不定法構文、無人称文
- 13 回 < ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК > 個数詞 + 形容詞 + 名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 < ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ > 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 50% 授業への参加度 ... 50 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

ロシア語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211 F

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 済営比人律政 2年 / 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 2回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 3回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 4回 第5課④ 【どうぞ、午後私に電話してください】
- 5回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 6回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 7回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 8回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 9回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 10回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 11回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 12回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 13回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 14回 ビデオ学習② 会話練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年次
単位 /Credits 1単位 / 1単位
学期 /Semester 2学期 / 2学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class 済営比人律政 2年 / 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 2回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 3回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 4回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 5回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 6回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 7回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】
- 8回 第9課② 【買い物】、【値段】 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 10回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 11回 第10課①【モスクワの町】
- 12回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 13回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 14回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。
学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻/あいさつ(2)/時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う/アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物/メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie/命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語/建物など 文法：名詞の性/定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物/値段 文法：名詞と冠詞の3格/複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・東京ーパリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って進み、1学期は第11課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 アルファベを発音する、発音と綴り字
- 2回 挨拶をする
- 3回 名前、国籍、職業を言う
- 4回 主語人称代名詞、動詞 *etre* の直説法現在
- 5回 年齢を言う、家族を語る
- 6回 名詞の性と数、不定冠詞、動詞 *avoir* の直説法現在、否定文
- 7回 好きなものを言う、定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
- 8回 持ち物を言う、指示形容詞、所有形容詞、人称代名詞の強勢形
- 9回 友達について話す、形容詞
- 10回 尋ねる、疑問代名詞、疑問副詞
- 11回 近い未来、近い過去のことを語る、前置詞と定冠詞の縮約、中性代名詞 *y*
- 12回 時間、天候を言う、疑問形容詞、非人称構文
- 13回 数量を表わす、部分冠詞、数量の表現、中性代名詞 *en*
- 14回 紹介する、補語人称代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って2学期は第12課から第21課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 一日を語る
- 2回 代名動詞
- 3回 頼む、命令する
- 4回 命令法、命令、義務を表わす表現
- 5回 未来のことを語る、直説法単純未来
- 6回 過去のことを語るI、直説法複合過去
- 7回 過去のことを語るII、直説法半過去と大過去
- 8回 人や物について語る、関係代名詞、指示代名詞
- 9回 比較する、比較級と最上級
- 10回 受け身の形を使う、現在分詞、ジェロンディフ
- 11回 仮定する、条件法現在
- 12回 条件法過去
- 13回 感情を表現する
- 14回 接続法現在と過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%

期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてなによりもフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音展・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

君と話したい！フランス語、 大久保政憲 著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 あいさつ
- 3回 自己紹介
- 4回 年齢、趣味
- 5回 質問する(1)
- 6回 質問する(2)
- 7回 ものや人物の説明(1)
- 8回 ものや人物の説明(2)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 10回 予定
- 11回 過去のことを言う(1)
- 12回 過去のことを言う(2)
- 13回 時間と天候
- 14回 依頼する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義は復習を前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じく基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を1学期以上に正確に読み発音できるようにしてほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

きみと話したい！フランス語、大久保政憲 著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 贈り物をする(1)
- 2回 贈り物をする(2)
- 3回 日常の行動(1)
- 4回 日常の行動(2)
- 5回 旅行する
- 6回 過去のことを言う(3)
- 7回 過去のことを言う(4)
- 8回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 9回 未来の計画(1)
- 10回 未来の計画(2)
- 11回 未来の計画(3)
- 12回 街を歩く
- 13回 夢を語る
- 14回 感情を表現する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義は復習を前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

1年次に学習した文法を復習しながら、さらに伝達能力をアップさせるための文法を学習します。

教科書 /Textbooks

「フランス語ブルー2、トリコロール 文法編」 高橋信良ほか著（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞と中性代名詞
- 2回目 2課 補語人称代名詞の語順
- 3回目 3課 非人称構文
- 4回目 4課 現在分詞
- 5回目 4課 ジェロンディフ
- 6回目 5課 知覚動詞
- 7回目 5課 使役動詞
- 8回目 6課 直説法大過去
- 9回目 7課 直説法単純未来と前未来
- 10回目 8課 接続詞
- 11回目 9課 条件法
- 12回目 10課 間接話法
- 13回目 11課 接続法現在
- 14回目 12課 接続法の用法
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に学習した文法をもとに、簡単な和文仏訳の練習をして、フランス語による伝達能力の向上を図ります。授業では、日本語とフランス語での表現方法の違いにも注目します。

教科書 /Textbooks

「フランス語 プラン2 - トリコロール 作文編」星野守之 ほか著 (朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞
- 2回目 2課 前置詞+関係代名詞
- 3回目 3課 現在分詞
- 4回目 3課 ジェロンディフ
- 5回目 4課 知覚構文
- 6回目 5課 使役文
- 7回目 6課 無生物主語
- 8回目 7課 強調構文
- 9回目 8課 非人称構文
- 10回目 9課 二つの文をつなぐ接続詞
- 11回目 9課 理由や結果などを表す接続詞
- 12回目 10課 時、条件、仮定を表す接続詞
- 13回目 10課 目的、譲歩を表す接続詞
- 14回目 11課 間接話法
- 15回目 12課 直説法が接続法か？

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2nd Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 / Class クラス /Class 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Présentation des étudiants 自己紹介
- 2 - Révisions des bases (1) 基本の復習 1
- 3 - Se repérer dans l'espace (1) 位置関係 1
- 4 - Se repérer dans l'espace (2) 位置関係 2
- 5 - Au restaurant (1) レストランにて 1
- 6 - Au restaurant (2) レストランにて 2
- 7 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 1
- 8 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 2
- 9 - Le corps et la santé (1) 身体と健康 1
- 10 - Le corps et la santé (2) 身体と健康 2
- 11 - Les vacances (1) バカンス 1
- 12 - Les vacances (2) バカンス 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor: ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212 F

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française.

Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II".

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base.

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。

語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。

フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。

指定の教科書を主に使い授業を進めます。

毎週、語彙の小テストを行います。

最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - A la Poste (1) 郵便局にて 1
- 2 - A la Poste (2) 郵便局にて 2
- 3 - L'environnement (1) 生活と環境 1
- 4 - L'environnement (2) 生活と環境 2
- 5 - La vie quotidienne : la famille (1) 日常生活 : 家族 1
- 6 - La vie quotidienne : la famille (2) 日常生活 : 家族 2
- 7 - La vie quotidienne : le week-end (1) 日常生活 : 週末の過ごし方 1
- 8 - La vie quotidienne : le week-end (2) 日常生活 : 週末の過ごし方 2
- 9 - Rêves de futur (1) 将来の夢 1
- 10 - Rêves de futur (2) 将来の夢 2
- 11 - Les sentiments (1) 様々な感情 1
- 12 - Les sentiments (2) 様々な感情 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』（2011年、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

口ボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞a
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 不規則動詞活用（1）、指示詞
- 12回 不規則動詞活用（2）、所有詞と接続詞
- 13回 短文を読む（1）
- 14回 短文を読む（2）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。

スペイン語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制ですが、現在完了形・過去形も学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインおよびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』(ピアソンエデュケーション)
『スペイン語とつきあう本』(寿里、東洋書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞活用、人称代名詞目的格
- 3回 直接目的格と間接目的格
- 4回 前置詞、前置詞と人称代名詞、gustar型の動詞(1)
- 5回 gustar型の動詞(2)
- 6回 再帰動詞(1)とその文例
- 7回 再帰動詞(2)とその文例
- 8回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 9回 命令法、不定詞
- 10回 過去分詞・現在分詞を使った表現
- 11回 直説法点過去(規則活用)
- 12回 受動文、現在完了
- 13回 直説法点過去(不規則型)
- 14回 特殊な動詞(知覚・使役・放任など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 済営1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方から始め、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学べ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞・目的格人称代名詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
粕谷てる子『オラ！＜改訂版＞』第三書房、2014

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習
- 2回 ir/venirの表現「明日東京へ行きます。」
- 3回 「スペイン語を勉強するつもりです。」
- 4回 天候表現「今日はいい天気ですね。」
- 5回 時間表現「何時ですか？」
- 6回 gustar構文「私はバルサが好きです。」
- 7回 gustar型動詞「頭がいたいのか？」
- 8回 再帰動詞「私はマリといいます。」
- 9回 「もう行っちゃうの」
- 10回 比較級「フアのほうが背が高い。」
- 11回 「フアはクラスで一番絵が上手だ。」
- 12回 現在完了「楽しかった！」
- 13回 現在分詞「今掃除中です。」
- 14回 スペイン語でDVDを見る
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
青木文夫・辻博子・マリアエルナンデス（共著）、弘学社（第2版）
昨年スペイン語IとIIで使用したテキストの続きをします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 4 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 5 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 6 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 7 進行形と複文・重文
- 8 進行形と複文・重文
- 9 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 10 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 11 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 12 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 13 視聴覚教材を使って
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材(テキストの会話部分)を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
青木文夫・辻博子・マリアエルナンデス（共著）、弘学社（第2版）
前期スペイン語Vのテキストの続きをします。最後まで終えて、スペイン語文法の全体を完成させたいと思います。最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 接続法現在の活用と命令形
- 2 接続法現在の活用と命令形
- 3 命令形の練習
- 4 命令形の練習
- 5 比較表現、感嘆表現
- 6 受け身文、無人称文
- 7 接続法の活用全般について
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法
- 10 接続法の用法
- 11 スペイン語版トトロを理解する
- 12 スペイン語版トトロを理解する
- 13 スペイン語版トトロを理解する
- 14 スペイン語版トトロを理解する
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材（テキストの会話部分）を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。DVDなどを使い、スクリプトを使用している様々な場面に応じた会話表現を学んでいきます。映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。

教科書 /Textbooks

一部、前年度と同じテキストを使用します。（粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014）
他、プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のビデオを理解する、授業内容について（前年度の教科書持参）
- 2回 スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習、自己紹介
- 3回 人についての表現
- 4回 一日の出来事
- 5回 日常の紹介（1）
- 6回 日常の紹介（2）
- 7回 買い物（1）
- 8回 買い物（2）
- 9回 自由な時間の過ごし方
- 10回 歌詞を理解する
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ？
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ、前期に使用した表現

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。DVDなどを使い、スクリプトを使用しているいろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。

教科書 /Textbooks

プリント配布（必要に応じて前年度使用したテキストを一部使用。前年度テキスト：粕谷てる子『オラ！＜改訂版＞』）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！
- 3回 今日のメニューEl menu del dia
- 4回 何を食べる？
- 5回 何を作る？
- 6回 仕事の紹介
- 7回 この企業は？
- 8回 Misterio en Almagro
- 9回 都会と田舎
- 10回 過去の出来事、点過去と線過去
- 11回 小さかった時・・・
- 12回 その他の時制、法
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。並行して「読み」では、輪読形式で一冊の本を読み進め、日本語の本を最後まで読み通したという自信を持ってもらう。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ：トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】	
3回	大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】	読み(1)輪読
4回	大学生生活(3)【キャンパスツアー】	読み(2)輪読
5回	大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】	読み(3)輪読
6回	大学生生活(5)【図書館ツアー】	読み(4)輪読
7回	大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】	読み(5)輪読
8回	大学生生活(7)【講義の上手な受け方】	読み(6)輪読
9回	大学生生活(8)【演習に参加するコツ】	読み(7)輪読
10回	大学生生活(9)【大学の定期試験】	読み(8)輪読
11回	チュートリアル(1)【学習計画】	
12回	チュートリアル(2)【振り返り】	
13回	チュートリアル(3)【修正】	
14回	チュートリアル(4)【評価】	
15回	総括	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 精読 チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅲでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なくさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Iと日本語IIは、日本語IIIと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に「プレゼンテーション」に焦点を当てる。自己表現の手段としてのプレゼンテーション能力について「説明」と「説得」の二つの側面を考えながら育成する。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『プラクティカル・プレゼンテーション(改訂版)』(上村和美他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミックプレゼンテーション入門』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 セルフチェックしよう【発表・評価】
- 3回 国際空港の中を説明しよう【サンドイッチ構成】
- 4回 レシートのコンテンツを発表しよう【マトリクス思考】
- 5回 国際会議場の使用プランを立てよう【問題点と解決策】
- 6回 レジューメを作ろう【要点】
- 7回 パワーポイントを作成しよう【デジタル・プレゼンテーション】
- 8回 発表しよう・コメント/質問しよう【質疑応答】
- 9回 発表についてセルフチェックしよう【自己評価】
- 10回 同窓会の幹事をしよう【企画・進行】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

デジタル・プレゼンテーション Contents(内容) Techniques(技術) Tools(道具)

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 スタディスキル(1)テーマを決める
- 3回 スタディスキル(2)インターネットで情報を探す
- 4回 スタディスキル(3)資料を読む(批判的な読み方)
- 5回 スタディスキル(4)図解で考える
- 6回 スタディスキル(5)表・グラフを描いてみる
- 7回 スタディスキル(6)レポートの特徴
- 8回 スタディスキル(7)レジュメを作成する
- 9回 スタディスキル(8)パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 10回 論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
- 11回 論理的思考力(2)イラストから読み取ったことを表現する
- 12回 論理的思考力(3)定義をする
- 13回 論理的思考力(4)順序を考えて書いてみる
- 14回 論理的思考力(5)論理的に考えて書いてみる
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一律性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改訂 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ【調査結果】
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 授業外学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。
授業外学生との作文交換活動を行う予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。

具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。

授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学期終了後ではあるが、2月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。簡略ではあるが、着付けも授業で練習する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からのアベノミクスにいたるまでの問題をとりあげ考えていく。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
○井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 戦後の荒廃から復興へ
 - ① 第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱
- 第2回 ② 経済復興へ - 戦後の諸改革
 - 省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦
- 第3回 ③ 占領下の経済から復興へ
- 第4回 高度経済成長
 - ① 高度経済成長へ
- 第5回 ② 重化学工業の発展、国土開発政策の展開
- 第6回 ③ 経済発展と公害、四大公害訴訟
 - ④ 円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出
- 第7回 石油ショックと低成長
 - ① 石油ショックとその影響
- 第8回 ② “重厚長大”から“軽薄短小”へ
- 第9回 ③ 貿易・経済摩擦
- 第10回 ④ 円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出
- 第11回 バブル崩壊、不況
 - ① バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題
- 第12回 ② 長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加
- 第13回 ③ アジア諸国、中国経済の発展と日本経済
- 第14回 現在の日本経済の諸問題
 - ① 少子高齢化社会保障
- 第15回 長期不況とアベノミクス-日本経済は立ち直れるのかー

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本事情 (社会) A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、
- ・ 報告等に利用する。講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスと日本の交流 150 年間を見る。そのことによって日本がいかにイギリス、特にスコットランドから影響を受けて近代化を押し進めたのかを明らかにする。とかく現代の日本人はアメリカに眼を向ける傾向がある。パックス・ブリタニカにおける日本の近代化の実態を明らかにし、日英関係の重要性を再認識したい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 イギリスとはどんな国か
- 第 2 回 長英戦争と薩英戦争-大根をモーリ、ミカンのことを「サツマ」と呼ぶのはなぜか
- 第 5 回 尊王攘夷と長英戦争およびグラバーと倒幕の志士
- 第 6 回 長州 5 傑がイギリス留学から学んだもの
- 第 7 回 回：長英戦争と高杉晋作
- 第 8 回 回：岩倉使節団が見たイギリス産業革命
- 第 9 回 回：大久保利光の殖産興業と雇われ外国人
- 第 10 回 日清戦争と下関条約
- 第 11 回 回：巨額の賠償金をめぐる各国の争い
- 第 12 回 回：官営八幡製鉄所と賠償金
- 第 13 回 回：日露戦争とは何か-朝鮮半島を脅かすロシア対策-
- 第 14 回 回：日露戦争と外債募集
- 第 15 回 回：バルチック艦隊の大遠征とカーディフ炭

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート 30%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 授業以外の学習方法：受講生へのメッセージ
- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

入門演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 /Instructor 豊永 憲治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1年1グループ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済・経営に関する数理解に必要の基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

数学

MTH100M

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

池辺、厚山、水谷、松本著、「新しい微分積分」培風館、1600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：関数とグラフ 【極限】、【連続関数】
- 2回：関数と微分 【接線】、【導関数】
- 3回：指数関数と対数関数(1) 【指数関数のグラフ】
- 4回：指数関数と対数関数(2) 【逆関数】、【対数関数のグラフ】
- 5回：導関数(1) 【n次関数の微分】
- 6回：導関数(2) 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】
- 7回：微分(1) 【関数の和・差の微分】
- 8回：微分(2) 【関数の積・商の微分】
- 9回：微分法(1) 【合成関数の微分】、【対数微分法】
- 10回：微分法(2) 【関数の増減】、【関数の凹凸】
- 11回：不定積分(1) 【n次関数不定積分】
- 12回：不定積分(2) 【指数関数・対数関数の不定積分】
- 13回：定積分(1) 【n次関数の定積分】
- 14回：定積分(2) 【指数関数・対数関数の定積分】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート提出（毎回出題）・・・ 30%
- 期末試験・・・ 70%

数学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目で学んだことは経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」(MTH150M)を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1年IIグループ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済・経営に関する数理解に必要の基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

数学

MTH100M

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

池辺、厚山、水谷、松本著、「新しい微分積分」培風館、1600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 回：関数とグラフ | 【極限】、【連続関数】 |
| 2 回：関数と微分 | 【接線】、【導関数】 |
| 3 回：指数関数と対数関数(1) | 【指数関数のグラフ】 |
| 4 回：指数関数と対数関数(2) | 【逆関数】、【対数関数のグラフ】 |
| 5 回：導関数(1) | 【n次関数の微分】 |
| 6 回：導関数(2) | 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】 |
| 7 回：微分(1) | 【関数の和・差の微分】 |
| 8 回：微分(2) | 【関数の積・商の微分】 |
| 9 回：微分法(1) | 【合成関数の微分】、【対数微分法】 |
| 10 回：微分法(2) | 【関数の増減】、【関数の凹凸】 |
| 11 回：不定積分(1) | 【n次関数不定積分】 |
| 12 回：不定積分(2) | 【指数関数・対数関数の不定積分】 |
| 13 回：定積分(1) | 【n次関数の定積分】 |
| 14 回：定積分(2) | 【指数関数・対数関数の定積分】 |
| 15 回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出（毎回出題）・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

数学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目で学んだことは経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」(MTH150M)を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するための手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報科学的手法を用いて問題の課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報科学入門

INF100M

授業の概要 /Course Description

この科目では1年2学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報知識を身に付けることを目標としている。内容は初歩的なコンピュータ基礎知識、プログラミング法、アルゴリズム（問題を解く手順、解法）などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業概要、情報科学とは
- 第2回 コンピュータ基礎知識① 【コンピュータのしくみ】【OS】【ファイル】【ファイル形式】
- 第3回 コンピュータ基礎知識② 【アプリケーション】【内部データ表現】【情報量の単位】
- 第4回 デジタル vs. アナログ、プログラミングを学ぶ意義
- 第5回 プログラム手順の考え方【フローチャート】
- 第6回 プログラミング基礎①【座標空間】【乱数】
- 第7回 プログラミング基礎②【キー入力】【マルチスレッド】
- 第8回 プログラミング基礎③【変数】【四則演算】
- 第9回 構造化プログラミング①【判断】
- 第10回 構造化プログラミング②【当たり判定】【繰り返し】
- 第11回 構造化プログラミング③【条件を満たすまでの繰り返し】【ずっと繰り返し】
- 第12回 プログラミング④【リスト】【入力】
- 第13回 プログラミング⑤【多重ループ】【プログラム読み取り練習】
- 第14回 フローチャートの読み取り、繰り返し、条件判断の応用
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み70%、期末テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。（この授業向けには1Gb(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義内容は状況により変更になる場合があります。

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するための手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 情報科学的手法を用いて問題の課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報科学入門

INF100M

授業の概要 /Course Description

この科目では1年2学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報知識を身に付けることを目標としている。内容は初歩的なコンピュータ基礎知識、プログラミング法、アルゴリズム（問題を解く手順、解法）などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業概要、情報科学とは
- 第2回 コンピュータ基礎知識① 【コンピュータのしくみ】【OS】【ファイル】【ファイル形式】
- 第3回 コンピュータ基礎知識② 【アプリケーション】【内部データ表現】【情報量の単位】
- 第4回 デジタル vs. アナログ、プログラミングを学ぶ意義
- 第5回 プログラム手順の考え方【フローチャート】
- 第6回 プログラミング基礎①【座標空間】【乱数】
- 第7回 プログラミング基礎②【キー入力】【マルチスレッド】
- 第8回 プログラミング基礎③【変数】【四則演算】
- 第9回 構造化プログラミング①【判断】
- 第10回 構造化プログラミング②【当たり判定】【繰り返し】
- 第11回 構造化プログラミング③【条件を満たすまでの繰り返し】【ずっと繰り返し】
- 第12回 プログラミング④【リスト】【入力】
- 第13回 プログラミング⑤【多重ループ】【プログラム読み取り練習】
- 第14回 フローチャートの読み取り、繰り返し、条件判断の応用
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み70%、期末テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。（この授業向けには1Gb(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義内容は状況により変更になる場合があります。

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するための手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 情報科学的手法を用いて問題の課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報科学入門

INF100M

授業の概要 /Course Description

この科目では1年2学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報知識を身に付けることを目標としている。内容は初歩的なコンピュータ基礎知識、プログラミング法、アルゴリズム（問題を解く手順、解法）などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業概要、情報科学とは
- 第2回 コンピュータ基礎知識① 【コンピュータのしくみ】【OS】【ファイル】【ファイル形式】
- 第3回 コンピュータ基礎知識② 【アプリケーション】【内部データ表現】【情報量の単位】
- 第4回 デジタル vs. アナログ、プログラミングを学ぶ意義
- 第5回 プログラム手順の考え方【フローチャート】
- 第6回 プログラミング基礎①【座標空間】【乱数】
- 第7回 プログラミング基礎②【キー入力】【マルチスレッド】
- 第8回 プログラミング基礎③【変数】【四則演算】
- 第9回 構造化プログラミング①【判断】
- 第10回 構造化プログラミング②【当たり判定】【繰り返し】
- 第11回 構造化プログラミング③【条件を満たすまでの繰り返し】【ずっと繰り返し】
- 第12回 プログラミング④【リスト】【入力】
- 第13回 プログラミング⑤【多重ループ】【プログラム読み取り練習】
- 第14回 フローチャートの読み取り、繰り返し、条件判断の応用
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み70%、期末テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。（この授業向けには1Gb(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義内容は状況により変更になる場合があります。

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するための手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報科学的手法を用いて問題の課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報科学入門

INF100M

授業の概要 /Course Description

この科目では1年2学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報知識を身に付けることを目標としている。内容は初歩的なコンピュータ基礎知識、プログラミング法、アルゴリズム(問題を解く手順、解法)などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料を配付

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業概要、情報科学とは
- 第2回 コンピュータ基礎知識① 【コンピュータのしくみ】【OS】【ファイル】【ファイル形式】
- 第3回 コンピュータ基礎知識② 【アプリケーション】【内部データ表現】【情報量の単位】
- 第4回 デジタル vs. アナログ、プログラミングを学ぶ意義
- 第5回 プログラム手順の考え方【フローチャート】
- 第6回 プログラミング基礎①【座標空間】【乱数】
- 第7回 プログラミング基礎②【キー入力】【マルチスレッド】
- 第8回 プログラミング基礎③【変数】【四則演算】
- 第9回 構造化プログラミング①【判断】
- 第10回 構造化プログラミング②【当たり判定】【繰り返し】
- 第11回 構造化プログラミング③【条件を満たすまでの繰り返し】【ずっと繰り返し】
- 第12回 プログラミング④【リスト】【入力】
- 第13回 プログラミング⑤【多重ループ】【プログラム読み取り練習】
- 第14回 フローチャートの読み取り、繰り返し、条件判断の応用
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み70%、期末テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1Gb(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義内容は状況により変更になる場合があります。

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なプログラミングの基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミングI

INF110M

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【算術演算】
 - 4回 データの型と型変換
 - 5回 配列の利用【配列宣言】
 - 6回 繰り返し(forループ)
 - 7回 繰り返し(2重ループ)
 - 8回 ここまでのまとめと問題演習1
 - 9回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 10回 コンピュータとの対話【メッセージダイアログ】【インプットダイアログ】
 - 11回 フローチャートの書き方
 - 12回 フローチャート演習
 - 13回 演習
 - 14回 演習
 - 15回 まとめと総合問題演習(模擬テスト)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 日頃の取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プログラミングI【昼】

履修上の注意 /Remarks

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングのためのプログラム言語 (Java)について学習すること (プログラム言語のルールの習得) は多くありません。
ルールの1つづつは簡単です。
与えられた問題を解決するプログラムは、学習したそれほど多くはないルールを組み合わせで作成します。
慣れるまでは、この組み合わせ (処理の手順) を考え出すことが相当難しいといえます。慣れるには、できるだけ多くのプログラムを作ることです。また、前期の情報科学入門で学習したscratchが大変参考になります。復習しておいてください。

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 営 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なプログラミングの基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミングI

INF110M

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【算術演算】
 - 4回 データの型と型変換
 - 5回 配列の利用【配列宣言】
 - 6回 繰り返し(forループ)
 - 7回 繰り返し(2重ループ)
 - 8回 ここまでのまとめと問題演習1
 - 9回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 10回 コンピュータとの対話【メッセージダイアログ】【インプットダイアログ】
 - 11回 フローチャートの書き方
 - 12回 フローチャート演習
 - 13回 演習
 - 14回 演習
 - 15回 まとめと総合問題演習(模擬テスト)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 日頃の取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プログラミングI【昼】

履修上の注意 /Remarks

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングのためのプログラム言語 (Java) について学習すること (プログラム言語のルールの習得) は多くありません。
ルールの1つづつは簡単です。
与えられた問題を解決するプログラムは、学習したそれほど多くはないルールを組み合わせで作成します。
慣れるまでは、この組み合わせ (処理の手順) を考え出すことが相当難しいといえます。慣れるには、できるだけ多くのプログラムを作ることです。また、前期の情報科学入門で学習したscratchが大変参考になります。復習しておいてください。

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 営 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なプログラミングの基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミングI

INF110M

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【算術演算】
 - 4回 データの型と型変換
 - 5回 配列の利用【配列宣言】
 - 6回 繰り返し(forループ)
 - 7回 繰り返し(2重ループ)
 - 8回 ここまでのまとめと問題演習1
 - 9回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 10回 コンピュータとの対話【メッセージダイアログ】【インプットダイアログ】
 - 11回 フローチャートの書き方
 - 12回 フローチャート演習
 - 13回 演習
 - 14回 演習
 - 15回 まとめと総合問題演習(模擬テスト)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 日頃の取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プログラミングI【昼】

履修上の注意 /Remarks

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングのためのプログラム言語 (Java) について学習すること (プログラム言語のルールの習得) は多くありません。
ルールの1つづつは簡単です。
与えられた問題を解決するプログラムは、学習したそれほど多くはないルールを組み合わせで作成します。
慣れるまでは、この組み合わせ (処理の手順) を考え出すことが相当難しいといえます。慣れるには、できるだけ多くのプログラムを作ることです。また、前期の情報科学入門で学習したscratchが大変参考になります。復習しておいてください。

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なプログラミングの基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミングI

INF110M

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 課題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。

プログラミングI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学入門【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営学の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営に関する諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学入門

BUS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。

基本的な用語集として、吉田和夫・大橋昭一編(2010)『最新基本経営学用語辞典』同文館出版が有用である。用語集は各概念の確認と理解のために用いる本であり、棒暗記を目的とするものではない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経営学入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) 高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよい。
- (2) 教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。
- (3) 第3回「コーポレート・ガバナンス」は企業論全体の広い内容を含むので、1回の講義に収めるには難しい内容である。場合によっては2回に分けて講述するかもしれない。
- (4) 私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。
履修上の注意にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

経営学入門【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bケル-7
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営学の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営に関する諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学入門

BUS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。

基本的な用語集として、吉田和夫・大橋昭一編(2010)『最新基本経営学用語辞典』同文館出版が有用である。用語集は各概念の確認と理解のために用いる本であり、棒暗記を目的とするものではない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経営学入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) 高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよ。
- (2) 教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。
- (3) 第3回「コーポレート・ガバナンス」は企業論全体の広い内容を含むので、1回の講義に収めるには難しい内容である。場合によっては2回に分けて講述するかもしれない。
- (4) 私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。
履修上の注意にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待（第3版）』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポートの結果（20%）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

マネジメント論基礎【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待（第3版）』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80％）と学期中の小レポートの結果（20％）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

マネジメント論基礎【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

この講義では、「経営学入門」で学習した内容をさらに発展させ、会社(企業)の基本的な仕組みだけでなく、企業経営に関するトピックも取り上げることで、まだ大学に入学して日が浅いみなさんに、少しでも学問の面白さを伝えたいと思っています。

教科書 /Textbooks

入山章栄, 『世界の経営学者はいま何を考えているのか』, 英治出版, 2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

荒井一博, 『ファンダメンタル ミクロ経済学』, 中央経済社, 2008年。
 伊藤秀史, 『ひたすら読むエコノミクス』, 有斐閣, 2012年。
 乙政正太, 『財務諸表分析』, 同文館出版, 2009年。
 掛谷英紀, 『学問とは何か』, 大学教育出版, 2005年。
 G.キング・R.O.コヘイン・S.ヴァーバ, 『社会科学のリサーチ・デザイン - 定性的研究における科学的推論』, 勁草書房, 2004年。
 神原清則, 『経営学入門 [上]』〈第2版〉, 日本経済新聞社, 2013年。
 神原清則, 『経営学入門 [下]』〈第2版〉, 日本経済新聞社, 2013年。
 竹内薫, 『99.9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』, 光文社新書, 2006年。
 角田康夫, 『新版行動ファイナンス』, 金融財政事情研究会, 2011年。
 戸田山和久, 『科学的思考のレッスン - 学校で教えてくれないサイエンス』, NHK出版, 2011年。
 古川浩一・蜂谷豊彦・中里宗敬・今井潤一, 『コーポレート・ファイナンスの考え方』, 中央経済社, 2013年。
 H.E.ブレイディ・D.コリアー, 『社会科学の方法論争 - 多様な分析道具と共通の基準』, 勁草書房, 2008年。
 森博嗣, 『科学的とはどういう意味か』, 幻冬舎, 2011年。
 (その他の参考書は講義で紹介します)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的と意義, 成績評価の方法】
- 第2回 経営学と企業論【学問・経営学・企業論・コーポレート・ガバナンス】
- 第3回 社会科学としての経営学【経営学・社会科学】
- 第4回 経営学の研究方法①【理論分析・実証分析】
- 第5回 経営学の研究方法②【経済学ディシプリン・認知心理学ディシプリン・社会学ディシプリン】
- 第6回 経営学の研究方法③【経営戦略論, 統計学, 回帰分析】
- 第7回 起業家とベンチャー・ビジネス①【アントレプレナー, 株式会社, 合同会社, 合名会社, 合資会社】
- 第8回 起業家とベンチャー・ビジネス②【シリコンバレー, ITベンチャー】
- 第9回 企業経営とM&A【株式会社, M&A, TOB, コーポレート・ガバナンス】
- 第10回 企業会計と財務諸表①【財務諸表, 粉飾決算, コーポレート・ガバナンス】
- 第11回 企業会計と財務諸表②【公認会計士, 会計監査, コーポレート・ガバナンス】
- 第12回 企業経営のトピック①【ダイバーシティ, CSR, コーポレート・ガバナンス】
- 第13回 企業経営のトピック②【ダイバーシティ, コーポレート・ガバナンス】
- 第14回 証券市場と行動ファイナンス【伝統的ファイナンス理論, 行動ファイナンス理論, 効率的市場仮説 (EMH)】
- 第15回 まとめ

企業論基礎 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% , レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科の学生は「経営学入門」・「簿記論I」・「入門経済学A(ミクロ経済学)」を履修済みで、「マネジメント論基礎」・「簿記論II」・「経営統計」を履修中(または履修済み)であることが望ましい。

毎回、講義資料(「虫食いレジメ」とパワーポイント)を使用します。講義資料は学習支援フォルダにアップしているので、毎回ダウンロード&プリントアウトしていただくこと(経済学部→松本守→企業論基礎→講義資料)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論Ⅰ

ACC110M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Ⅰでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論I【昼】

キーワード /Keywords

簿記論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論Ⅰ

ACC110M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Ⅰでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論I【昼】

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 1年Aグループ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基本的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基本的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基本的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論II

ACC111M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論II 【昼】

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 1年Bグループ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 簿記の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 簿記に関する基本的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 簿記に関わる基本的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 簿記に関わる基本的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論II

ACC111M

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論II【昼】

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジюмеを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジюмеの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジюмеを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジюмеの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書。必ず掲示を確認すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。

第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

繰り返し読書することの楽しさを修得してほしい。同時に、学ぶ習慣を修得してほしい。

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、テキストを輪読しながら、専門演習IIの目的である、実際の財務データ（財務諸表や株価）を用いた企業分析を行うのに必要な基礎知識を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、プログラミング言語Javaをしっかりと習得し、卒業研究でJavaを応用して、WindowsやAndroidの（ゲームや実用的な）アプリ作成、経済・経営についてのシミュレーション分析などをする準備をします。

教科書 /Textbooks

未定（第1回目に相談して決定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に連絡。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ゼミ運営方法、進め方決定
- 第2回:報告、報告内容について演習1
- 第3回:報告、報告内容について演習2
- 第4回:報告、報告内容について演習3
- 第5回:報告、報告内容について演習4
- 第6回:報告、報告内容について演習5
- 第7回:報告、報告内容について演習6
- 第8回:報告、報告内容について演習7
- 第9回:報告、報告内容について演習8
- 第10回:報告、報告内容について演習9
- 第11回:報告、報告内容について演習10
- 第12回:報告、報告内容について演習11
- 第13回:報告、報告内容について演習12
- 第14回:報告、報告内容について演習13
- 第15回:報告、報告内容について演習14

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

初回に進め方、具体的な内容を決定するので、授業の概要にあるような内容で、どのようなことを勉強したいか、卒業研究でそのようなことをしたいか考えておくこと。

無断欠席、遅刻厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

企業分析に必要なスキルの獲得を目指す。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①課題発見・分析・解決力および実践力（チャレンジ力）：
有価証券報告書等の公表データの分析方法を習得し、企業分析の有用性を理解する。
- ②コミュニケーション力：
チームを組んで特定の課題に取り組む経験をする。
- ③プレゼンテーション力：
パワーポイントを使ったプレゼンテーション能力を向上させる。

教科書 /Textbooks

クリシュナ・G. パレプ, ビクター・L. バーナード, ポール・M. ヒーリー. 2001. 『企業分析入門 第2版』東京大学出版会.
石黒圭. 2012. 『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桜井久勝 『財務諸表分析』中央経済社.
大津広一. 2013. 『会計と戦略思考力<新版>』日本経済新聞社.
伊藤洋. 2003. 『財務コーチング-最少のエネルギーで財務の要諦を押さえる85のポイント』東洋経済新報社.

藤沢晃治 『「分かりやすい表現」の技術』講談社
藤沢晃治 『「分かりやすい説明」の技術』講談社
藤沢晃治 『「分かりやすい文章」の技術』講談社

太田芳徳. 2013. 『リクルートを辞めたから話せる、本当の「就活」の話 無名大学から大手企業へ (PHPビジネス新書)』PHP研究所.
吉田正樹・津田久資. 2012. 『天才ではない君たちは「ひらめき」に頼るな、「論理」を手に進め。』中経出版.
刈谷剛彦. 2002. 『知的複眼思考法 - 誰でも持っている創造力のスイッチ - 』講談社.
佐藤可士和. 2011. 『佐藤可士和の超整理術』日本経済新聞社.

専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ研究①
- 2回 グループ研究②
- 3回 グループ研究③
- 4回 グループ研究④
- 5回 グループ研究⑤
- 6回 グループ研究⑥
- 7回 グループ研究⑦
- 8回 グループ研究⑧
- 9回 グループ研究⑨
- 10回 グループ研究⑩
- 11回 グループ研究⑪
- 12回 グループ研究⑫
- 13回 グループ研究⑬
- 14回 グループ研究⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

1・2年で学んだ経営学の基礎知識の復習、および、経営戦略論の基礎知識についての学習を目的とします。
本演習の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略、経営組織、人的資源管理に関する知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

『経営戦略の論理（第4版）』（伊丹敬之著）日本経済新聞社、2000円。
『ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）』（伊丹敬之・西野和美編著）日本経済新聞社、1900円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 基本事項の確認
 - 第3回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第4回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第5回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第6回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第7回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第8回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第9回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第10回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第11回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第12回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第13回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第14回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第15回 まとめ
- なお、上記以外に合宿での勉強会を実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1年時からの科目、特に経営学系の科目の復習をしてからのぞむようにしてください。
2年次科目 経営戦略の講義を履修している方が望ましい。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

専門演習I【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

UMLを用いたシステムの分析と設計について考える。
UMLの基本から始め、UMLを用いたシステム開発事例を調べることで、UMLのよい活用法について学ぶ。
既存のシステムに対する改善点を考え、UMLを用いて新しいシステムの設計、構築、評価を行う。
参加者の興味に応じて、テーマは変更してもよい。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミテーマの決定
- 2回～14回 報告、演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 80% 日常の授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各自でテーマをしっかりと考えておいて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

演習II～IVまで継続して履修し、個々の興味に従って実際にデータを取り、それを分析してまとめた卒業論文を書くことを前提としています。基本的には卒業論文でアンケート調査を行い、分析できるようになるための知識を身につけられるような内容にしたいと考えています。具体的な内容は、学生の興味、関心、能力等を確認した上で決定します。

この演習を通して、問題解決のための情報収集、処理、意思決定の過程を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2～5回 調査法の基礎
6～14回 データ解析手法の基礎
15回 まとめ

この他に、合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

企業データ分析を同時に履修するようにしてください

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の入門書を輪読しながら、質疑応答形式で進めていく。三年次では財務会計の基礎知識の修得に重点を置く。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門演習I【昼】

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計論講義（15版）』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（1回目）
 - 3回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（2回目）
 - 4回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（3回目）
 - 5回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（4回目）
 - 6回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（5回目）
 - 7回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（6回目）
 - 8回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（7回目）
 - 9回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（8回目）
 - 10回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（9回目）
 - 11回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（10回目）
 - 12回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（11回目）
 - 13回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（12回目）
 - 14回 教科書のレジюме報告、卒論報告、企業分析の報告（13回目）
 - 15回 まとめ
- この他に、ゼミ合宿を予定している。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。また、演習の事前、事後に準備、復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

ゼミでは「新事業」をテーマにしています。地元はもとより、国内さらには世界で起きているさまざまなことに問題意識を持ち、リスクを恐れずに果敢にチャレンジする人間になることを目指しています。

ゼミでは自分自身が興味を持ち、みんなに知って欲しいと思うことを毎回発表し、意見交換を行います。また月に一度、北九州市内の企業や施設などを訪問して、現場を直に触れ、経営者や担当者の方々から生の声を聞くようにします。さらに希望者には、私自身が関与しています企業や行政機関などとの会議や研究会に出席して、実際の仕事がどのように執り行われているのか、体験してもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜プリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 プレゼンテーション① (毎回2~3人が各自関心を持っていることを発表し、全員で意見交換)
- 3回 プレゼンテーション②
- 4回 視察① (北九州市内の企業や施設など)
- 5回 プレゼンテーション③
- 6回 プレゼンテーション④
- 7回 視察②
- 8回 プレゼンテーション⑤
- 9回 プレゼンテーション⑥
- 10回 視察③
- 11回 プレゼンテーション⑦
- 12回 プレゼンテーション⑧
- 13回 視察④
- 14回 プレゼンテーション⑨
- 15回 まとめ

※必要に応じて、企業や行政機関などとの会議や研究会、イベントに出席します。
※ゼミ合宿を予定しています。

専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習姿勢・・・100%
結果ではなく、プロセス（取り組む姿勢）を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃からいろいろなことに興味を持ち、行動するように心掛けて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな機会を提供しますので、自らの五感で感じて下さい。そして自分なりに評価して下さい。言い尽くされた格言ですが、「百聞は一見にしかず」「失敗は成功のもと」です。若い今の時期に、いろいろなことにチャレンジしてください。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の 2 つの視点から実践的な問題解決能力を育成することがねらいです。ORは「経営の科学」です。ORが扱う問題は、機械やコンピュータだけではどうしようもない、人間が介在する問題です。この問題を解決するための方法がORです。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC
松井泰子ら共著『入門オペレーションズ・リサーチ』2011年、東海大学出版会
Ed Burmette著『初めてのAndroid第3版』2011年、O'REILLY

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大野勝久ら共著『Excelによる経営科学』2007年、コロナ社
掌田津耶乃著『Eclipse3ではじめるJavaプログラミング入門Eclipse3.3対応』2007年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

以下の方針で受講生と相談しながらすすめる。
<内容> コンピュータを使って問題解決を行う。
<方法> グループに分けグループゼミを行う。

1～3回 オリエンテーション

4～15回 『初めてのAndroid第3版』の担当範囲を決めて、Androidアプリの作成方法について発表する
Androidアプリの作成

グループゼミでは協力して、発表者の担当テーマのレジюме作成、発表用資料を作成する。
ゼミではグループの相互交流とプレゼンテーションの場とする。
学習の一環として、ゼミ合宿を実施します。

<モットー> 楽しく、活発な議論で盛り上がる。
「まず、やってみよう」の精神を重んじる。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

積極的な受講態度、演習結果、及び報告内容等を総合的に評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生にお勧めのゼミです。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 アプリ開発

専門演習I【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる（＝キャリア）、人と組織の能力を引き出す（＝人的資源管理）という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。論理的に考え、物事の本質を捉えることは、みなさんがこれから企業で働くうえでの必須条件です。論理的思考能力の鍛錬に最適です。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なう練習をしていきます。専門演習Iでは人的資源管理の基礎知識を習得することを目指します。したがって、入門的な教科書を1回で1章ずつ読み進めていく予定です。毎回、報告者を指名しますので、必ず報告してください。1学期あたり割り当てられる報告回数は、ゼミ人数により変化します。文献講読のほか、可能な限り卒業論文の書き方や文献検索の方法についても概説したいと思っています。あと、このゼミでは他大学との合同ゼミ形式による合宿を行なう予定です。昨年度は12月に行ないましたが、今年度は何月に行なわれるか先方の都合で未定であり、もしかすると専門演習Iのなかで実施される可能性もあります。その場合は、合同ゼミ（合宿）への参加を専門演習Iの正課として位置づけることとします。

教科書 /Textbooks

奥林康司・原田順子編(2014)『人的資源管理』放送大学教育振興会。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan (上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)。

その他参考文献についてはゼミ内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (第1回)ゼミの概要説明と報告者の割当
- (第2回)企業経営と人的資源管理(この回は福井による講義形式とします)
- (第3回)日本的人的資源管理の変遷(この日より諸君に報告を行なってもらいます)
- (第4回)組織構造と職務内容
- (第5回)人事等級制度
- (第6回)人事考課制度
- (第7回)報酬制度
- (第8回)キャリア開発
- (第9回)労使コミュニケーション
- (第10回)雇用区分の多元化と人材ポートフォリオ
- (第11回)女性労働者と雇用
- (第12回)知識労働者
- (第13回)グローバル人材の特性とその育成
- (第14回)民間企業以外における人的資源管理
- (第15回)学習内容の整理

専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 50% 期末レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必修科目なので、必ず履修登録してください。
演習内容との関連では、「人的資源管理論」を並行して受講するとよいでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書は必ず購入してください。2人一組で使用している人もこれまででしたが、レポート作成の際に使えなくなります。教科書は卒業研究作成の際にも必須です。そのうえで毎週のゼミに備え各自で予習するようにしてください。
さらに、ゼミ課外になりますが、経済学部主催の就職活動支援イベントにも可能な限り出席してください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理

専門演習I【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、企業のマーケティング問題を分析的に解明し、論理的かつ実践的な解決策を提案しうる能力を身につけることを狙いとし、ケース討論を中心に行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～15回 ケース演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合(100%)によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

我が国の経済社会においては、戦後から1990年代まで、六大企業集団が君臨し、経済界を支配していた。株式所有構造における株式相互持合いというきわめて特異な手法で、集団を形成する状況は、戦前の財閥(大コンビネーションとよばれた)を彷彿させるものであった。この強力な支配構造は、次の理由で、バブルとともに瓦解していった。

すなわち、バブル崩壊によって、株式相互持合いの維持は困難となった(持合いコストの非合理性～何と言っても「含み経営=日本の信用創造」の崩壊)。同時に進行する世界的レベルでの大競争時代の到来は、日本経済の既存の枠組みに対して根本的な再検討・再編を迫るに十分であった。既存の集団のレベルでは、もはや対処できない大競争時代の到来であることを六大企業集団に知らしめたであろう。それ故、既存のシステムは、大転換を迫られるとともに、転換・再編を成し遂げるべき幾多の制度上の大改正を迫られた。

企業論・株式会社論の次元においては、商法から会社法への制度転換や証券取引法から金融商品取引法への改正がみられる。また、企業形態そのものに即して言えば、戦後の企業社会におけるもうひとつの9条(持株会社の禁止)といわれた独禁法第9条を改正して、純粋持株会社をついに解禁した。これが1997年である。

かくして今や、日本の企業社会においては、その基底に持株会社解禁の寵児ともいべきメガバンクが君臨するにいたっている。

演習では、わが国の経済社会が体験しつつある、この未曾有の大転換の中でも、この持株会社の解禁に焦点をあてて演習を展開していくことにする。演習Iでは、まず、企業形態論といわれる分野で展開されているアプローチにより、単純な企業形態から持株会社にいたるまでの企業形態に関する理論展開の基礎を学習していく。

教科書 /Textbooks

次のような標準的テキストから、参加者と相談して決定する。小松章『企業形態論～第3版～』新世社、2006年、牛丸元『スタンダード企業論』同文館、2013年、下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、企業論関係の文献～下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣(2006)〔○〕・小松章『企業形態論第3版』新世社(2006)〔○〕・ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)・上村達男・金見昭『株式会社はどこへ行くのか』日経(2007)
- 2、法律関係の文献～布井千博『会社法』2011・『会社法制の見直しに関する要綱の概要』別冊商事法務№372、2012

専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態～私企業・公企業・公私混合企業の分類。【企業形態】
- 2回 公企業と公私混合企業～公企業の成熟・衰退および民営化。【民営化】
- 3回 私企業～私企業の分類。営利企業と非営利企業。【私企業】【営利企業】
- 4回 私企業（営利企業）の分類～法人企業と非法人企業。【法人企業】
- 5回 法人と自然人～法人・組合。組合的規律。【法人】【組合】
- 6回 会社～会社法上の会社。会社法上の会社の種類。【会社】【会社法】
- 7回 いわゆる人的会社と物的会社。人的資本会社。【人的会社】【物的会社】
- 8回 株式会社～公開株式会社と非公開株式会社。【公開】【非公開】
- 9回 公開（上場）・非公開（非上場）と会社法上の公開会社。【公開会社】
- 10回 会社機関～株主総会・取締役会・監査役会。【会社機関】
- 11回 企業間結合～企業間の集中。企業集団。【企業間結合】【企業集団】
- 12回 持株会社～持株会社の解禁。独禁法9条。【持株会社】【コンツェルン】
- 13回 二つの持株会社～純粋持株会社と事業持株会社。【純粋持株会社】【分社化】
- 14回 持株会社の機能～組織再編機能としての持株会社【持株会社の機能】
- 15回 まとめ（原則として期末試験を行う）

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の実施(参加)状況を勘案して、原則として期末試験を実施するので、注意すること。
期末試験(演習で学習・議論したテーマに関連した問題を出題)...100%、ボーナスとしてレジユメの作成と報告...20%（この割合を100点満点で換算する）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①、真摯なレジユメの作成と報告、
- ②、わからないことを解明（理解）しようとする熱意
- ③、繰り返し読書する熱意
- ④、指定されたテキストは必ず用意すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞・雑誌では、持ち株会社と表記されますが、持株会社です。テーマは、この持株会社です。まず、演習に参加して発言するところから、始まります。

キーワード /Keywords

個別企業・会社法上の会社・会社機関・六大企業集団・持株会社・メガバンク

専門演習I【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を論じ、経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考える。
- 2.習得した知識とスキルをもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を理解し、ファジイ関係による表現を学習する。
- 2.経済や経営に関するトピックを選び、人の好みのアンケートのデータを通して課題を分析する。
- 3.分析結果をまとめ、発表する力を養う。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○西田俊夫、竹田英二著、「ファジイ集合とその応用」森北出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基礎の学習：【不確実性】、【あいまい性の数理表現】、【ファジイ集合とファジイ関係】
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 パソコンによる基礎的な計算
- 7回 同上
- 8回 基礎の学習：【ファジイ関係の基本性質】、【好みの数理表現と計算】
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 アンケート作成の基礎
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取り組み・・・ 100%

専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基礎的なことから説明しますので、できる限り毎回出席してください。
高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいですが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期の終わりからはグループでパソコン(エクセル)による簡単な計算を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジィ関係

専門演習I【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

経営学に関する基礎知識・基礎情報の学習を材料として、「組織と個人の統合」について考えます。またその中で、全体を通じて、学ぶ力、読み・書き・話す力をつけることを目指します。

到達目標は以下の通りです。

- ①経営学に関する基礎知識を修得する。
- ②組織と個人の統合を実現するための方策を考える思考力を身につける。
- ③学ぶ力をつける。
- ④読み・書き・話す力をつける。

教科書 /Textbooks

三戸公『ドラッカー』未来社，1971年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三井泉編『フォレット』文真堂，2012年(○)
三戸公『随伴の結果』文真堂，1994年(○)
三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論[第3版]』有斐閣，2011年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読および議論
- 3回 文献輪読および議論
- 4回 文献輪読および議論
- 5回 文献輪読および議論
- 6回 文献輪読および議論
- 7回 文献輪読および議論
- 8回 文献輪読および議論
- 9回 文献輪読および議論
- 10回 文献輪読および議論
- 11回 文献輪読および議論
- 12回 文献輪読および議論
- 13回 文献輪読および議論
- 14回 文献輪読および議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度 ... 50% 報告内容・準備度 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習では、「組織と個人の統合」に関する論文・文献を輪読します。各回一人ずつ担当を割り当て、レジメを作成し、報告を行ってもらう予定です。その報告を元に、全員で議論します。各自準備して臨んでください。
状況に合わせて臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。
合宿を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

統合，責任，自由

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

主にマーケティングとマーケティング分析について発表とディスカッションをとおして学びながら、企業の販売活動と消費者の行動を調査・分析する視点の習得を行います。
本演習の受講をつうじて、企業のマーケティング活動にまつわる基礎的な分析視点を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

必要な場合、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

恩蔵 直人・ 富田 健司『1からのマーケティング分析』2011,碩学社。
沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』2008,有斐閣。
嶋口充輝・ 黒岩健一郎・ 内田和成『1からの戦略論』2009,碩学社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ケースの輪読とディスカッション
- 第3回 教科書の輪読とディスカッション
- 第4回 教科書の輪読とディスカッション
- 第5回 教科書の輪読とディスカッション
- 第6回 教科書の輪読とディスカッション
- 第7回 教科書の輪読とディスカッション
- 第8回 教科書の輪読とディスカッション
- 第9回 教科書の輪読とディスカッション
- 第10回 教科書の輪読とディスカッション
- 第11回 教科書の輪読とディスカッション
- 第12回 教科書の輪読とディスカッション
- 第13回 教科書の輪読とディスカッション
- 第14回 教科書の輪読とディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・報告内容50%、日頃の取組状況50%
出席・遅刻が多い場合は単位を認めません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の履修準備に一定の時間が求められる点に注意してください。無断欠席、遅刻厳禁です。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本ゼミは会計学、特に財務会計や監査論の枠組みを基礎に思考を深める会計学系列の一ゼミです。しかしながら、決して狭い視点にとらわれて研究テーマを定める必要はなく、ビジネスや社会全般を広く、分析・研究対象を見出すゼミです。しかるに将来の卒業研究に際しては、自分が強く関心を持つテーマを自由に選び、その上で、会計学的思考方法を部分応用すれば良い、と考えます。

専門演習1にては、履修者同士がよく知り合うこと、それに会計的思考の枠組みや基礎を身につけるようにします。学期の後半に至っては、履修者各人が、徐々に、自分の研究テーマを絞り込んでいくことが目標になります。

授業は、教員による授業や説明が60分。履修者自身の話題提供、発表、プレゼンテーション、ディスカッション等が30分、のあわせて90分を、およその時間の使い方として考えています。教員は、たとえ話をたくさん用いて、会計学やビジネスの世界での考え方を履修者にわかりやすくお話しします。ところで、企業比較をするための財務諸表分析の手法は、このゼミで学べる、メインに位置するものでしょう。

教科書 /Textbooks

担当教員は大学院マネジメント研究科に属しているので、大学院ビジネススクールのアカウントिंग（会計）の授業で用いている全130頁程度のテキスト（任 章 著『アカウントिंगと財務諸表分析』）を無償配布し、それを使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度、様々な図書や情報ソースが参考にされるべきであり、しかるに特に、事前指定することはありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

専門演習は、その都度、履修者の意欲、関心、能力、希望、などを十分考慮し、臨機応変に進めていくべきクラスです。しかるに以下の授業計画は、あくまで、一つのモデルプランとして示されるものです。

- 1回 【オリエンテーション】
- 2回 自己紹介プレゼンテーションの方法とその実施【プレゼンテーション】
- 3回 ライブラリーサーチと、図書や参考資料渉猟の方法や態度【ライブラリーサーチ】
- 4回 会計学を学ぶ意義と、他の学問分野との関わりを知る【会計学】
- 5回 財務会計の基礎知識【財務会計】
- 6回 会計監査論の基礎知識【監査】
- 7回 経済記事と会計情報【会計情報】
- 8回 会計学の知識確認のためのクイズの実施
- 9回 簿記検定や資格試験と、会計人のキャリアを考える【キャリア】
- 10回 会計学を基盤にした研究テーマのバリエーションを知る【研究テーマ】
- 11回 研究論文とは何かと、研究態度について【論文】
- 12回 自分の関心を持つテーマの選定とその理由【テーマ】
- 13回 仮研究テーマについての発表
- 14回 研究テーマ執筆のための序奏
- 15回 まとめ(今学期のゼミナールのWrap-up)

専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

教室での積極性とコントリビューション、リーダーシップ発揮の程度ほかの定性的要素 (50%)、および、その都度のプレゼンテーションと提出レポートの出来 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

病欠、避けえない事情以外での欠席をしないこと (基本的に全員、遅刻なし。全出席を目指す)。さらにゼミ履修者全体でのチームワークを重視するので、何事にも協調性と、他の人への思いやりをもって、ゼミ生間の人間関係を築くよう期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、様々な意味でバランスのとれたゼミ活動の実践を目指します。ただ、「ゼミを楽しむ」ためには、他方で自分で自分を厳しく律する態度が必要です。教員の私は履修者を大人と見なしていますので、些細なことで注意をしたりはしないと思います。履修者の皆さん自身の積極性や主体性が、ゼミを有意義に進める上でのカギになります。

キーワード /Keywords

会計 (アカウンティング)、監査、内部統制、リスク、財務諸表、キャッシュフロー、利益、アニュアルレポート、他

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、受講者がファイナンスの基本的な理論をふまえて、実際の財務データ（財務諸表や株価）を用いた企業分析を行い、その分析結果を第三者に説得的に伝えるスキルを身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

専門演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習IIでは、演習Iで学んだことを元にjavaプログラミングの応用知識を得ることを目標とする。

教科書 /Textbooks

未定（相談して決定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後に連絡。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：報告、報告内容について演習1
- 第2回：報告、報告内容について演習2
- 第3回：報告、報告内容について演習3
- 第4回：報告、報告内容について演習4
- 第5回：報告、報告内容について演習5
- 第6回：報告、報告内容について演習6
- 第7回：報告、報告内容について演習7
- 第8回：報告、報告内容について演習8
- 第9回：報告、報告内容について演習9
- 第10回：報告、報告内容について演習10
- 第11回：報告、報告内容について演習11
- 第12回：報告、報告内容について演習12
- 第13回：報告、報告内容について演習13
- 第14回：報告、報告内容について演習14
- 第15回：報告、報告内容について演習15

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

無断欠席、遅刻厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門演習II【昼】

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

企業分析に必要なスキルの獲得を目指す。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①課題発見・分析・解決力および実践力（チャレンジ力）：
有価証券報告書等の公表データの分析方法を習得し、企業分析の有用性を理解する。
- ②コミュニケーション力：
チームを組んで特定の課題に取り組む経験をする。
- ③プレゼンテーション力：
パワーポイントを使ったプレゼンテーション能力を向上させる。

教科書 /Textbooks

クリシュナ・G. パレブ, ビクター・L. バーナード, ポール・M. ヒーリー. 2001. 『企業分析入門 第2版』 東京大学出版会.

石黒圭. 2012. 『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』 日本実業出版社.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桜井久勝 『財務諸表分析』 中央経済社.
大津広一. 2013. 『会計と戦略思考力<新版>』 日本経済新聞社.
伊藤洋. 2003. 『財務コーピング-最少のエネルギーで財務の要諦を押さえる85のポイント』 東洋経済新報社.

藤沢晃治 『「分かりやすい表現」の技術』 講談社
藤沢晃治 『「分かりやすい説明」の技術』 講談社
藤沢晃治 『「分かりやすい文章」の技術』 講談社

太田芳徳. 2013. 『リクルートを辞めたから話せる、本当の「就活」の話 無名大学から大手企業へ (PHPビジネス新書)』 PHP研究所.
吉田正樹・津田久資. 2012. 『天才ではない君たちは「ひらめき」に頼るな、「論理」を手に進め。』 中経出版.
荻谷剛彦. 2002. 『知的複眼思考法 - 誰でも持っている創造力のスイッチ - 』 講談社.
佐藤可士和. 2011. 『佐藤可士和の超整理術』 日本経済新聞社.

専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ研究①
- 2回 グループ研究②
- 3回 グループ研究③
- 4回 グループ研究④
- 5回 グループ研究⑤
- 6回 グループ研究⑥
- 7回 グループ研究⑦
- 8回 グループ研究⑧
- 9回 グループ研究⑨
- 10回 グループ研究⑩
- 11回 グループ研究⑪
- 12回 グループ研究⑫
- 13回 グループ研究⑬
- 14回 グループ研究⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

ケース研究をつうじて経営分析の能力を身につけることを目的とします。
本演習の受講をつうじて、様々な企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略、経営組織、人的資源管理についての知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特になし。様々なメディアに掲載されているケース資料を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ケース研究および討議。
 - 第3回 ケース研究および討議。
 - 第4回 ケース研究および討議。
 - 第5回 ケース研究および討議。
 - 第6回 ケース研究および討議。
 - 第7回 ケース研究および討議。
 - 第8回 ケース研究および討議。
 - 第9回 ケース研究および討議。
 - 第10回 ケース研究および討議。
 - 第11回 ケース研究および討議。
 - 第12回 ケース研究および討議。
 - 第13回 ケース研究および討議。
 - 第14回 ケース研究。
 - 第15回 まとめ
- なお、受講生と相談のうえ、上記以外に企業訪問、工場見学なども実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習Iで学んだ理論研究、ケース研究の復習をしておくようにしてください。
2年時科目の経営戦略の講義を履修している方が望ましい。

専門演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Iに引き続き、UMLを用いたシステムの分析、設計、構築、評価などを行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 報告、演習

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...80% 日常の授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒業研究に対するテーマを考えること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、アンケート調査を行い、データを分析し、それをまとめてプレゼンテーションできるようになるための基礎を身につけてもらいます。

この演習を通して、問題解決のための情報収集、処理、意思決定の過程を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2～9回 マーケティング・サイエンスの教科書輪読
10～14回 質問紙調査の実習と発表練習
15回 まとめ

この他に、合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の入門書を輪読しながら、質疑応答形式で進めていく。三年次では財務会計の基礎知識の修得に重点を置く。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% デイスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計論講義（15版）』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（1回目）
 - 3回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（2回目）
 - 4回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（3回目）
 - 5回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（4回目）
 - 6回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（5回目）
 - 7回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（6回目）
 - 8回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（7回目）
 - 9回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（8回目）
 - 10回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（9回目）
 - 11回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（10回目）
 - 12回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（11回目）
 - 13回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（12回目）
 - 14回 教科書のレジюме報告、卒論報告等（13回目）
 - 15回 まとめ
- この他に、ゼミ合宿を予定している。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）50% 課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習Ⅱに引き続き、自分自身が興味を持ち、みんなに知って欲しいと思うことを毎回発表し、意見交換を行います。また月に一度、北九州市内の企業や施設などを訪問して、現場を直に触れ、経営者や担当者の方々から生の声を聞くようにします。さらに希望者には、私自身が関与しています企業や行政機関などとの会議や研究会に出席して、実際の仕事がどのように執り行われているのか、体験してもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜プリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレゼンテーション① (毎回2～3人が各自関心を持っていることを発表し、全員で意見交換)
- 2回 プレゼンテーション②
- 3回 視察① (北九州市内の企業や施設など)
- 4回 プレゼンテーション③
- 5回 プレゼンテーション④
- 6回 視察②
- 7回 プレゼンテーション⑤
- 8回 プレゼンテーション⑥
- 9回 視察③
- 10回 プレゼンテーション⑦
- 11回 プレゼンテーション⑧
- 12回 視察④
- 13回 プレゼンテーション⑨、卒業研究のテーマ検討①
- 14回 プレゼンテーション⑩、卒業研究のテーマ検討②
- 15回 まとめ

※必要に応じて、企業や行政機関などとの会議や研究会、イベントに出席します。
※終盤で卒業研究のテーマを検討します。

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習姿勢・・・100%
結果ではなく、プロセス (取り組む姿勢) を評価します。

専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃からいろいろなことに興味を持ち、行動するように心掛けて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やろうか、やるまいか、迷ったときは、やって下さい。何もしなければ、何も得ることができません。何かすれば、必ず得るものがあります。こじんまり纏ろうとせず、リスクを好んで受け入れて下さい。

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することがねらいです。ORが取扱う問題は、機械やコンピュータだけではどうしようもない、人間が介在する問題です。この問題を解決するための方法がORです。ORで取り扱う問題を情報技術を用いてアプリケーションを作成する能力を育成します。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC
松井泰子ら共著『入門オペレーションズ・リサーチ』2011年、東海大学出版会
Ed Burnette著『初めてのAndroid第3版』2011年、O'REILLY

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大野勝久ら共著『Excelによる経営科学』2007年、コロナ社
掌田津耶那著『Eclipse3ではじめるJavaプログラミング入門Eclipse3.3対応』2007年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

以下の方針で受講生と相談しながらすすめる。

<内容> 問題解決のテーマ(卒業論文のテーマ)を見つける。身近な問題を解決するアプリを作成。

<方法> グループごとに、テキストに沿って、OR手法を習得する。

1~15回 『入門オペレーションズ・リサーチ』の担当範囲を決め、ORの各種手法について発表する。
また、専門演習Iで学習したAndroidアプリ開発方法を用いて、OR手法をプログラミングしてみる。

ゼミの時間はプレゼンテーションの場とし、卒業研究のテーマについてグループゼミを実施する。

【OR】【環境問題】【社会問題】
ポスターセッションに参加し、発表する。
各種コンテストに出展する。

グループゼミでは卒業研究のテーマに沿って、プログラム開発や調査報告を行う。

調査見学旅行も予定

<モットー> 楽しく、活発な議論で盛り上がる。
「まず、やってみよう」の精神を重んじる。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 課題...50% 発表...30%

専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的な受講態度、演習結果、及び報告内容等を総合的に評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生にお勧めのゼミです。iPhoneやAndroid携帯などスマートフォン上で動くアプリを作成します。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 アプリ開発 Java iOS AndroidOS

専門演習II【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる（＝キャリア）、人と組織の能力を引き出す（＝人的資源管理）という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。論理的に考え、物事の本質を捉えることは、みなさんがこれから企業で働くうえでの必須条件です。論理的思考能力の鍛錬に最適です。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なう練習をしていきます。

専門演習IIでは、前半7回程度を卒業研究の作成方法概説にあて、後半8回程度は、各自で関心のあるテーマについて報告してもらう予定です。ただし、教科書の進み具合やゼミ人数を勘案し、かつゼミ生からの意見も踏まえた上で、ゼミの進め方を変更する可能性はあります。

また、このゼミでは他大学との合同ゼミ形式による合宿を予定しており、これが2学期中に実施されることになった場合（先方の都合もあり実施時期が現時点で未定）は、上で記した概要ではなく合同ゼミ報告に向けた準備を行なうこととなります。合同ゼミは専門演習IIの正課として実施されるので、開催された場合の出席は必須となります。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。必要に応じて論文を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan (上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)。
佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2011)『新しい人事労務管理(第4版)』有斐閣』
岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。
その他、専門演習Iで用いる教科書も有用です。良い参考書が見つければゼミ内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第7回)
卒業研究の作成過程(たとえば問題・テーマの設定、資料収集の方法、理論構築など)について段階を追って説明します。

(第8回～第15回)
各自の関心のあるテーマを自由に報告してもらう予定です。具体的には、卒業研究のテーマを念頭においた報告を課します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 50% 期末レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

この科目は必修科目なので、必ず履修登録をしてください。
「人的資源管理論」と「専門演習I」で学習した内容を前提として、本演習は行なわれます。学習内容に不安がある人は、必ず参考書を何冊か読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究にせよ、合同ゼミにせよ、計画的に取り組んでください。行き当たりばったりでは成果は出ません。もちろん研究過程における相談には積極的に対応します。
また、課外ではありますが、経済学部主催の就職活動イベントには可能な限り出席してください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理、組織行動、労使関係

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、企業のマーケティング問題を分析的に解明し、論理的かつ実践的な解決策を提案しうる能力を身につけることを狙いとし、ケース討論を中心に行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～15回 ケース演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合(100%)によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、企業形態論といわれる分野で展開されているアプローチにより、様々な企業形態を、単純な企業形態から株式会社そして持株会社にいたるまでを俯瞰した。そして、同時にいかなる論理によって、かかる持株会社が生誕（解禁）していくのかについて学習した。

演習IIでは、持株会社に関する固有の問題（持株会社の定義・持株会社の機能・持株会社とガバナンスに関する基礎）についてさらに学習していく。

- ア、持株会社の定義～持株会社解禁のトリック
- イ、持株会社の機能～企業組織再編機構と業界再編機構
- ウ、持株会社とガバナンス～親会社と子会社との新たな関係
- エ、ケース研究～サントリーなど。

教科書 /Textbooks

- ①下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店（2009年）
 - ②下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣、2006
 - ③小松章『企業形態論第3版』新世社、2006
- 以上の3冊を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、企業論関係～ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年、およびコーポレートガバナンスに関する文献
 - 2、法律関係～会社法制改正に関する文献
 - 3、各社アニュアルレポートなど
 - 4、E DINET
- その他、本学図書館1階の「持株会社がわかるコーナー」（山岡）

専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習Iの復習と今後の課題についての確認
- 2回 持株会社解禁の背景～何故、純粋持株会社は解禁されたのか？ 【バブル崩壊】 【持株会社】 【持株会社解禁】
- 3回 同上
- 4回 持株会社の定義～持株会社禁止類型と持株会社の定義 【持株会社の定義】
- 5回 消えた持株会社～持株会社規制の転換。
- 6回 持株会社の機能～持株会社のふたつの機能（業界再編機能と組織再編機能）
M & Aの代替ツールとしての持株会社 【M & A】 【企業再編】
- 7回 同上
- 8回 持株会社の機能～個別ケース(セブン - iHDなど)
- 9回 分社と企業結合～日本企業の歴史からする持株会社解禁の再検討 【分社】 【企業結合】 【企業集団】 【事業持株会社】
- 10回 究極の持株会社
- 11回 持株会社とコーポレートガバナンス～持株会社にガバナンスは機能しているのか 【コーポレートガバナンス】
- 12回 親会社と子会社との新たな関係
- 13回 ケース研究～サントリーなど。
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の状況を勘案して、原則として期末試験を実施する。
期末試験(演習で学習・議論したテーマに関連した問題を出題)...100%、ボーナスとしてレジユメの作成と報告...20% (この割合を100点満点で換算する)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①、指定されたテキストの用意
- ②、真摯なレジユメの作成と報告
- ③、わからないことを解明(理解)しようとする熱意
- ④、繰り返し読書する熱意

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

『会社四季報』やEDINETを日頃から見る習慣を

キーワード /Keywords

持株会社解禁・持株会社の機能・持株会社とガバナンス

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を論じ、経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考える。
- 2.習得した知識とスキルをもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を理解し、ファジイ関係による表現を学習する。
- 2.経済や経営に関するトピックを選び、人の好みのアンケートのデータを通して課題を分析する。
- 3.分析結果をまとめ、発表する力を養う。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○西田俊夫、竹田英二著、「ファジイ集合とその応用」森北出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 好みの表現とアンケート作成
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 アンケート集計と分析
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

専門演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取り組み・・・ 80%
課題・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業にはできる限り毎回出席してください。グループでパソコン(エクセル)による簡単な計算を行います。
高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいですが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループでパソコン(エクセル)によるアンケート作成や分析を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジィ関係

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習Ⅱに引き続き、「組織と個人の統合」について考えます。本演習では、「統合」に焦点を合わせて考えていきます。

到達目標は以下の通りです。

- ①専門演習Ⅱで学んだ知識の応用力をつける。
- ②読み・書き・話す力をつける。

教科書 /Textbooks

特になし。論文をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三井泉編『フォレット』文真堂、2012年(○)

M.P.フォレット(米田清・三戸公訳)『組織行動の原理 動態的管理[新装版]』未来社、1997年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読および議論
- 3回 文献輪読および議論
- 4回 文献輪読および議論
- 5回 文献輪読および議論
- 6回 文献輪読および議論
- 7回 文献輪読および議論
- 8回 文献輪読および議論
- 9回 文献輪読および議論
- 10回 文献輪読および議論
- 11回 卒業論文準備
- 12回 卒業論文準備
- 13回 卒業論文準備
- 14回 卒業論文準備
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度 ... 50% 報告内容・準備度 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習では、「組織と個人の統合」に関する論文・文献を輪読します。各回一人ずつ担当を割り当て、レジメを作成し、報告を行ってもらう予定です。その報告を元に、全員で議論します。各自準備して臨んでください。
状況に合わせて臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。
合宿を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

統合，責任，自由

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

主にマーケティングとマーケティング分析について学びながら、企業の販売行動や消費者行動を調査・分析する視点の習得を行います。また、4年次の卒業論文執筆にむけて、各自のテーマ設定およびグループ研究をととした調査リテラシー向上についても進めていきます。本演習の受講をつうじて、企業のマーケティング活動にまつわる基礎的な分析力を向上させるとともに、卒業研究に向けた調査リテラシーの向上をねらいとしています。

教科書 /Textbooks

必要な場合、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

恩藏 直人・富田 健司『1からのマーケティング分析』2011,碩学社。
沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』2008,有斐閣。
嶋口充輝・黒岩健一郎・内田和成『1からの戦略論』2009,碩学社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教科書の輪読とディスカッション
- 第3回 教科書の輪読とディスカッション
- 第4回 各自のテーマ報告
- 第5回 グループ研究活動について
- 第6回 グループ研究活動(1)
- 第7回 グループ研究活動(1)
- 第8回 グループ研究活動(1)
- 第9回 グループ研究活動(1)
- 第10回 グループ研究活動(2)
- 第11回 グループ研究活動(2)
- 第12回 グループ研究活動(2)
- 第13回 グループ研究活動(2)
- 第14回 各自のテーマ報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・報告内容50%、日頃の取組状況50%
出席・遅刻が多い場合は単位を認めません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の履修準備・各活動に一定の時間が求められる点に注意してください。無断欠席、遅刻厳禁です。

専門演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営学・会計学・情報科学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この専門演習IIは、専門演習Iの続きで、特に、卒業研究に直結する論文試案の執筆に重点をおきます。卒業研究は、3年次では本来はまだ始める必要がありません。しかし就職活動との兼ね合いで4年次に十分時間がとれないので、3年生の専門演習IIで論文試案執筆の作業を開始します。多くの履修者は、他の授業でレポートを書いたことがあるが、数十ページの「論文」を書いたことは無く、そのような作業に取り組む自信がない、という人が多いでしょう。会計学をベースにし、経済社会を観察する視覚を確立するのが本ゼミの目標とするところです。研究成果をいかにまとめ得るか、また、どのようにプレゼンテーションをするのが効果的か、今学期はそのプロセスを一緒に考え、実践して行きましょう。

教科書 /Textbooks

専門演習Iのはじめにお渡しするテキストを、継続使用します（任 章著『アカウントティングと財務諸表分析』北九州市立大学大学院マネジメント研究科）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

論文執筆テーマに関連する全ての書籍や情報ソースが参考書足り得る。しかるに特定の参考書を指定しません（ご自分で参考書を選び、教員に報告、相談してください）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下の通りである。詳細や順番については大きく変わることがある。おおかた、学期の2/3は卒業研究に繋がる論文試案の執筆と発表、のこり1/3は特に、就職活動を支援するためのオリエンテーション、ブレインストーミングとワークショップ等で時間を用いる。

- 1回 新学期オリエンテーション
- 2回 論文の構成と書き方、参考文献リストの作成方法
- 3回 テーマ設定と論文執筆の動機づけ
- 4回 序論 - 論文のイントロダクションと全体構想についての授業
- 5回 序論 - 履修者の発表
- 6回 二章 - 先行文献研究
- 7回 二章 - 履修者の発表
- 8回 三章 - 企業研究と財務比較の方法の授業
- 9回 三章 - 履修者による財務分析結果の発表
- 10回 四章 - 結論と展望、終章の書き方についての授業
- 11回 四章 - 終章試案についての履修者の発表
- 12回 論文素案全体のプレゼンテーション(1)
- 13回 論文素案全体のプレゼンテーション(2)
- 14回 卒業後とキャリア構築に向けてのブレイン・ストーミング
- 15回 まとめ（今学期のWrap-up）

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミ内での貢献、リーダーシップ、各回ゼミにての積極性等の定性的評価要素が1/3。のこり2/3は、専ら、論文試案の出来によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

病欠、就職活動などやむを得ない事由以外には欠席、遅刻をしないこと。ゼミ幹事はじめ、皆がチームワークよく取り組み、論文各章の執筆とプレゼンテーションに際しては、仲間のゼミ生の研究成果についても意見できるような積極性が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3年生の2学期には、就職活動も解禁され、忙しくなってきます。しかし、4年次にはいっては尚更忙しくなるので、3年生のうちに論文下書きを書き上げてしまいましょう。

キーワード /Keywords

論文、参考文献、ブレインストーミング、キャリア、他。

経済学入門A 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

1. 経済学的思考法ができるようになる。
2. メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第3版）東洋経済新報社、2013年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について（1）【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について（2）【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と交易について（1）【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と交易について（2）【絶対優位】【比較優位】
- 7回 : 相互依存と交易について（3）【交易からの利益】【貿易】
- 8回 : 需要と供給（1）【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給（2）【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 市場均衡について（1）【価格】、【均衡】
- 11回 : 市場均衡について（2）【比較静学】
- 12回 : 弾力性とその応用（1）【需要の弾力性】
- 13回 : 弾力性とその応用（2）【供給の弾力性】
- 14回 : 弾力性とその応用（3）【豊作貧乏】
- 15回 : マトメ

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済学入門 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

1. 経済学的思考法ができるようになる。
2. メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第3版）東洋経済新報社、2013年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について（1）【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について（2）【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と交易について（1）【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と交易について（2）【絶対優位】【比較優位】
- 7回 : 相互依存と交易について（3）【交易からの利益】【貿易】
- 8回 : 需要と供給（1）【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給（2）【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 市場均衡について（1）【価格】、【均衡】
- 11回 : 市場均衡について（2）【比較静学】
- 12回 : 弾力性とその応用（1）【需要の弾力性】
- 13回 : 弾力性とその応用（2）【供給の弾力性】
- 14回 : 弾力性とその応用（3）【豊作貧乏】
- 15回 : マトメ

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済学入門 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

経済学入門B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bケル-7
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

経済学入門B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営統計【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経済・経営に関する統計的理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を統計的に理解し、課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の統計的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営統計

MTH150M

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解するため、統計学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における統計学的分析方法や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解し、統計的処理を身につける。
2. データの整理の仕方や平均・分散・標準偏差などの基礎から学び、推定や仮説検定に関する計算スキルを身につける。
3. 統計的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

P.G.ボーエル著、浅井晃、村上正康訳、「初等統計学」培風館、1700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○J.C.ミラー著、村上正康訳、「統計学の基礎」培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現 【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率 【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表 【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布(1) 【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布(2) 【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出 【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定(1) 【大標本法】
- 8回：推定(2) 【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定(1) 【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定(2) 【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関 【相関係数】
- 12回：回帰分析 【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定(1) 【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定(2) 【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

経営統計【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。
必修科目「数学」(MTH100M)を理解していれば、「経営統計」の授業がより深く理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

統計学I【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を発見するのに必要な統計的分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		
※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			
		統計学 I	ECN130M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ 確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題
- 15 統計的推定と検定のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)

。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

統計学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をやっておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を解決するために必要な統計的手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学II

ECN230M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房（本格的な演習書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 乗の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

統計学II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論

BUS212M

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち、運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ-経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 第2回 組織社会 【社会の純粹理論】【財産中心から組織中心へ】【自由とは何か】
- 第3回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】【有効性と能率】
- 第4回 管理とは何か 【管理過程】【意思決定論】
- 第5回 現代組織の諸特徴① 【官僚制】【支配の3類型】
- 第6回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】【科学的管理】
- 第7回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理の現在】【官僚制の抑圧性】
- 第8回 第2回～7回のまとめ
- 第9回 組織構造① 【権限の原則】【権限と権威】
- 第10回 組織構造② 【ライン組織】【コンテインジェンシー理論】
- 第11回 組織構造③ 【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第12回 動機づけ理論① 【金銭による動機づけ】【人間関係】
- 第13回 動機づけ理論② 【欲求階層説】【自己実現】【X-Y理論】【動機づけ-衛生理論】【達成動機】
- 第14回 現代組織と意思決定 【コンフリクト】【統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「マネジメント論基礎」「企業論基礎」の内容を復習しておいてください。状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

経営組織論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【組織の3要素】 【環境適応】 【随伴的結果】 【自由と責任】

経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポートの結果（20%）によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

経営戦略論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

マーケティングI【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マーケティングの理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マーケティングに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マーケティングに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マーケティング I

BUS230M

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティングI(前期)では、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
P・Gホール「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
林田実「サイコロを振って、統計学!」創成社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・50% テスト・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

マーケティングI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングII【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マーケティングの理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マーケティングに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マーケティングに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マーケティングII

BUS231M

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティングII(後期)では、戦略的マーケティングとマーケティング・ミックスについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦略的マーケティングの考え方【SWOT分析】
- 第3回 " 【戦略ドメイン】 【製品ポートフォリオ分析】
- 第4回 " 【競争市場戦略】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 製品戦略 【製品ライフサイクル】
- 第8回 " 【ブランド】 【経験価値】
- 第9回 価格戦略 【需要価格弾力性】 【プロスペクト理論】
- 第10回 プロモーション戦略【広告効果測定】
- 第11回 流通戦略 【チャネル政策】
- 第12回 " 【取引コストの経済性】
- 第13回 ケース演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・ 50% テスト・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

無

マーケティングII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論Ⅰ【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論Ⅰ

BUS210M

授業の概要 /Course Description

経営学には、会社の仕組みについて学ぶ「企業論」と企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域がある。
会社(企業)の基本的な仕組みに関しては、既に「企業論基礎」で学んだ。「企業論Ⅰ」および「企業論Ⅱ」では、会社法上の会社すなわち合名会社・合資会社・合同会社・株式会社のうち、株式会社とりわけ大規模公開株式会社(「証券市場を使用する株式会社」=「新聞の株価欄に掲載されている株式会社」)を、学習の主な対象とする。
ことに大規模公開株式会社(証券市場を使用する株式会社)に関わる基本的論点すなわち所有と経営・株式所有の意義・会社経営の仕組み・会社支配・コーポレートガバナンス(会社統治)・会社の社会的責任、等について学習する。
「企業論Ⅰ」では、まず、現代日本における企業形態のありよう(企業の種類や会社の分布)について概観していく。
次に、大規模公開株式会社(証券市場を使用する株式会社)に関わる基本的論点、すなわち株式会社制度(株式会社と証券市場の関係)・コーポレートガバナンス(会社統治)の原理・コーポレートガバナンス(会社統治)の国際比較を検討する。

教科書 /Textbooks

未定
適宜、レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

片岡・斎藤・佐々木・高橋・渡辺[編]『アドバンスト経営学～理論と現実～』中央経済社、2010年(○・図書館指定図書)
牛丸元『スタンダード企業論』同文館出版、2013年(○・図書館指定図書)
小松章『企業形態論～第3版～』新世社、2006年(○・図書館指定図書)
岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年(○・図書館指定図書)
下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年(○・図書館指定図書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 会社(企業)とは何か・税務統計からみた法人企業の実態【起業】【企業】【会社】【会社わが国企業の概要】
- 第2回 企業形態(私企業・公企業・公私混合企業及び個別企業形態と企業集中形態)・株式会社【企業形態】【株式会社】
- 第3回 二つの株式会社(株式会社の基本的性格・証券市場を使用する株式会社と使用しない株式会社)【公開株式会社】
- 第4回 株式会社と証券市場①(資本の証券化)【資本の証券化】【証券市場】
- 第5回 株式会社と証券市場②(証券市場による資金調達・種類株式と会社支配・証券化)【資金調達】【証券化】
- 第6回 株式会社の経営の仕組み①(会社経営=「意思決定と業務執行」)【会社経営】【業務執行】
- 第7回 株式会社の経営の仕組み②(会社機関～株主総会・取締役会・監査役)【会社経営】【会社機関】
- 第8回 株式会社における所有・経営・支配①(所有と経営との分離・所有と支配との分離)【所有と経営】【所有と支配】
- 第9回 株式会社における所有・経営・支配②(機関投資家の台頭と会社支配権市場)【機関投資家】【会社支配権市場】
- 第10回 現代株式会社の株式所有構造①(主要国の実態・機関投資家の台頭・株主行動主義)【株式所有】【株主行動主義】
- 第11回 現代株式会社の株式所有構造②(主要国の実態～米国・ドイツ・日本)【証券市場の流動性】【法人株主と機関株主】
- 第12回 株式会社のガバナンス(会社統治)①～ガバナンス(会社統治)とは何か【会社統治】・【会社の社会的責任】
- 第13回 株式会社のガバナンス(会社統治)②～株主資本主義の台頭とガバナンス(会社統治改革)【ガバナンス改革】
- 第14回 企業の国際比較とガバナンス(会社統治)～英米とドイツ(大陸型)型会社類型【会社類型】【道具としての会社】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90%と小テスト10%

企業論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1年次の企業論基礎を受講することが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を創造しよう。予習・復習など講義時間以外の学習時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

大規模公開株式会社・株式所有・会社経営・会社支配・コーポレートガバナンス(会社統治)・株主資本主義・道具としての会社

企業論II【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論II

BUS211M

授業の概要 /Course Description

経営学には、会社の仕組みについて学ぶ「企業論」と企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域がある。会社(企業)の基本的な仕組みに関しては、既に「企業論基礎」で学んだ。

さらに、「企業論I」では、会社とりわけ大規模公開株式会社制度(証券市場を使用する株式会社)に関わる基本的論点すなわち株式所有・会社経営・会社支配・ガバナンス(会社統治)・会社の社会的責任、等について学習した。

「企業論II」では、これまでとりあげた大規模公開株式会社制度(証券市場を使用する株式会社)に関わる基本的論点を、今度は、持株会社に焦点をあてることによって展開していく。

我が国では、戦前の財閥への反省から、戦後は持株会社設立が禁止されていた(独占禁止法第9条)。ところが、1997年に企業統合の便利な手法として持株会社設立が解禁された。この持株会社には、次のような基本的論点を指摘できる。

- 1、何故、持株会社の設立が解禁されたのか。
- 2、持株会社の設立。
- 3、持株会社の機能。
- 4、持株会社とガバナンス。

なかでも、持株会社とガバナンスという問題は、親会社(子会社にとって一人株主である親会社)と子会社という新たな関係のもとでの論点である。講義では、こうした論点について展開していく。

教科書 /Textbooks

未定
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

片岡・斉藤・佐々木・高橋・渡辺【編】『アドバンスト経営学～理論と現実～』中央経済社、2010年(○ 図書館指定図書)

牛山元『スタンダード企業論』同文館、2013年(○ 図書館指定図書)

小松章『企業形態論～第3版～』新世社、2006年(○ 図書館指定図書)

岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年(○ 図書館指定図書)

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年(○ 図書館指定図書)

前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年(○ 図書館指定図書)

※ 本学図書館1階の「持株会社がわかるコーナー」(山岡)を参考にしてください

企業論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本企業の歴史(スケルトン)【会社の導入期】【実験としての会社設立】
- 第2回 戦前の財閥【三菱財閥】【三井財閥】【財閥本社】
- 第3回 経済民主化政策【財閥解体】【独占禁止法第9条】
- 第4回 戦後の日本企業①(六大企業集団の形成)【株式買占め屋】【株式相互持合い】
- 第5回 戦後の日本企業②(六大企業集団の成熟)【株式相互持合い】【貸有価証券】【含み経営】
- 第6回 戦後の日本企業③(バブル崩壊と企業再編)【含み経営の崩壊】【国際的大競争】
- 第7回 企業再編と持株会社解禁【持株会社】
- 第8回 企業組織再編の仕組み①(M&Aと持株会社)【M&A】
- 第9回 企業組織再編の仕組み②(持株会社設立)【株式交換】【株式移転】
- 第10回 企業組織再編の仕組み③(シャッフルとしての会社分割制度)【会社分割】
- 第11回 持株会社ブーム①(現状及び特徴)~【持株会社の基本的性格】【支配集中】
- 第12回 持株会社ブーム②(現状及び特徴)~【メガバンクなど】
- 第13回 持株会社とガバナンス①~ガバナンス機能の麻痺【一人株主】
- 第14回 持株会社とガバナンス②~ガバナンス機能の麻痺【パス・スルー】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90%と小テスト10%によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1年次の「企業論基礎」及び「企業論I」を履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を創造しよう。予習・復習など講義以外の学習時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

大規模公開株式会社制度・株式所有・組織再編・会社分割・一人株主・持株会社・ガバナンス(会社統治)・パススルー

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンス I

BUS214M

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹，『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一，『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
Stephen A.Ross,Randolph W.Westerfie，『コーポレートファイナンスの原理【第9版】』，きんざい（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回～4回 コーポレート・ファイナンスの世界【期待リターン，リスク（標準偏差），証券，発行市場，流通市場，ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株，ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【普通社債，ワラント債，転換社債，MSCB】
- 10回～11回 配当の基礎知識【配当政策，配当性向，配当利回り，自社株買い戻し，株式分割】
- 12回～14回 コーポレート・ガバナンス【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード 取締役会制度，執行役員制度，大株主，敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート（課題）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「企業論基礎」・「経営統計」・「簿記論I」・「簿記論II」・「経済学入門A」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスII

BUS215M

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹，『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一，『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
大津広一，『ファイナンスと事業数値化力』，日本経済新聞社（2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回～3回 現在価値計算【現在価値（PV），将来価値（FV），安全利率率，リスクプレミアム，投資信託】
- 4回～6回 株式価値・負債価値と企業価値【金融商品，利付債，割引債，クーポン，配当割引モデル（DDM），企業価値，株式価値，負債価値】
- 7回～9回 資本コスト【資本コスト，最低要求収益率，安全資産，加重平均資本コスト，ポートフォリオ，マーケット・ポートフォリオ，資本資産評価モデル（CAPM）， β （ベータ）】
- 10回～11回 投資決定の基礎理論【投資決定，割引キャッシュフロー（DCF）法，正味現在価値（NPV），内部収益率（IRR），回収期間法】
- 12回～14回 資本構成の基礎理論【レバレッジ効果，MM理論，裁定取引，法人税，倒産コスト，トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート（課題）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「企業論基礎」・「企業ファイナンスI」・「経営統計」・「経済学入門A」・「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司・上林憲雄・森田雅也編著(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。
八代充史(2014)『人的資源管理論(第2版)』中央経済社。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)が公刊されています。) その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】、福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 10回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働者の人的資源管理【男女雇用機会均等法】【ダイバーシティ】
 - 13回 高齢労働者の人的資源管理【定年制】【再雇用制度】
 - 14回 多様化する労働時間と労働場所【ワークライフバランス】
 - 15回 戦略的人的資源管理論、総まとめ【SHRM】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人的資源管理論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといよいでしょう。
- (2) また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。ちなみに教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 教科書は昨年度使用した本と同じです。あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参してください。くれぐれも買い間違えないよう。
- (4) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずです。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

国際経営【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経営の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	国際経営、グローバルビジネス全般に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経営

BUS311M

授業の概要 /Course Description

国際経営に関する基礎知識の取得と理解促進にウエイトを置く

以下3部分に分けて講義を進めていく

- ①基礎概念、ビジネス手法の紹介
- ②統計や財務資料の配布・解説
- ③多国籍企業の投資戦略に関するユニークな事例の紹介

受講生の理解度を確認しながら、難易度を調節できるように工夫していく
質疑は随時受付する

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 湯沢威他著 『国際競争力の経営史』有斐閣
- 吉原英樹編著 『国際経営論への招待』有斐閣ブックス
- ジェトロ編 『世界貿易投資報告』(各年版)日本貿易振興機構(JETRO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の狙い、概要、段取りの説明
- 第2回 基礎概念の説明I: 「多国籍企業」、「経営国際化」【企業の国籍】【操作的定義】
- 第3回 基礎概念の説明II: 「直接投資」【対外・対内投資】、【間接投資】【国際収支ベース】
- 第4回 対外進出の主要手法 【単独投資】【合併】【M&A】【技術供与契約】
- 第5回 企業の多国籍化の誘因【貿易摩擦回避型】【原価削減型】【規制回避】
- 第6回 多国籍企業誕生・成長の歴史【株式会社誕生起源説】【保護貿易】
- 第7回 多国籍企業の国際事業本部の機能と立地【RHQ】【地域統合】【外資政策】
- 第8回 多国籍企業の所有戦略I 【持ち分型】【完全所有】【共同所有】【非持ち分型】
- 第9回 多国籍企業の所有戦略II 【非持ち分型】【技術供与契約方式】
- 第10回 事例紹介I: 日系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第11回 事例紹介II: 東アジア系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第12回 多国籍企業の租税戦略I 【法人所得税率】【節税と脱税】
- 第13回 多国籍企業の租税戦略II 【タックスヘイブン】
- 第14回 多国籍企業の租税戦略III 【移転価格】【関連取引】
- 第15回 総合質疑

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 40%
期末テスト 60%
積極的な発言や討論参加に対して部分点を与える。質疑応答時間中だけでなく、いつでも気軽に挙手して発言してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

紹介資料、配布資料を熟読すること
私語を慎んで下さい
遅刻・早退を慎んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段、関係資料、メディア報道などを通して国際経済・経営の動向に常に関心を持ってもらいたい。

キーワード /Keywords

事業計画論【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	事業計画の策定や分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	事業計画の策定に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	事業計画の策定や分析に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

事業計画論

BUS312M

授業の概要 /Course Description

企業が厳しい経営環境の中で競争に打ち勝っていくためには、絶えず「新しい事業」を企画していかなければなりません。また我々の働き方も変化し、これまでの会社という組織に属する、いわゆる会社員になるものから、自ら「ベンチャー企業」を興す人が増えてきました。そこで本講義では、これまで学習してきた経営学の基礎的科目（例：経営戦略、マーケティング、会計など）をもとに、事業計画「ビジネスプラン」の作成方法について学習します。実際にビジネスプランを作成し、優秀なビジネスプランについては、九州ニュービジネス協議会が主催する「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」に応募したいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメやプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『MBA事業開発マネジメント』（グロービス経営大学院編著）ダイヤモンド社 2,940円
- 『MBAビジネスプラン』（グロービス経営大学院著）ダイヤモンド社 2,940円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ビジネスプランの意義及び構成
- 3回 アイデアの抽出
- 4回 ビジョン・ミッション・経営理念
- 5回 ビジネスモデルと戦略【ビジネスモデル】
- 6回 ビジネスモデルと戦略【事業戦略】
- 7回 ビジネスモデルと戦略【マーケティング・オペレーション】
- 8回 ファイナンス【財務計画】
- 9回 ファイナンス【資金調達】
- 10回 マネジメントチームとリーダーシップ
- 11回 ビジネスプラン作成【演習①】
- 12回 ビジネスプラン作成【演習②】
- 13回 ビジネスプラン作成【演習③】
- 14回 ビジネスプラン発表①
- 15回 ビジネスプラン発表②、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ビジネスプランの出来栄…50%、 授業への取り組み姿勢…50%

事業計画論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営戦略やマーケティング、会計など、経営学の基礎的科目を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネスプランは一人もしくは二人で作成し、講義では意見交換を活発に行います。少数精鋭で行いたいと思いますので、やる気のある人を歓迎します。

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2014年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

中小企業論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

無

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用マネジメント【昼】

担当者名
/Instructor

高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な高度な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

応用マネジメント

BUS314M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、企業によるイノベーションのマネジメントに関する基礎知識を取得することである。成熟化し、停滞する国内の経済環境において、企業が成長する上ではイノベーションを持続的に生み出すことができるシステム作りが重要となる。それゆえに、今日の企業経営者には、イノベーションの本質について深い理解が求められる。本講義では、企業経営者がイノベーションをマネジメントする上で必要な基礎的な概念と理論について学習し、それらを理解し応用できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

一橋大学イノベーション研究センター[編]『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 イノベーション・マネジメントとは何か？
- 3回 イノベーションのプロセス
- 4回 イノベーションのパターン(1)
- 5回 イノベーションのパターン(2)
- 6回 イノベーションと企業のパフォーマンス(1)
- 7回 イノベーションと企業のパフォーマンス(2)
- 8回 研究・技術開発のマネジメント(1)
- 9回 研究・技術開発のマネジメント(2)
- 10回 新製品開発のマネジメント(1)
- 11回 新製品開発のマネジメント(2)
- 12回 新製品開発のマネジメント(3)
- 13回 イノベーションと企業間システム(1)
- 14回 イノベーションと企業間システム(2)
- 15回 まとめ

なお、受講生の興味、理解度に応じて、授業内容は変更される可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト・・・60%，授業中のエクササイズ・小テスト(レポート)・発言・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営戦略論，マーケティング，経営組織論などを履修していることが望ましい。
授業に関する準備や復習に十分な時間が求められる。

応用マネジメント 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エクササイズやケーススタディなど発言を求める機会を設ける予定である．その際は積極的に発言すること。

キーワード /Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 証券市場の仕組の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論

BUS330M

授業の概要 /Course Description

証券市場は、①、国・企業による長期安定資金の調達、②、金融資産運用の場、③、国民経済の適切な運営、という役割を期待されている。しかし、近年、刹那的なデイトレード、ホリエモン騒動そしてグローバルに荒れ狂う投機マネーの台頭によってややもすれば一攫千金を夢見る場であるかのような傾向がある。しかし、証券市場は、上記三つの機能を担う重要な役割を期待されている。

講義では、次の文脈で展開していく。まず、証券市場(資本市場ともいわれる)の基本的存立構造を、公開株式会社と証券市場の関係から説明していく。公開株式会社とは、証券市場を使用する株式会社である。公開株式会社は、何故、証券市場を利用するのか。また、証券市場は、どのようにして、公開株式会の資金調達の要請に対応していくのか。こうした、公開株式会社と証券市場の関係というメダルの両面から展開していく。

1、ア、株式会社の基本的性格、イ、公開株式会社(と非公開株式会社)および会社法上の公開会社と非公開会社

2、証券市場(資本市場ともいわれる)の基本的存立構造

ア、引受業務・売買委託業務・自己売買、イ、商業銀行・証券会社・投資銀行

3、機関投資家と証券市場

ア、機関投資家の台頭

イ、機関投資家とコーポレートガバナンス

証券市場における機関投資家の台頭とともに、コーポレートガバナンス論議が盛んである。このコーポレートガバナンス論議に関わる機関投資家の行動について検討する。

3、M & Aと証券市場

1980年代以降のM & Aに関わっての証券市場の役割について検討していく。

教科書 /Textbooks

未定

適宜、プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

会社四季報・新聞を用意したい。

参考文献として、鈴木芳徳『グローバル金融資本主義』白桃書房、2008年。

金子勝『閉塞経済～金融資本主義のゆくえ～』ちくま新書、2008年。

山田晴信『企業財務を学ぶ』金融財政事情研究会、2012年。

布井千博『会社法』新世社、2011年。

EDINET

証券市場論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 証券市場のあらし 【日本の証券市場】 【上場銘柄】 【証券会社】
- 2回 景気と株価 【株式会社と証券市場】 【株価形成】
- 3回 株式会社制度 【証券資本主義】 【日本の会社】
- 4回 公開株式会社 【コーポレートガバナンス】 【株主権】
- 5回 株式と社債 【株券の種類】 【社債】 【種類株式】
- 6回 コーポレートファイナンス 【自己資本と他人資本】 【内部資金と外部資金】
- 7回 証券の流通 【発行市場と流通市場】 【社会的資本】
- 8回 証券価格 【擬制資本】 【資本還元】 【貨幣の時間価値】 【ケインズの美人投票】
- 9回 株価の決定要因と投資尺度 【投資尺度】 【配当政策】
- 10回 株式指標 【日経平均株価】 【東証株価指数】
- 11回 債権価格と債権投資 【債券の種類】 【新株予約権付社債】
- 12回 証券会社と証券取引所 【証券業務】 【証券取引所】
- 13回 投資家の変貌 【機関投資家】 【貯蓄から投資？】
- 14回 グローバル金融資本主義 【投機】 【金融不安定性】 【恐慌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、小テスト...20% (この割合を、100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

①、テキストを用意すること。②、レジメだけにしがみつかない。③、新聞を読むこと。④、会社四季報と友達になること。また、参考文献の鈴木芳徳(信用論研究者)と金子勝(異端の経済学者)の2冊は、金融資本主義という命名のもとにサブプライムローンを扱っている。こうした問題にも関心をもてるように講義を受講してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

株式会社と証券市場・株式会社における資本の二重性・証券価格・投資尺度・ガバナンスと証券市場・台頭する外国人株主・金融不安定性

地域企業分析 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科, 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業経営に必要とされる諸理論を経営の実践において活用するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営の実践上の諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営の実践に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域企業分析

BUS400M

授業の概要 /Course Description

本科目は経営情報学科の学生が1年生から学んできたマネジメント理論修得の総仕上げにあたるものです。学生が修得してきた理論と企業経営の実践とを統合的に理解することを目的としています。

授業内容は、スケジュールの前半部分で学内教員が様々な視点から企業経営を分析する手法を提示し、後半部分では学外から経営者を中心に経済界の方々を特別講師として招聘して企業経営の実践を講演していただきます。

本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営学の応用力を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な際には随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「全体説明」
 - 第2回 「経営戦略の分析」
 - 第3回 「経営組織の分析」
 - 第4回 「人的資源管理の分析」
 - 第5回 「企業ファイナンスの分析」
 - 第6回 「情報管理の分析」
 - 第7回 「国際経営の分析」
 - 第8回 「中小企業経営の分析」
 - 第9回 外部講師
 - 第10回 外部講師
 - 第11回 外部講師
 - 第12回 外部講師
 - 第13回 外部講師
 - 第14回 外部講師
 - 第15回 まとめ
- (なお、全体スケジュールは外部講師の方の都合等で変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課すレポート30% 学期末テスト(あるいはレポート)70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域企業分析 【昼】

履修上の注意 /Remarks

3年時までに学んだ経営学系の科目の復習をしておいてください。
第5回 「企業ファイナンスの分析」の回には電卓を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修ガイドの履修モデルを見てもわかるように、1年時から学んだ知識の総仕上げとなります。

キーワード /Keywords

理論と実践

生産マネジメント【昼】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生産マネジメントの理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	生産マネジメントに関わる諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生産マネジメントに関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	生産マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生産マネジメント

BUS315M

授業の概要 /Course Description

本講義では、現在の製造業の戦略とものづくりマネジメント、そしてそれにいたる歴史を概略的に学び、その理解のうえでグローバル化のなかでの日本のものづくりの課題を展望します。
本講義の受講を通じて、生産マネジメント分野への関心を高め、生産マネジメントにおける基礎知識と基礎的な分析力を習得し、企業のオペレーション上の問題解決を行う基礎的な能力を身につけることを狙いとします。

教科書 /Textbooks

必要に応じてレジュメ等を配布する予定です。学習を深めたい方は参考書を参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤本隆宏『生産マネジメント入門(1)生産システム編』日本経済新聞社,2001.
藤本隆宏『生産マネジメント入門(2)生産資源・技術管理編』日本経済新聞社,2001.
藤本隆宏・中沢孝夫『グローバル化と日本のものづくり』放送大学教育振興会,2011.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【生産マネジメント】
- 2回 生産方式の歴史的発展(1) 【産業革命】【科学的管理法】
- 3回 生産方式の歴史的発展(2) 【フォード方式】【ベルトコンベアー】
- 4回 生産方式の歴史的発展(3) 【モダンタイムス】【人間関係論】
- 5回 現代製造企業の戦略と生産活動(1) 【コストリーダーシップ】【差異化】
- 6回 現代製造企業の戦略と生産活動(2) 【JIT】【トヨタ生産方式】
- 7回 生産活動のグローバル化(1) 【グローバル化】【海外生産】
- 8回 生産活動のグローバル化(2) 【中小企業】【ケイレツ】
- 9回 生産活動のグローバル化(3) 【ロジスティクス】【SCM】
- 10回 生産と人材(1) 【ブルーカラー】【派遣・請負】
- 11回 生産と人材(2) 【熟練】【OJT】
- 12回 生産と品質(1) 【TQM】【カイゼン】
- 13回 生産と品質(2) 【QC7つ道具】
- 14回 新たな生産方式 【屋台生産方式】【セル生産方式】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営戦略や組織論など経営学関連科目の復習を行うことで本講義への理解が深まります。

生産マネジメント 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生産マネジメント、経営戦略、オペレーション・マネジメント

情報経営【昼】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報経営の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報経営に関わる諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 情報経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報経営

BUS316M

授業の概要 /Course Description

「情報」「知識」に基づくマネジメントやビジネスモデルの展開について考察する。情報行動の本質について関連の文献をレビューした後、経営情報システムやマ-ケティング情報システム、さらには知識マネジメント支援システムなどを事例にした情報経営、知識経営、Eビジネスの実際を配布資料（DVD含む）をまじえて具体的に検討する。

教科書 /Textbooks

『情報と知識のマネジメント』（越出著）創成社 2700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『ナレッジ・クリエイター』（越出著）2200円

『インタ-ネット・マ-ケティングの原理と戦略』（ワ-ド・ハンソン）日本経済新聞社 2800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 情報経営の意義	経営学における「情報と知識」
2 情報・知識の本質	情報行動論の視座
3 情報・知識のダイナミズム	動的な意味情報と知識
4 経営情報と意思決定	経営情報システムの発展史
5 情報経営論の整理	企業経営における情報と知識の小括
6 電子市場の生成	情報化社会の流通市場
7 バ-チャル・コミュニティ(C to C)	経済社会のネットワ-クと電子場
8 電子商取引(B to C)	対消費者のネットビジネス
9 電子商取引II(B to B)	対企業のネットビジネス
10 サプライチェーン(SCM)とICTタグ	仮想企業の最適化モデル
11 顧客関係管理のテ-タ-ベ-ス(CRM)	顧客管理システム
12 セ-ルス・フォ-ス・オートメ-ション(SFA)	営業支援システム
13 知識共有のグル-プウェア	知識の流通システムと組織能力
14 コ-ルセンタ-	インバウンド/アウトバウンド
15 情報経営のまとめ	ポイントの整理と今後の検討課題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に課す小テスト、レポート・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

情報経営【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席を重視する

キーワード /Keywords

知識社会の情報経営

オペレーションズ・マネジメント 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	オペレーションズ・マネジメントの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのオペレーションズ・マネジメントに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、その解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

オペレーションズ・マネジメント INF200M

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。
この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと。
- 2回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 3回 【AHP】の実習
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ
- 5回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ
- 6回 【PERT】の実習
- 7回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ
- 8回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ
- 9回 【経済性工学】の実習
- 10回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 11回 【線形計画法】の実習
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ
- 13回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ
- 14回 【待ち行列理論】の実習
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%, レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

オペレーションズ・マネジメント 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム

INF220M

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デシジョンテーブル】
- 11回 モデル化の演習
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コンピュータシステム【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なプログラミングの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミングII

INF210M

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Java(ジャバ)を用いて、プログラミングスキルを体得することを目指します。Javaプログラミングを通じて論理的思考の育成を目指します。また、グループワークを通じてシステムエンジニアとして不可欠なコミュニケーション能力を育成していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(上)』2006年、ソフトバンクパブリッシング
結城浩著『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(下)』2006年、ソフトバンクパブリッシング

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 Java開発環境Eclipseの使い方について【JDK】【Eclipse】
 - 3回 プログラミングIの復習【オブジェクト】【クラス】【メソッド】
 - 4回 プログラミングIの復習【変数】【配列】
 - 5回 プログラミングIの復習【引数】【戻り値】
 - 6回 インスタンスメソッドとクラスメソッドについて
 - 7回 コンストラクターについて
 - 8回 ファイルの入出力【I/O】
 - 9回 画面の入出力【GUI】【Displayクラス】【Shellクラス】
 - 10回 各種画面部品1【SWT】
 - 11回 各種画面部品2【SWT】
 - 12回 グループワーク(設計)
 - 13回 グループワーク(開発)
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：必修科目「プログラミングI」取得後に履修すると効果的な学習ができます。

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生、または、3年次以降に情報分野のゼミを履修することを希望する学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

Java Eclipse オブジェクト指向 SWT アプリケーション開発

データ構造【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なアルゴリズム・データ構造の基本的専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータ構造に関するスキルを修得する。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータ構造を通じて論理的に考察することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データ構造

INF231M

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現すること、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 課題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

データ構造【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なデータベースの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータベースに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータベースを通じて効率的に提案することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データベース

INF232M

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの利用方法よりも、基本知識、設計技術を中心に学びます。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方で』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

データベース 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...25% 小テスト・課題...25% 期末試験...50%

詳細は第1回目に説明しますので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高めで、しっかりとした予習復習が必要です。

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。どこまで細かくメモするかによりますが、ノートを取る量は多いです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は少し高めです。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

Webプログラミング【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なWebプログラミングの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのWebプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてWebプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Webプログラミング

INF212M

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。

本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミング中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのCGIを学びます。

CGIとは、Common Gateway Interfaceの略で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をすることができる仕組みです。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどを作ることできます。

教科書 /Textbooks

講義資料を配布しますが、必要に応じて参考書など各自で利用してもらいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古田たかし著、『はじめてのCGI&Perl』ソフトバンクパブリッシング
宮坂雅輝著、『CGI/Perl Handbook 2nd edition』、ソフトバンクパブリッシング
KENT著、『最速攻略 CGI/Perl 作り方入門』、技術評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、CGIとは【CGI】
 - 第2回：CGIに必要なソフトのインストール
 - 第3回：CGIの仕組み
 - 第4回：CGI作成のためのPerl言語入門【Perl言語】【変数、配列】
 - 第5回：CGI作成のためのPerl言語入門【条件分岐】
 - 第6回：CGI作成のためのPerl言語入門【繰り返し】
 - 第7回：CGI作成のためのPerl言語入門【ファイル操作】
 - 第8回：乱数の利用【乱数】
 - 第9回：クリッカブルマップの利用【クリッカブルマップ】
 - 第10回：クッキーとは【クッキー】
 - 第11回：CGI技術の応用【CGI応用】
 - 第12回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【アンケート】
 - 第13回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【買い物かご】
 - 第14回：SSI (Server Side Include)
 - 第15回：まとめ
- (進行速度、受講者の希望等により内容、順番、進み方は変更となる場合があります。)

Webプログラミング 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...25% 課題・小テスト...40% 期末試験...35%

詳細は第1回目に説明するので、必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義ではPerl言語というプログラミング言語によるCGIプログラミングをします。PerlはJAVAに似ていますので、JAVAの文法を復習しておくとう理解し易いと思います。

CGIについては、初歩から中級程度の内容を勉強します。(自分で勉強したことがある人は物足りない可能性があります。)

Windowsの基本的な操作はできることを前提に話をします。

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。必要なソフトのコピーをするので、この授業向けには1Gb(メガバイト)程度の容量が必要になると思います。

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なコンピュータネットワークの専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● コンピュータネットワークの活用に関する問題を解決するための情報ネットワークに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● コンピュータネットワークを活用する上での課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● コンピュータネットワークに係わる諸問題に関心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報ネットワーク

INF320M

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

情報ネットワーク【昼】

履修上の注意 /Remarks

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

システム分析 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○

大村 平著『ORのはなし -経営意思決定のテクニク』、1989年、日科技連○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
- 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
- 3回 システム分析とは
- 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
- 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
- 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
- 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
- 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
- 9回 回帰分析【回帰分析】
- 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
- 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
- 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
- 13回 グループ演習(データ処理)
- 14回 グループ演習(発表)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

システム分析 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム設計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム設計に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム設計の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム設計

INF420M

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング
Ed Burnette著『初めてのAndroid第3版』2011年、O'REILLY

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと、Android開発環境の設定【Android】
- 2回 アプリ開発とは？【Eclipse】【Android Developer Kit】【Java】
簡単なAndroidアプリの作成【プロジェクト】【パッケージ】【クラス】【メソッド】
- 3回 システム設計とは【クラスの継承】【インターフェイスの実装】【インスタンス】
- 4回 システム設計の方法論について【アクティビティ】【インテント】【レイアウト】【xml】
- 5回 データ構造とアルゴリズムについて【イベント】【リスナー】【AndroidManifest】
- 6回 ファイルとシステム設計【IO】【例外処理】【LogCat】【タッチイベント】
- 7回 データベースとシステム設計【SQLite】【時間の処理】
- 8回 アルゴリズムとプログラミングについて【グラフィックス】【スレッド】
- 9～10回 各種部品の取り扱いについて【APIDemo】
- 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
- 14回 コンテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...30% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

システム設計 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業データ分析【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	データ解析法の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのデータ解析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を統計的に理解し、課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の統計的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業データ分析

INF341M

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まって、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

この講義を通して、科学的・論理的問題解決のために必要な、データを通した客観的な意思決定の能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【Excelの使い方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値について，2変数の散布図について【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 2つの変数の間の関係【散布図】，【相関】
- 5回 確率の考え方【確率分布】，【2項分布】
- 6回 連続的な分布の扱い方I【正規分布】，【確率密度関数】
- 7回 連続的な分布の扱い方II【正規分布】，【累積分布関数】
- 8回 母集団と標本【母数】，【標本】，【推定値】
- 9回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】，【標準誤差】
- 10回 標本平均の安定性についてII【信頼区間】，【比率の標準誤差】
- 11回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】
- 12回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 13回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...30% 試験...70%
尚，欠席は減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済・経営に関する数理的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、その解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営数学

MTH350M

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を身につけ、経済学部で使う数学的分析スキルを習得する。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 「数学」（MTH100M）で学んだことをもとに、関数の最大値と最小値の求め方などを学習します。
2. ファイナンスにおける最適なポートフォリオの計算やリスクの計算方法を学習します。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

池辺、厚山、水谷、松本著、「新しい微分積分」培風館、1600円
(必要に応じてプリントを配布します)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済数学」 新世社、武隈、石村 著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 回：微分の性質(1) | 【平均値の定理】、【関数の増減】 |
| 2 回：微分の性質(2) | 【極値の判定】、【関数の凹凸】 |
| 3 回：微分の応用(3) | 【効用関数】 |
| 4 回：微分の応用(4) | 【リスク回避係数】 |
| 5 回：偏微分法(1) | 【2変数関数】、【偏微分の性質】 |
| 6 回：偏微分法(2) | 【2変数関数の極値】、【2変数関数の凸性】 |
| 7 回：偏微分の応用(1) | 【条件付き極値】 |
| 8 回：偏微分の応用(2) | 【ラグランジュの未定乗数法】 |
| 9 回：偏微分の応用(3) | 【連立方程式の解法】 |
| 10 回：確率・統計(1) | 【確率分布】、【期待値と分散】 |
| 11 回：確率・統計(2) | 【2変数の確率分布】 |
| 12 回：ファイナンスへの応用(1) | 【ポートフォリオ計算】、【シャープの測度】 |
| 13 回：ファイナンスへの応用(2) | 【不等式制約のポートフォリオ計算】 |
| 14 回：ファイナンスへの応用(3) | 【ポートフォリオとリスクの計算】 |
| 15 回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

経営数学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

必修課目「数学」(MTH100M)を習得していることを前提として授業が行われます。「経営統計」(MTH150M)は必ずしも履修していなくてもかまいません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進め方：新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、経営や情報における応用問題への適用の仕方と問題解決方法を具体的に学びます。「数学」が理解できファイナンスに興味のある学生には最適な科目です。経営への少し高度な数学の話ですから、後半の回では欠席が続くと理解できなくなる可能性があります。

キーワード /Keywords

関数の増減、極値の判定、効用関数、リスク回避、2変数関数の極値、条件付き極値、ポートフォリオ計算

簿記論III 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAI SHI KAZUTAKA / 経営情報学科, 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要なより高度な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		簿記に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論III

ACC210M

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度（中級レベル）の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的な条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに主眼をおきたい。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（TAC出版）、そのほかプリントを配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 有価証券取引【売買・評価】
- 2回 固定資産取引【減価償却】
- 3回 引当金取引【貸倒引当金】
- 4回 手形【裏書と割引】
- 5回 社債【満期償還と買入償還】
- 6回 本支店会計【内部取引】
- 7回 日商簿記検定演習（解答と解説）【日商簿記検定試験2級（第138回）】
- 8回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第138回）】
- 9回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第137回）】
- 10回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第137回）】
- 11回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第136回）】
- 12回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第136回）】
- 13回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第135回）】
- 14回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第135回）】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論III 【昼】

キーワード /Keywords

工業簿記【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	工業簿記の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	工業簿記の諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	工業簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	工業簿記に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

工業簿記

ACC211M

授業の概要 /Course Description

工業簿記は、製造業において用いられる簿記であり、商業簿記と対比して論じられます。すなわち、材料を購入して加工し、製品化する製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記とは大きく異なっています。
工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録していきます。したがって、工業簿記をよりよく理解するためには、原価計算の仕組みを把握し、これを簿記システムと関連付けることが重要です。
本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習していきますが、理論的説明に終始することなく練習問題をできるだけ多く取り入れていく予定です。このような実習を積み重ねることによって、工業簿記の理論と実践の双方を理解するために必要な知識を修得することができます。

教科書 /Textbooks

伊藤博 小林哲夫 『最新 工業簿記(三訂版)』 (2009年 実教出版) ¥2,400

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 工業簿記の基礎と構造
2. 原価と原価計算
3. 工業簿記に特有の勘定科目
4. 材料費の計算と記帳
5. 労務費の計算と記帳
6. 経費の計算と記帳
7. 個別原価計算の仕組み
8. 製造間接費の配賦法
9. 部門別個別原価計算
10. 総合原価計算の特色と単純総合原価計算
 - 1 1. 等級別総合原価計算
 - 1 2. 組別総合原価計算
 - 1 3. 工程別総合原価計算と減損
 - 1 4. 標準原価計算
 - 1 5. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、日常の授業への取り組み(20%)、課題の提出状況(30%)を目安として、到達目標に掲げた項目について、十分に理解しているかどうかを評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

工業簿記【昼】

履修上の注意 /Remarks

商業簿記の基礎を理解しておいてください。

電卓等を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I 【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原価計算の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	原価計算に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	原価計算に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	原価計算に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原価計算論 I

ACC212M

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。

なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

前半：使用しない。

後半：清水孝・長谷川惠一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座.『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版.

TAC簿記検定講座.『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 前半のまとめ(中間試験)
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

原価計算論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論II 【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原価計算の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	原価計算に関する諸問題を解決するための分析手法を維持する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	原価計算に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	原価計算に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原価計算論II

ACC213M

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」＝「利益」＋「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。

本講義では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を学習する。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

清水孝・長谷川惠一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第3講、第9講～第14講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。
TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 テキスト第 3 講 総合原価計算の概説【加工費】
- 3回 テキスト第 9 講 総合原価計算における月末仕掛品の評価【月末仕掛品】
- 4回 テキスト第 10 講 工程別総合原価計算①【工程】
- 5回 テキスト第 10 講 工程別総合原価計算②【前工程費】
- 6回 テキスト第 11 講 仕損・減損の処理①【仕損】
- 7回 テキスト第 11 講 仕損・減損の処理②【減損】
- 8回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算①【組別総合原価計算】
- 9回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算②【等級別総合原価計算】
- 10回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算③【積数】
- 11回 テキスト第 13 講 標準原価計算①【直接材料費差異】
- 12回 テキスト第 13 講 標準原価計算②【直接労務費差異】
- 13回 テキスト第 13 講 標準原価計算③【製造間接費差異】
- 14回 テキスト第 14 講 利益管理のための原価情報【CVP分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...67% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原価計算論II【昼】

履修上の注意 /Remarks

「原価計算論I」を履修済みであることが望ましい。

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

特になし

『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○

中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 資産・負債・純資産について【資産・負債概念の変化について】
- 13回 財務諸表分析（その1）【収益性・安全性について】
- 14回 財務諸表分析（その2）【収益性・安全性について】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財務会計論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

特になし

『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財務会計論II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会計監査の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	会計監査の諸問題を解決するための方法を考え、監査一巡の手続きについて、それらを理論的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	会計監査に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会計監査に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会計監査論

ACC216M

授業の概要 /Course Description

独立した立場にある公認会計士が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の資本市場への関わりについて考察する。税理士、会計士試験受験志望者にとっては、これまで学んできた会計関連科目のまとめ、あるいは会計学を学ぶ意味を再確認することにもなる。しかしながら、本講義では公認会計士が社会に対して担う責任の拡がりや広く考察する。過去に会計科目を学んだことのない人であっても、関心があれば積極的に受講されたい（簿記の知識が無くても授業内容は十分理解できる。履修者にとっては、意外と面白い科目になるに違いない）。講義時間中においては、監査に関わりのある社会的な視点や、会計不正事件をも広く紹介し、履修者に関心を持ってもらう。本講義の到達目標は、受講後、修了者が、時に新聞やマスコミを通じて報道される会計監査に関わりある論点を理解し、また会計関連資格取得希望者にとっては、会計監査論のフレームワークとその基礎を承知しておくことにある。

教科書 /Textbooks

盛田・百合野・朴編著 『まなびの入門監査論』（第2版）中央経済社 ISBN978-4-502-45180-5（税別2,600円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

教室にて別途指示をすることがある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内は各回の授業内容に関わるキーワード：（授業内容の順番は大きく変わることがある）

- 第1回 : オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 第2回 : 会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 第3回 : 「一般に公正妥当と認められた監査基準」について【GAAS】
- 第4回 : 「監査基準書」とその体系について【SAS】【実務指針】
- 第5回 : 監査契約と監査計画について【監査計画】
- 第6回 : 内部統制について【内部統制】
- 第7回 : 監査リスクについて【監査リスク】
- 第8回 : 監査一巡の手続について【運用テスト】【実証テスト】
- 第9回 : 監査報告書の意義とその種類について【監査報告書】
- 第10回 : 企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 第11回 : 四半期レビュー報告書と保証水準について【レビュー】【保証水準】
- 第12回 : 企業改革法(SOX)とJ-SOXについて【金融商品取引法】【内部統制ルール】
- 第13回 : 過去の学期末試験の内容のレビュー【定期試験の傾向と対策指導】
- 第14回 : 利益調整の動機と、粉飾決算について【粉飾決算】
- 第15回 : まとめと展望【批判会計学としての会計監査論】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果 凡そ70%、レポート 凡そ20%、その他積極性等 凡そ10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会計監査論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

定期試験以外にレポートも課す。特に予習は要らないが、復習ができるよう、教室にては毎回の授業の内容をしっかりとメモしておく必要がある。なお期末の定期試験は、普段の出席率の良い人が得点しやすくなるよう、講義した内容全体からまんべんなく出題する。簿記会計の知識があれば良いが、しかし履修科目前提としては求めない。「たとえ話」を多く交えるので、事前知識がなくても十分理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目はいわゆる「山カケ」で単位がとれる科目ではない。履修の動機付けをしっかり持った学生の受講を希望する。

キーワード /Keywords

財務諸表、公認会計士、SOX法、金融商品取引法、内部統制、ディスクロージャー、粉飾決算、他。

税務会計【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 税務会計の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 税務会計の諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 税務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 税務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

税務会計

ACC310M

授業の概要 /Course Description

わが国における所得税，法人税および消費税を中心として，税金全体の概要とその体系や仕組みを理解することを目的としています。テキストを中心に解説する形式で授業を進めていきますが，理解を一層深めるために適宜，資料を配布します。また，個別事例の紹介，実際の法人税の申告に関する演習問題等も取り入れることにより理論と実践の融合を図る予定です。

教科書 /Textbooks

濱沖典之編著『税務会計論』五紘舎，2014年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

富岡幸雄『新版税務会計学講義(第3版)』中央経済社，2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会会計論の体系
- 第2回：社会科学としての会计学
- 第3回：社会科学としての税務会計論
- 第4回：税務会計及び税務会計論を巡る環境(1)
- 第5回：税務会計及び税務会計論を巡る環境(2)
- 第6回：取得税税務会計(1)
- 第7回：取得税税務会計(2)
- 第8回：取得税税務会計(3)
- 第9回：消費税税務会計(1)
- 第10回：消費税税務会計(2)
- 第11回：消費税税務会計(3)
- 第12回：財産税税務会計(1)
- 第13回：財産税税務会計(2)
- 第14回：経営組織別の税務会計の成り立ち等
- 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験80%，レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト，電卓は必ず持参して下さい。とりわけ，テキストについては，版は指定したものかどうか購入時に確認してください。

税務会計【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席すると分からなくなりますので、必ず出席して下さい。

キーワード /Keywords

所得税，法人税，消費税，財産税

管理会計論 【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 管理会計の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 管理会計の諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 管理会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 管理会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

管理会計論

ACC311M

授業の概要 /Course Description

管理会計は、経営管理に役立つ情報を提供する会計です。すなわち、企業の経営者や経営管理者に対して、経営戦略を策定し、マネジメントを遂行するために必要な情報を作成、伝達することが管理会計の目的なのです。

本講義は、この管理会計の理論と技法について学習していきますが、まず最初に、管理会計の特質と理論体系について考察し、管理会計の全体像を把握します。次に、経営戦略のための管理会計という観点から、企業における経営戦略の重要性とその策定プロセス、経営戦略の決定における管理会計の役立ちについて学びます。さらに、総合管理（マネジメント・プランニング・アンド・コントロール）のための会計という観点から、短期利益計画、予算管理、事業部制会計に関する理論と技法について学習します。最後に、オペレーショナル・コントロールのための会計として、購買管理や生産管理について検討するとともに、管理会計の新しい課題についても考えていきます。

以上の学習により、「マネジメントのための会計」といわれる管理会計理論の体系的な知識を得るとともに、経営管理上の諸課題を解決するための分析手法を修得することができます。

教科書 /Textbooks

上総康行『管理会計論』（新世社、1993年）¥2,900

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西村明、大下丈平『ベーシック管理会計』（中央経済社、2014年） ¥2,300

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 企業の経営管理と会計
2. 財務会計と管理会計のそれぞれの特徴
3. 管理会計の特質と発展系譜
4. 管理会計の体系
5. 経営戦略の意義と管理会計の役立ち
6. 長期利益計画とPPM
7. 原価管理と原価企画
8. 投資の経済計算
9. 価格決定と価格戦略
10. 短期利益計画とCVP分析
11. 総合管理としての予算管理
12. 事業部制会計の概要
13. 内部振替価格と共通費の配賦問題
14. 課業管理のための管理会計
15. 管理会計の新課題

管理会計論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、日常の授業への取り組み(20%)、レポート(30%)を勘案して、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経営学」「原価計算」を既に受講した場合は、本講義の理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント コスト PDCAサイクル 経営戦略

国際会計論 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際会計の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	国際会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際会計論

ACC312M

授業の概要 /Course Description

国際会計の研究領域は、主として（１）会計制度の国際比較、（２）会計基準の国際的調和化、（３）企業活動の国際化に伴う会計問題の三領域に分類されるが、本講義では、（２）の会計基準の国際的調和化論、なかでも、国際会計基準審議会の統合化活動について詳細に検討するとともに、併せて国際会計基準および国際財務報告基準の個別具体的な検討も行いたい。また会計に関する重要な新聞記事についてもその都度紹介することにしたい。本講義のねらいは、国際的調和化・統合化の動向、さらには国際会計基準/国際財務報告基準の具体的な基準の内容も理解することにある。

教科書 /Textbooks

基本的には講義用レジュメを配布し、それに基づき講義する。講義用レジュメは毎年大幅に改訂しているので注意されたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際会計の意義と必要性①
- 2回 同上②
- 3回 コンバージェンスからアドプションへ①
- 4回 同上②
- 5回 同上③
- 6回 国際会計基準および国際財務報告基準の個別具体的な検討 (IAS2など) ①
- 7回 同上②
- 8回 同上③
- 9回 同上④
- 10回 同上⑤
- 11回 同上⑥
- 12回 同上⑦
- 13回 同上⑧
- 14回 同上⑨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習を忘れずに。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報会計【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 会計データの数理的な分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 企業経営に関する諸問題を解決するため会計データの数理的な分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 会計データの数理的な分析の知見によって企業経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 会計データの数理的な分析に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報会計

ACC313M

授業の概要 /Course Description

本講義では、会計情報の分析方法を学習する。本講義は、まず、会計情報分析の基盤となる経済理論の解説をし、そのうえで、会計情報の分析を行なう。

注意点

- ① 資料をどんどん指定・配布する。指定・配布された資料を読んできていることを前提に授業を進める。
- ② 『学習支援フォルダ』に、詳細な授業概要を記した「情報会計の授業概要」をupしておくので授業概要を確認のうえ、履修登録をすること。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ① 専門分野の知識・理解およびスキル
会計情報の分析方法を習得する。
- ② 課題発見・分析・解決力
会計情報を分析して企業評価をできるようになる
- ③ 生涯学習力
会計情報の有用性を理解する。

教科書 /Textbooks

特になし。

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1) 経済理論の学習
梶井厚志. 2002. 『戦略思考の技術 - ゲーム理論を実践する』中央公論新社.

(2) 論文の読み方・書き方
石黒圭. 2012. 『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社.

情報会計【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 企業の目的【株式会社】
- 3回 経済理論①【情報の非対称性】
- 4回 経済理論②【シグナリング】
- 5回 経済理論③【資本コスト】
- 6回 資本予算①【機会原価】【埋没原価】
- 7回 資本予算②【確実性下の意思決定問題】
- 8回 資本予算③【リスク】【確実性等価】
- 9回 資本予算④【不確実性下の意思決定問題】
- 10回 財務業績の測定①【ROE】
- 11回 財務業績の測定②【企業評価】
- 12回 財務業績の測定③【残余利益モデル】
- 13回 キャッシュフローと運転資本①【キャッシュフロー】
- 14回 キャッシュフローと運転資本②【運転資本】
- 15回 キャッシュフローと運転資本③【運転資本管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回のレポート(授業中の報告と連動している) ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

簿記論I・II、財務会計論I・II、原価計算論I・II、企業ファイナンスI・IIが履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営分析【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 会計学に基づく経営分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 企業経営に関する諸問題を解決するための経営分析の手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営分析の知見によって企業経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営分析に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営分析

ACC400M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表のデータを収集し、経営分析の基本的技法である収益性の分析、安全性の分析、生産性の分析などの技術を習得する。本講義において実際の財務諸表を活用し、その数値を生きた数字として認識することがねらいである。

教科書 /Textbooks

田中弘『会計データの読み方・活かし方-経営分析の基本的技法』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森田松太郎『新版経営分析入門』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データの収集と分析【有価証券報告書】
- 3回 収益性の分析【総資本経常利益率】
- 4回 収益性の分析【資本回転率】
- 5回 収益性の分析【経常利益】【営業利益】
- 6回 安全性の分析【流動比率】
- 7回 安全性の分析【固定比率】
- 8回 経営分析の考え方【比率計算】
- 9回 財務指標の読み方【自己資本比率】【負債比率】
- 10回 生産性の分析【付加価値】
- 11回 損益分岐点分析【限界利益】
- 12回 損益分岐点分析【損益分岐点比率】
- 13回 経営分析【総合問題】
- 14回 企業データの読み方【投資情報】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

簿記論、財務会計論のみでなく、原価計算論、管理会計論、企業ファイナンス、経営学等の科目の履修を推奨する。講義では、財務諸表の比率の練習問題を主に行うので、電卓が必需品である。実際に各企業の財務諸表に触れて、企業を見る眼を養うことが必要である。

経営分析【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると考えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法Ⅱ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅱ

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅱでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Ⅰから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小田 浩史 / Hiroshi Oda / 北方キャンパス 非常勤講師, 土山 勇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	個人のキャリア形成に関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	キャリア形成に関する知識を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

業界研究 I

CAR310M

授業の概要 /Course Description

2017年度卒業予定で、就職活動を控える3年生対象の授業です。

(※一般就職を希望する方（公務員希望も含む）は必修に近い意識を持って受講してください。)

昨年度（2016年に大学を卒業される方）の就職活動からスケジュールが大きく変わったことはご存知かと思います。皆さんはその2年目。就職活動自体は後期から本格的に動き出すと思いますが、前期の段階で、今の大学生活から、自分の将来を真剣に考え、具体的な将来の職業を考える。そのためのキャリアプランニングをすること。そして、そのプランニングしたことにに関して、最終的に自ら実行していただくことを目的とした授業をいたします。

- 「大学生」という今の時間をどのように充実して過ごすのか。
- 北九大で何をするのか。
- 北九大生として何を意識するのか。
- 北九大生として何を考え、どう動くのか 等々、

上記のことが将来の職業人生に多大な影響があることを理解し、具体的な「考動」を喚起することを目標といたします。その目的・目標のために必要な、経済、業界、職種、企業、組織の情報、プラス、就職活動に関する情報を学びます。

この授業を受講していただきたい学生像としては、

- 受講後の夏季休暇に、企業インターンシップに参加し、業界や企業について勉強する意思のある学生
- 3年生になって自分の「将来」に漠然と不安を持っており、それを真剣に考え始めようと思っている学生

このような学生は是非積極的に受講ください。

この講座は、更なるステップアップ『実践の場』として用意されている課外講座「業界研究II(インターンシップ)」の準備講座としての役割を持っています。

教科書 /Textbooks

テキスト：マイナビ2016オフィシャル就活BOOK
 内定獲得のメソッド 「自己分析」 適職へ導く書き込み式ワークシート
 岡茂信 著、1,365円（定価）

その他、授業の中で適宜プリントを配布いたします。

業界研究I【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【授業の課題で使用するサイト等】

- 就職情報サイト 「マイナビ」
→業界・企業研究はもちろん、自己分析のツールとして使います。
- 北九州市立大学経済学部の共通ツール 「My Compass」 と 「My Collection」
→自らの「棚卸し」として 「My Compass」 の自己カルテのブラッシュアップをしていただきます。
→自分の興味ある業界・企業研究として 「My Collection」 の作成を課題にいたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(オリエンテーション)
- 2回 昨年度から大きく変わった『就職活動スケジュール』について
- 3回 社会を知る(社会の仕組みや「会社・企業」の存在意義)
- 4回 自分を知る(自己理解の必要性)基礎編
- 5回 自分を知る(自己理解の必要性)実践編
- 6回 自分と社会との接点(職業興味の発見)
- 7回 業界研究(研究の方法と調べ方)
- 8回 先輩(OB・OG)から社会の話を聴く
- 9回 業界研究(課題研究・中間報告)
- 10回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる①)
- 11回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる②)
- 12回 業界研究(将来像を描くための情報収集・働く意味を見つける)
- 13回 現状把握(現役人事担当者から意見とアドバイスを聴く)
- 14回 インターンシップの現状・今後に求められる活動
- 15回 まとめ

※内容は若干前後したり、変わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常の学習状況(出席点)・・・・・・・・・・・・・・ 40%
 - 授業内での小レポート提出(計7回)・・・・・・ 35%
 - 最終授業での課題発表・提出・・・・・・・・・・・・ 25%
- ※記入量と内容で評価。欠席、未提出は点数がつきません。
※15分以上の遅刻者には、その日の出席点はありません。
(講師は全員「社会人」ですので、そのルールで評価いたします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

今後、社会に出て活躍する者として貪欲に情報を知ることや新しい知識を得ること、自分の将来を考えることに高い意識を持って臨む姿勢を希望いたします。

上記しましたが、例えば、夏季休暇時に企業が主催するインターンシップに積極的に参加し、貪欲に色々な情報を取得し、自らの意思でしっかり成長をしていける、もしくは、していきたい学生に受講していただきたく思っております。

また、この講義は「就職テクニック」や「就活の裏技」を教えるものではありません。受講生皆さんの今後の長期的な職業人生のプランニングから、学生として今必要な情報と経験を理解し、それについて真剣に考え、自分の人生と将来の職業を結びつける授業です。

成績評価のところにも記載いたしましたが、講師は全て「社会人」です。皆さんは大学卒業後、「社会人」として生きて行かれるはずですので、その「社会人」のルールで成績評価をしていきます。(要は「遅刻」「欠席」などは当然ながら評価「0」です。)

自らの将来に期待、希望、不安、危機を感じており、今から何か動かなければならない。と、感じている学生の積極的な参加をお待ちしております。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究II【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	みずからのインターンシップ体験を口頭や文書によつて的確に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	インターンシップに対し意欲的かつ挑戦的に取り組むことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

業界研究II

CAR380M

授業の概要 /Course Description

本講義は学生諸君が参加するインターンシップに対して単位を認めようとするものである。この講義のねらいは、(1)就業体験(インターンシップ)を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、(2)大学での学習体験を現場で活かし、学問上の学習意欲を高めるとともに、実践的な知識をも習得すること、(3)職業意識を涵養し、進路選択に資すること、(4)就業体験(インターンシップ)を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、以上4点である。

昨今、就職活動におけるインターンシップの重要性が高まっており、各企業ともこの導入を積極的に図っている。インターンシップに参加することは、企業側が求める人材像を実体験を通じて知ることができ、そのことは当然、その後の就職活動において大きくプラスとなることだろう。また、インターンシップへの参加は、実際の就業体験を通じて、自分の「向き不向き」を確かめ、今後の進路を再確認することにもつながる。本講義はそうした学生諸君の貴重な体験を後押しすることを目的としている。インターンシップはアルバイトとは違い、一定期間とは言え、諸君は「社会人」という立場で企業に身を置くこととなる。したがってここには事前知っておくべき知識や所作などがあり、これを欠いては実りあるインターンシップを望むことはできない。本講義では、インターンシップの現状に詳しい専門家が講師を務め、ここで必要となる情報を提供する予定である。また、インターンシップで得た実感を、本講義が予定するプレゼンテーションやディスカッションを通じて、今後役に立つスキルにまで昇華していただきたい。

諸君にインターンシップの重要性を説くのは、本学に限らず就職活動を取り巻く状況は厳しくなっているからである。就職活動を成功させるため、あるいはそれだけでなく、やりがいを見出し出せる仕事に就くためには、大学生時代から実際の仕事に触れることが必須である。ゆえに、インターンシップの機会を活かして、各自の将来のキャリア展望をクリアにすることが期待される。

なお、すべてのインターンシップが単位認定対象となるわけではなく、いくつかの条件があることに注意されたい。詳細については、「業界研究IIに関するインターンシップ実施要領」を参照すること(「業界研究I」において「業界研究II」の履修に関して説明が行われる予定であるので、注意して説明を聞くこと)。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

インターンシップへ行く前に、自身のキャリアについて考えておくことが望ましいので、さしあたりキャリア関連の入門書として下記を挙げておく。
金井壽宏(2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習(7月下旬から8月上旬実施、全回の受講が必須)
- 第5回～12回 インターンシップによる実践的活動(8月～9月)
- 第13回～15回 活動報告と事後評価(9月下旬に実施、全回の受講が必須)

※通常の学期科目とは異なり、変則的な日程が組まれます。日程の詳細については業界研究Iで説明がなされますので、よく確認してください。

※9月下旬に開催予定の事後報告会では、インターンシップの成果について10分間程度、パワーポイントにて報告してもらいます。

業界研究II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

就業受け入れ企業（ないし団体・組織）の評価と、学生が提出するインターンシップ報告書、および報告会の発表内容により総合的に評価する。なお、インターンシップ報告書は事後研修のときに提出しなければならない。報告会の報告内容については、経済学部業界研究委員会で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 1学期開講の「業界研究I」を履修済みであることが受講条件となる。なお、インターンシップ実施要領を参照すること。
- (2) 本科目は1学期の時点からいくつかの申込が開始されるので、締め切り日には注意すること。また、本科目の履修のためには諸書類を提出してもらう必要がある。例年、この書類不備のために残念ながら履修不可になってしまう学生が後を絶たないので、細心の注意を払ってほしい。申込プロセスやスケジュールについては「業界研究I」のなかで説明する予定である。
- (3) 単位認定にあたってはインターンシップへの出席のみならず、事前学習と事後報告会(経済学部主催とキャリアセンター主催の双方)のすべてに出席しなければならない。特段の事情なしにいずれかを欠席した場合には単位を認めないものとする。
- (4) 本科目の関連科目として人材のマネジメントを扱う専門科目の「人的資源管理論」や、キャリアを扱う基盤教養科目の「キャリアデザイン論」などが参考になるはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は履修申請をしておきながら、事前学習や事後報告会を無断で欠席する学生が散見された。そもそもそのような学生は社会に出る資格はないといえよう。申請したからには最後まで責任をもって学修に取り組むこと。そして、インターンシップに行くからには、社会人としての自覚と基本的素養を今から持ってほしい。

キーワード /Keywords

経済・社会、キャリア、インターンシップ、人材マネジメント、実践

経営学特殊講義 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森高 正博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	時勢に応じた経営学分野の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学特殊講義 A

BUS390M

授業の概要 /Course Description

本講義では、マーケティングの理論を実践で活用するにあたって、どのような応用・分析が可能か、食料・農業分野の事例を取り上げながら学習する。

(本講義はマーケティング論全般を網羅するものではなく、あくまで、一部のテーマにおける応用方法を紹介する)

講義は以下のテーマ別に①理論の確認、②(必要に応じて)データ分析の基礎知識、③応用例紹介の3段階で進める。

- テーマ1 事業多角化に伴う企業間の戦略的關係
- テーマ2 小売業態のポジショニングと業態変化
- テーマ3 ブランド構築とブランド・マネジメント
- テーマ4 STPパラダイムと製品政策

また、本講義の受講者においては、マーケティング、ミクロ経済学、統計学等の科目を履修して、基本的な概念を理解していることが望ましい。

教科書 /Textbooks

なし(資料を随時配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

経営学特殊講義 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

イントロダクション

第1回 イントロダクション

テーマ1 事業多角化に伴う企業間の戦略的關係

第2回 理論：事業多角化，ゲーム理論

第3回 応用例紹介①：直売所の商業活動とカニバリゼーション

第4回 応用例紹介②：食品トレーサビリティシステム導入における企業間關係

テーマ2 小売業態のポジショニングと業態変化

第5回 理論：小売業態の変化

第6回 データ分析の方法：因子分析，回帰分析

第7回 応用例紹介③：直売所のポジショニングと業態変化

テーマ3 ブランド構築とブランド・マネジメント

第8回 理論：ブランド論と消費者行動論

第9回 データ分析の方法：確認的因子分析，パス解析

応用例紹介④：糸島産食品における地域ブランドの構築と商圏特性

第10回 データ分析の方法：AHP，階層的クラスタリング

第11回 応用例紹介⑤：下関ふくブランドのマネジメントの課題

テーマ4 STPパラダイムと製品政策

第12回 理論：STPパラダイム（セグメンテーション，ターゲティング，ポジショニング）と製品政策

第13回 データ分析の方法：因子分析＋クラスタリング，コンジョイント分析

第14回 応用例紹介⑥：柑橘ジュースの製品戦略（地域ブランドと機能性の両立の可能性）

第15回 まとめ

注）講義の進捗状況等によって変更されることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加状況，レポートを総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外書講読【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 外国語文献による研究に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 外国語文献による研究に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外書講読

SEM390M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、経営学に関する英語文献を読めるようになることである。
輪読形式で進める。毎回、担当者を決め、訳について報告してもらい、それを元に議論し、解説を加える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 英語文献輪読
- 第3回 英語文献輪読
- 第4回 英語文献輪読
- 第5回 英語文献輪読
- 第6回 英語文献輪読
- 第7回 英語文献輪読
- 第8回 英語文献輪読
- 第9回 英語文献輪読
- 第10回 英語文献輪読
- 第11回 英語文献輪読
- 第12回 英語文献輪読
- 第13回 英語文献輪読
- 第14回 英語文献輪読
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の翻訳・報告...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者はもちろん、担当者以外の人も必ず事前に文献を読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

議論への積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

ビジネス英語A (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication and critical thinking in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion, while case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Getting to know people
- 2 回 Brands; Outsourcing
- 3 回 Discussing Promotions; Taking Part in Meetings; Case Study
- 4 回 Business Travel: Needs and Problems
- 5 回 Making Arrangements on the Phone; Case Study
- 6 回 Company Structure; Successful Organisation
- 7 回 Socializing and Networking; Case Study
- 8 回 Change: Managing and Describing
- 9 回 Taking Part in Meetings 2; Case Study
- 10 回 Money; Financial Terms; Raising Capital
- 11 回 Reporting Success; Describing Trends; Case Study
- 12 回 Advertising Media and Methods; Achieving Success; Planning Ad Campaigns
- 13 回 Presentations; Case Study
- 14 回 Cultural Awareness and Advice
- 15 回 Advice, Obligation and Necessity; Case Study

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from previous week.
Prepare for active participation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Challenge your English. Challenge yourself.

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction
- 2 回Introduction Skills
- 3 回International job situations
- 4 回Departments in companies
- 5 回Teamwork Skills
- 6 回Organization Structures
- 7 回Describing Companies
- 8 回Presentations
- 9 回Workplace
- 1 0 回Describing Location and Direction
- 1 1 回Money; Business Costs
- 1 2 回Orders and Invoices
- 1 3 回Projects: how to succeed
- 1 4 回Project Analysis
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30%
Assignments 20%
Quizzes 30%
Test 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from previous class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Introduction Skills
- 3 回 International job situations
- 4 回 Departments in companies
- 5 回 Teamwork Skills
- 6 回 Organization Structures
- 7 回 Describing Companies
- 8 回 Presentations
- 9 回 Workplace
- 1 0 回 Describing Location and Direction
- 1 1 回 Money; Business Costs
- 1 2 回 Orders and Invoices
- 1 3 回 Projects: how to succeed
- 1 4 回 Project Analysis
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30%
Assignments 20%
Quizzes 30%
Test 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from previous class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との取引が必要です。国際ビジネスの領域は多岐にわたりますが、ここでは主たる状況を貿易の場に限定します。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学びます。その第一歩としては、どのような場で英語が使われるかの理解から始めます。

英語によるビジネスコミュニケーションのスキルのうち、特にリーディング・ライティングの力の向上を目指します。英語を母国語としない学習者にとって、仕事で英語が必要な場合、必要な技能はリーディング・ライティングができることが中心になると考えます。その二つの領域のスキルを入門的なビジネスのレベルにまで高めておくことが大切です。また、貿易の様々な場面に伴う実務的な知識の理解も目指します。

また、英語そのものの力を底上げするために、TOEICの対策のテキストを使い、リーディング・リスニングの力を高めます。TOEICのテキストは、400～500点レベルを対象としており、かなりわかりやすい英語です。

教科書 /Textbooks

福田 靖 「Eメール時代のグローバル ビジネス英語」 成美堂 2010年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネスコミュニケーションと英語(1) 【ビジネス、英語】
- 3回 ビジネスコミュニケーションと英語(2) 【わかりやすさ】
- 4回 レターとEメールのフォーマット(1) 【構成】
- 5回 レターとEメールのフォーマット(2) 【エチケット】
- 6回 オフィスの英語 電話の英語 (1) 【リスニング】
- 7回 オフィスの英語 電話の英語 (2) 【メッセージ】
- 8回 海外出張の英語(1) 【スケジュール】
- 9回 海外出張の英語(2) 【交渉】
- 10回 ビジネス社交の英語(1) 【招待】
- 11回 ビジネス社交の英語(2) 【案内】
- 12回 取引申込の英語(1) 【新規取引】
- 13回 取引申込の英語(2) 【信用照会】
- 14回 引合いの英語(1) 【インコタームズ】
- 15回 引合いの英語(2) 【見積もり】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ビジネス英語A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、英語を使うビジネスの場、特に貿易には、なじみがないものです。最初の二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる英語に初めて出会うからであり、特殊に見えるからです。習うより慣れるが大事です。慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス / 貿易 / コミュニケーション / レター

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年選抜クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication and critical thinking in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion, while case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Employment: Recruiting, Retaining, and Headhunting
- 2 回Managing Meetings; Case Study
- 3 回Free Trade; Fair Trade
- 4 回Working Conditions; Negotiating; Case Study
- 5 回Quality Control; Quality Management
- 6 回Making and Dealing with Complaints; Case Study
- 7 回Ethics; Responsible Business
- 8 回Problem Solving; Case Study
- 9 回Describing Character; Leadership Qualities
- 1 0 回Decision Making; Case Study
- 1 1 回Describing Innovations
- 1 2 回Presentation Techniques; Case Study
- 1 3 回Competitive Edge; Staying Competitive
- 1 4 回Being Diplomatic; Case Study
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from previous week.
Prepare for active participation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Challenge your English. Challenge yourself.

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - review of first semester
- 2 回 Explaining Problems
- 3 回 Describing Solutions
- 4 回 Product Description
- 5 回 Unusual Markets
- 6 回 Presentations
- 7 回 Discussing Competitors
- 8 回 SWOT
- 9 回 Market Share
- 10 回 Presentations
- 11 回 Discussing Careers
- 12 回 Job Interviews
- 13 回 Ideas - generating ideas
- 14 回 Suggestions and Advice
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30%
Assignments 20%
Quizzes 30%
Test 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from the previous class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - review of first semester
- 2 回 Explaining Problems
- 3 回 Describing Solutions
- 4 回 Product Description
- 5 回 Unusual Markets
- 6 回 Presentations
- 7 回 Discussing Competitors
- 8 回 SWOT
- 9 回 Market Share
- 10 回 Presentations
- 11 回 Discussing Careers
- 12 回 Job Interviews
- 13 回 Ideas - generating ideas
- 14 回 Suggestions and Advice
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 30%
Assignments 20%
Quizzes 30%
Test 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review material from the previous class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との取引が必要です。国際ビジネスの領域は多岐にわたりますが、ここでは主たる状況を貿易の場に限定します。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学びます。

英語によるビジネスコミュニケーションのスキルのうち、特にリーディング・ライティングの力の向上を目指します。英語を母国語としない学習者にとって、仕事で英語が必要な場合、リーディング・ライティングができることが中心になると考えます。その二つの領域のスキルを入門的なビジネスのレベルにまで高めておくことが大切です。また、貿易の様々な場面に伴う実務的な知識の理解も目指します。テキストは、原則として二回の授業で一つのチャプターを終えます。

また、英語そのものの力を底上げするために、TOEIC対策のテキストを使い、リーディング・リスニングの力を高めます。TOEICのテキストは、400～500点レベルを対象としており、かなりわかりやすい英語です。TOEICのテキストは、二回の授業で一つの章を終えます。

教科書 /Textbooks

福田 靖 「Eメール時代のグローバル ビジネス英語」 成美堂 2010年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

ビジネス英語B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【グローバルビジネス、英語】
- 2回 オファーの英語 (1) 【オファー、インコタームズ】
- 3回 オファーの英語 (2) 【カウンターオファー】
- 4回 注文の英語 (1) 【発注】
- 5回 注文の英語 (2) 【信用状態】
- 6回 契約書の英語 (1) 【契約】
- 7回 契約書の英語 (2) 【売買契約】
- 8回 信用状の英語 (1) 【当事者】
- 9回 信用状の英語 (2) 【取り消し不能信用状】
- 10回 出荷の英語 (1) 【船積み】
- 11回 出荷の英語 (2) 【船積書類】
- 12回 決済の英語 (1) 【支払い】
- 13回 決済の英語 (2) 【支払い方法】
- 14回 クレームの英語 (1) 【請求】
- 15回 クレームの英語 (2) 【処理】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。テキスト、辞書を忘れると、評価が下がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、英語を使うビジネスの場、特に貿易には、なじみがないものです。最初の二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる英語に初めて出会うからであり、特殊に見えるからです。習うより慣れるのが大事です。慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス / 貿易 / コミュニケーション / レター

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学

ECN262M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社 (1998) ○
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社 (2005) ○
マンキュー『マンキュー経済学! ミクロ編』(第2版) 東洋経済新報社 (2005) ○
スティグリッツ『公共経済学』(上・下) (第2版) (2003) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習(1)【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習(2)【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

公共経済学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス論【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ファイナンスに関する専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ファイナンスに関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りのファイナンスに関する諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りのファイナンスに関する諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ファイナンス論

ECN360M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。またファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせた、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができるようになります。到達目標は以下ようになります。①現在価値分析を理解して、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式などの金融資産の価値を計算できるようになる、②ポートフォリオ理論におけるリスクとリターンの概念を理解して計算ができるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 榊原 & 城下 & 姜 & 福田 & 岡村著 (2013) 『入門証券論 [第3版]』有斐閣
- ・ 貝塚 & 吉野 & 伊藤著 (2013) 『実学としてのパーソナルファイナンス』中央経済社
- 日本証券アナリスト協会編 『証券投資論 第3版』日本経済新聞社
- 三井住友信託銀行マーケット事業 (2013) 『第5版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回 投資の基本概念【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】
- 3回 投資の基本概念【内部収益率】
- 4回 債券(1)【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】
- 5回 債券(2)【単利】【複利】
- 6回 株式(1)【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】
- 7回 株式(2)【配当割引モデル】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 ポートフォリオ理論(1)【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】
- 10回 ポートフォリオ理論(2)【分散】【標準偏差】に関する練習問題
- 11回 ポートフォリオ理論(3)【選好】
- 12回 ポートフォリオ理論(4)【相関度】【相関係数】【分散投資効果】
- 13回 ポートフォリオ理論(5)【効率的フロンティア】【分離定理】
- 14回 CAPM(資本資産評価モデル)(1)【資本市場線】【証券市場線】
- 15回 CAPM(資本資産評価モデル)(2)【ベータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験または中間レポート... 50% 期末試験または期末レポート... 50%
宿題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

ファイナンス論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業に、必ず毎回出席して、内容を100%理解するように努めてください。
- ・ 授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。
- ・ 日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を批判的に読めるようになるまで、努力を続けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

前期の授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政収支の現状そして基本的な経済学のフレームワークを使って財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。ミクロ経済学やマクロ経済学で勉強した内容もあると思いますが、財政学とくに政府の役割の観点からもう少し詳しく捉えていきます。経済学を勉強していない人にも教科書をベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書 /Textbooks

『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スティグリッツ公共経済学 (上・下)
ジョセフ・E・スティグリッツ (著) 藪下 史郎 (翻訳)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと市場均衡
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気安定化機能 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 ケインズの45度線モデルと短期的GDPの決定
- 13 財政政策の乗数効果とそのメカニズムについて
- 14 景気循環と財政の自動安定化措置
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

財政学I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学Ⅱ

ECN362M

授業の概要 /Course Description

後期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題とはいった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編
N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)

マクロ経済学
二神孝一 堀敬一 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果の復習
- 3 乗数効果：均衡財政と公債発行による財政支出と減税
- 4 IS-LMモデル① 財・サービス市場の均衡
- 5 IS-LMモデル② 貨幣市場の均衡
- 6 財政政策の効果とその有効性
- 7 公債と財政赤字①-新古典派モデルの考え方
- 8 公債と財政赤字②-リカード=バローの中立命題
- 9 公債と財政赤字③-リカード=バローの中立命題の現実性
- 10 公債と財政赤字④-財政赤字の持続可能性
- 11 経済成長と財政-資金市場の均衡と財政赤字の影響
- 12 公的年金制度について
- 13 年金制度と資金の移転
- 14 人口成長と年金収益率の関係
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財政学II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論I

ECN341M

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
経済現象だけでなく、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。
もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Joseph E. Harrington, Jr. Games, Strategies, and Decision Making, 2nd, Worth Publishers. 2014.
渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論（経済学）とゲーム理論【背景の理解】
- 2回 戦略形【利得表と均衡概念】
- 3回 戦略形【支配戦略と均衡概念と応用】
- 4回 戦略形【逐次削除均衡と応用】
- 5回 オークション
- 6回 戦略形【オークション】
- 7回 戦略形【ナッシュ均衡と応用】
- 8回 戦略形【ナッシュ均衡と応用_数量競争と価格競争】
- 9回 展開形【時間構造】
- 10回 展開形【後方帰納法】
- 11回 展開形【不完全情報】
- 12回 展開形【不完備情報】
- 13回 展開形【不完備情報とその応用】
- 14回 展開形【オークション】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

産業組織論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論II

ECN342M

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. 2000. Introduction to Industrial Organization. MIT Press.
Peter Davis and Eliana Garces. 2010. Quantitative Techniques for Competition and Antitrust Analysis. Princeton Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2回 取引ゲーム【基本モデル】
- 3回 取引ゲーム【余剰分析】
- 4回 取引ゲーム【コア、誘因両立性】
- 5回 独占【余剰分析】
- 6回 独占【自然独占と特許】
- 7回 独占【価格差別】
- 8回 寡占【余剰】
- 9回 寡占【カルテルの不安定性】
- 10回 寡占【無限繰り返しゲームとカルテルの安定性】
- 11回 寡占【クールノー極限定理と過剰参入定理】と市場構造のまとめ
- 12回 独占禁止法教室【公正取引委員会】
- 13回 入札
- 14回 入札談合
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

産業組織論I・ミクロ経済学・統計学の知識を前提とする。(他学部受講生も同様)

産業組織論II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	労働に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学 I

ECN343M

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な「労働市場」の考え方を中心に解説します。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』, 大橋勇雄, 中村二郎著, 有斐閣.
『労働経済学』, 樋口美雄, 東洋経済新報社.
『仕事の経済学』, 小池和男著, 東洋経済新報社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済学の視点から見た労働 【労働】
- 第2回 統計からみる「働く」ということ 【給与水準】 【労働参加率】 【労働時間】
- 第3回 社会的分業と生産性 【分業の利益】 【規模の経済】
- 第4回 労働市場という概念と機能(1) 【労働の取引】 【市場】
- 第5回 労働市場という概念と機能(2) 【労働需要】 【労働供給】
- 第6回 労働市場という概念と機能(3) 【市場メカニズム】
- 第7回 労働市場という概念と機能(4) 【市場賃金】
- 第8回 労働市場への介入の是非 【市場介入】
- 第9回 公的部門の労働市場 【公的部門】 【民間準拠】
- 第10回 失業(1) 【失業の定義】 【オークンの法則】
- 第11回 失業(2) 【賃金の下方硬直性】 【ミスマッチ】
- 第12回 賃金格差 【労働移動】 【人的資本】
- 第13回 労働市場の内部化 【内部労働市場】
- 第14回 日本の雇用システム(1) 【正規労働者】 【非正規労働者】
- 第15回 日本の雇用システム(2) 【正社員の働き方】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%, 小テストあるいはレポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

労働経済学I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

復習を欠かさないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学II 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労働に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学II

ECN344M

授業の概要 /Course Description

企業にとって「労働」は最も重要な生産要素であると同時に、最も扱いにくい生産要素の一つです。したがって、企業は「労働」をどのように活用していくべきかについて十分に考察しなければなりません。本講義では、企業の立場から「労働」をいかに活用していくべきかを経済学的に考えるために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版．
『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジャー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人事マネジメントとは 【人事】
- 第2回 組織構造とインセンティブ（1） 【情報伝達】 【インセンティブ】
- 第3回 組織構造とインセンティブ（2） 【管理職】 【残余利潤請求権】
- 第4回 採用と離職（1） 【雇用量】 【マンアワー】
- 第5回 採用と離職（2） 【選抜】 【シグナリング】
- 第6回 採用と離職（3） 【解雇】 【早期退職】
- 第7回 インセンティブと報酬体系（1） 【参加制約】 【インセンティブ制約】
- 第8回 インセンティブと報酬体系（2） 【固定給】 【変動給】
- 第9回 インセンティブと報酬体系（3） 【グループインセンティブ】 【CEO】
- 第10回 年功型インセンティブ 【賃金プロファイル】
- 第11回 インセンティブと昇進 【トーナメント】
- 第12回 社内の利害行動 【競争】 【強調】
- 第13回 人事評価 【絶対評価】 【相対評価】
- 第14回 教育・訓練（1） 【学校教育】 【人的資本】
- 第15回 教育・訓練（2） 【職場訓練】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%，小テストあるいはレポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

労働経済学II【昼】

履修上の注意 /Remarks

復習を欠かさないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際貿易論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補充・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、海外進出先に関してどのような選択をするのか尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。その際、行動経済学を利用するので、行動経済学の紹介を行なう。

ゲーム理論も紹介するので、算数レベルのものに対してアレルギーのある人は避けた方が良くもしいが、算数に対して苦手レベルであれば、ついていけないような講義を目指す。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODakション
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】【極小確率事象】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク【SARS】
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際貿易論II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

直接投資の説明に、行動経済学を利用するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書はあらかじめ読んでいることを前提に講義を行なう。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

国際マクロ経済学I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	海外部門を考慮したマクロ経済分析についての基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界経済情勢に関連する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際マクロ経済学 I

ECN310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「日本経済の動き」及び「世界経済の動き」を国際マクロ経済の視点から理解することができ、また日本経済を世界経済の動向と結び付けて理解できる。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状（Ⅰ）：世界の余剰資金とアメリカ経済 【国際資本】 【ドル通貨】
- 第3回 世界経済の現状（Ⅱ）：世界経済の動向と新興経済大国（BRICs） 【欧州連合】 【ユーロ】 【資源大国】
- 第4回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅰ）-マクロ経済学の基本的枠組み（基礎概念）-
【総供給・総需要】 【マクロ均衡・不均衡】
- 第5回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅱ）-国際マクロ経済の分析枠組み（基礎理論）-
【輸出・輸入】 【輸入超過】 【輸出超過】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅲ）-国際マクロ経済の分析枠組み（応用理論）-
【内需・外需】 【経常収支の黒字・赤字】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅰ） 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅱ） 【経常収支黒字と資本収支赤字】 【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ） 【経常赤字】 【財政赤字】 【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ） 【資本の輸出】 【対外投資】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅰ） 【貯蓄・投資】 【財政収支】 【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅱ） 【過剰貯蓄】 【資本輸出】 【金融資産】
- 第13回 日本経済現状：経常収支の黒字と外貨準備高 【円高】
- 第14回 世界経済の不均衡問題 【経常収支の黒字・赤字】 【債権大国：日本・中国】 【債務大国：アメリカ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際マクロ経済学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおくとよいでしょう。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給バランス オープンマクロ
経常収支 資本収支 外貨準備 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務
貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本 円高・円安 ユーロ

国際マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 海外部門を考慮したマクロ経済分析についての専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 世界経済情勢に関連する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際マクロ経済学II

ECN311M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結びつけて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：世界経済と日本
- 第2回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】【管理通貨制度】【IMF体制】
- 第3回 外国為替取引と為替レート 【円建て】【ドル建て】
- 第4回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度 【平価】【固定レート】【市場レート】
- 第5回 外国為替レートの決定メカニズム 【ドル買い】【円売り】
- 第6回 変動為替相場（フロート）制度 【円高】【円安】
- 第7回 固定為替相場制度 【平価】【為替介入】【外貨取引の規制】【マクロ経済政策】
- 第8回 変動為替相場制度と為替介入（I）
【管理フロート制】
- 第9回 変動為替相場制度と為替介入（II）
【外国為替資金特別会計】【FB：政府短期証券】
- 第10回 為替介入と外貨準備高 【通貨当局】
- 第11回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】【金融政策】【資本移動】
【不胎化介入】【非不胎化介入】
- 第12回 固定相場制と政策効果 【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 第13回 変動相場制と政策効果 同上
- 第14回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
- 第15回 まとめ-世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際マクロ経済学II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 MF体制 円建レート ドル建レート
円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会 FB 平価 為替介入
不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政策 金融政策 資本移動

地域経済I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 今日の地域経済の諸問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造の高度化①【産業構造】
- 4回 工業化の進展【重化学工業化】【高加工度化】
- 5回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 6回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 7回 地域構造の高度化②【空間的情報流】
- 8回 企業内分業の進展①【工場立地】【オフィス立地】
- 9回 企業内分業の進展②【都市システム】
- 10回 コンピュータ・ネットワークと市場①【市場の広がり】
- 11回 市場の世界化①【金融市場】【物財市場】
- 12回 市場の世界化②【労働市場】
- 13回 コンピュータ・ネットワークと市場②【市場の深まり】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題【地方消滅】【地方創生】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

地域経済I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II 【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済II

ECN245M

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 都市計画【まちづくり3法】、【商業集積】
- 3回 中心市街地活性化【中心市街地】、【集客戦略】
- 4回 観光産業の振興とまちづくり(1)【マスツーリズム】、【インバウンド振興】
- 5回 観光産業の振興とまちづくり(2)【新しい観光の形態】、【グリーンツーリズム】
- 6回 1~5回の復習とまとめ
- 7回 地域の環境問題(1)【公害問題】、【地球環境の変化】
- 8回 地域の環境問題(2)【エコタウン政策】
- 9回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】、【クラスター】
- 10回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】、【知識と情報】
- 11回 7~10回の復習とまとめ
- 12回 人口減少の影響と地域経済(1)【少子高齢化】
- 13回 人口減少の影響と地域経済(2)【中山間地域】、【限界集落】
- 14回 人口減少の影響と地域経済(3)【コンパクトシティ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

地域経済II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方分権、環境政策、観光政策、産業クラスター、人口減少

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域政策を検討するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域政策に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域政策

ECN250M

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

教科書 /Textbooks

使用しません。
配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のなかで、その都度提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のグランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの（ワークショップ）
- 10回 新産業育成と地域政策
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 交流人口と地域政策
- 13回 地域問題解決の新たな手法
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート... 20% 期末テスト... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域政策【昼】

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、新たな公共、地域経営

北九州経済分析I【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 北九州市の経済動向を理解するために基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 北九州市の経済動向に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力	る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州経済分析 I

ECN251M

授業の概要 /Course Description

前半は、北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、都市としての北九州市の変容過程を説明する。また、北九州市で展開されている地域開発、具体的には響灘開発、北九州学術研究都市、東田開発を具体的に解説する。さらには、昨今の市民セクターの台頭を考慮しながらソーシャルビジネスの実態についても具体的に言及する。

後半は、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の動向を踏まえながら、企業の仕組み、産業・業態・企業の盛衰やダイナミズムについて検討します。

よって、受講生には日常的に北九州市の経済社会や地元の企業の動向に興味を持って授業に望んで欲しい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』（2010年10月）
- 九州経済調査協会編『図説 九州経済2015』（2014年10月）
- 北村亘『政令指定都市』（2013年7月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【企業城下町】、【鉄鋼業】、【軍都】
- 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
- 4回 政令指定都市としての北九州市【人口動向】、【少子・高齢化】、【政令指定都市】
- 5回 成熟化する北九州市の今後【成熟化】、【NPO】、【協同】、【指定管理者制度】
- 6回 北九州市の都市形態の変容【再都市化】、【高速交通】、【再開発】
- 7回 地域の上場企業の実態【上場企業】、【大企業】、【経営戦略】
- 8回 地域の主要企業におけるグループ経営【グループ経営】、【子会社】、【系列企業】
- 9回 地域企業の盛衰【老舗企業】、【企業の寿命】、【倒産】、【企業再生】
- 10回 FCビジネスと外食産業【店舗展開】、【FCビジネス】、【メガフランチャイジー】
- 11回 地域における小売業I【デパート】、【スーパー】、【業態変化】
- 12回 地域における小売業II【コンビニ】、【通信販売】、【ドラッグストア】
- 13回 響灘開発とエコタウン事業【傾斜生産方式】、【地域産業】、【企業誘致】、【跡地利用】
- 14回 東田開発とICT産業・エネルギー産業【IT】、【クラウド】、【データセンター】、【スマートグリッド】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小レポート 20 % レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州経済分析I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、成熟社会、協働、地域企業、グループ経営、業態変化、ICT

北九州経済分析II【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 北九州市の経済動向を理解するために専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 北九州市の経済動向に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州経済分析II

ECN252M

授業の概要 /Course Description

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）を卒業して、活躍している経営者や地域のキーパーソンをゲストスピーカーとして招いて、実践的に地域企業の経営戦略、マーケティング戦略、新規事業戦略、海外戦略、組織のマネジメント、ガバナンス等について学びます。各ゲストスピーカーの事例を考察し、少子高齢化やICTの進化など経済社会の変化への対応について検討します。そのうえで、人口が減少する成熟化した地域社会の中でのビジネスのあり方をフォーカスします。よって、受講生には北九州地域と縁の深い企業や組織の存在をしっかりと認識するとともに、人口減少や少子高齢化が地域の企業・組織にどのような影響を与えるかを自分なりに検討してください。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』西日本新聞社（2010年10月）
- P.F. ドラッカー『【エッセンシャル版】マネジメント』ダイヤモンド社（2001年12月）
- 遠藤功『経営戦略の教科書』光文社新書（2011年7月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域のリーダー、地域のマネジャー【リーダーシップ】、【マネジメント】
 - 2回 北九州における成熟化の現状【人口動向】、【少子高齢化】、【人材不足】、【街のダウンサイジング】
 - 3回 《事例研究1》北九州の中小建設業の経営戦略【中小企業】、【建設業】、【人材】
 - 4回 事例研究1に係る補足と解説【建設業】、【成熟産業】、【選択と集中】
 - 5回 《事例研究2》成熟産業の担い手による新規事業の可能性【農業】、【農家レストラン】、【新規事業】
 - 6回 事例研究2に係る補足と解説【砕石業】、【多角化】、【新規事業創出】、【ICT】、【コラボレーション】
 - 7回 《事例研究3》惣菜メーカーにおける多店舗展開戦略【店舗開発】、【食ビジネス】、【地域マーケティング】
 - 8回 事例研究3に係る補足と解説【地域マーケティング】、【市場開拓】、【商品開発】
 - 9回 《事例研究4》花火ビジネスのCSV戦略【CSV】、【共創価値】、【花火】、【コミュニティ・ビジネス】
 - 10回 事例研究4に係る補足と解説【CSV】、【CSR】、【ソーシャル・ビジネス】、【感性マーケティング】
 - 11回 《事例研究5》リハビリの現場と今後の展望【高齢化】、【医療福祉ビジネス】、【チームマネジメント】
 - 12回 事例研究5に係る補足と解説【チームマネジメント】、【モチベーション】、【人材】
 - 13回 《事例研究6》成熟社会におけるNPOの可能性【NPO】、【ソーシャルビジネス】、【指定管理者制度】
 - 14回 事例研究6に係る補足と解説【NPO】、【地方自治体】、【公共経営】、【協働】
 - 15回 まとめ～成熟社会における市場開拓とマネジメント【成熟社会】、【マネジメント】、【協働】
- * 3回目、5回目、7回目、9回目、11回目、13回目の授業にゲストスピーカーを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート 60 % 試験 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州経済分析II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。また、P.F.ドラッカーの理論などに知見を持っていることを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）のOBの方々をゲストスピーカーとして招聘しますので、ゲストスピーカーの方々のマネジメントやリーダーシップについて意識して聞いてください。

キーワード /Keywords

地域企業、新事業創出、ビジネスアイデア、ローカル戦略、経営戦略、リーダーシップ、マネジメント、公共経営、協働

地方財政論【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論

ECN365M

授業の概要 /Course Description

本講義は、現代的な地方自治の実現を目標とする地方財政について、その歴史、制度、課題を体系的に学ぶ。
現代地方自治と地方財政は、財政の三機能と地方財政の役割、課税自主権、府県間財政関係、地域金融等について基礎的に学んでから、地方財政と関連のある行政施策について個別に説明する。個別の内容としては、地域経済、まちづくり、環境・エネルギー、災害、少子高齢化である。
本講義は、公務員を目指している学生はもとより、企業と行政の関係性も深い業界に就職する学生にも参考になる内容になっている。

教科書 /Textbooks

重森暁・植田和弘編著『Basic 地方財政論』有斐閣ブックス 2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

持田信樹『地方財政論』東京大学出版会 2013年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 現代地方自治と地方財政
- 第3講 日本における地方自治体と地方財政の歩み
- 第4講 地方自治体の役割と経費
- 第5講 地域経済と地方財政
- 第6講 創造的まちづくりと地方財政
- 第7講 環境・エネルギーと地方財政
- 第8講 災害と地方財政
- 第9講 少子高齢社会と地方財政
- 第10講 地方自治の財政基盤
- 第11講 地方税と課税自主権
- 第12講 地方交付税と国庫支出金
- 第13講 地方債と地域金融
- 第14講 地方公営企業と第三セクター
- 第15講 予算制度と住民自治

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%
試験は、テキスト、配付資料、手書きノートの持込可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地方財政論 【昼】

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法

LAW322M

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例により構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にはどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。

授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第6版]』（有斐閣、2014年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第4版]』（有斐閣、2013年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著 『情報公開法』（有斐閣、1999年）
園部逸夫編集 『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）
行政情報システム研究所編 『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義 情報公開とは何か	第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎 個人の尊厳とプライバシー
第 2回 情報公開制度の憲法上の基礎 知る権利、国民主権	第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 個人情報の収集、管理、利用
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 個人情報の不開示とプライバシー保護	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求、不開示情報、訂正等請求
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報及び意思形成過程情報の不開示	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会による審査
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示	第15回 まとめ
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会による審査	
第 9回 個人情報保護の意義 個人情報保護とは何か	

情報公開・個人情報保護法【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集団的労働関係法に焦点を当てます。集団的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集団的労働関係法の基本事項を身に付けるとともに、集団的労働関係法の将来像を模索することを通じて、雇用社会への関心を高めるところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 労使関係法の意義と目的
- 2回 労働組合の歴史と機能
- 3回 団体交渉の仕組みとその主体
- 4回 団体交渉の目的と態様
- 5回 争議行為
- 6回 組合活動
- 7回 労働協約
- 8回 不当労働行為制度（1）【不利益取扱いと支配介入】
- 9回 不当労働行為制度（2）【制度の趣旨とその主体】
- 10回 労働組合による労働者の統制
- 11回 労働組合の衰退と合同労組
- 12回 公共部門の労使関係法
- 13回 従業員代表制度
- 14回 労使関係法の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書は必ず購入して下さい。雇用関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して講義に持参するようにして下さい。雇用関係法とセットで履修することが望ましいです。

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集团的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項に関する知識を身に付けること、個別的労働関係における現代的諸課題に関する基本的な分析の視点を養うこと、これらを通じて雇用社会に対する関心を高めること、にあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 労働契約関係の成立
- 3回 労働条件決定の法的仕組み
- 4回 労働時間規制
- 5回 休暇、休日、休業
- 6回 健康と安全
- 7回 懲戒処分
- 8回 人事異動
- 9回 労働条件の変更
- 10回 労働契約の終了
- 11回 期間の意義と定年制
- 12回 労働者派遣の法規制
- 13回 雇用差別禁止法
- 14回 企業組織の変動と労働関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

雇用関係法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

教科書は必ず購入して下さい。労使関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。
レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して授業に持参するようにして下さい。
労使関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、障害者総合支援法の制定や介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インタロダクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
- 第4回 医療保障③ ～保険医療の仕組み～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付①～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政①～
- 第7回 医療保障⑥ ～医療保険の財政②、高齢者医療～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式～
- 第10回 社会福祉③ ～サービス利用の法律関係～
- 第11回 社会福祉④ ～福祉サービスの提供体制～
- 第12回 社会福祉⑤ ～権利擁護システム～
- 第13回 社会福祉⑥ ～不服申立制度～
- 第14回 質問事項に対する講義（医療・福祉）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

社会サービス法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	所得保障法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える所得保障法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

所得保障法

LAW243M

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、これら各制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、芸能ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。

本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジюмеで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。

- 第1回 インTRODクシヨN～「所得保障法」とは？
- 第2回 年金保険① ～公的年金保険の構造～
- 第3回 年金保険② ～公的年金保険の保険関係～
- 第4回 年金保険③ ～公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）～
- 第5回 年金保険④ ～公的年金保険の保険給付②（遺族給付）～
- 第6回 年金保険⑤ ～公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）～
- 第7回 年金保険⑥ ～公的年金保険の財政及び不服申立～
- 第8回 年金保険⑦ ～公的年金制度と私的年金制度～
- 第9回 公的扶助① ～我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①（生保1・2条）～
- 第10回 公的扶助② ～生活保護制度の基本原則②（生保4条）～
- 第11回 公的扶助③ ～生活保護実施に関する4つの原則～
- 第12回 公的扶助④ ～保護の種類と方法～
- 第13回 公的扶助⑤ ～保護の実施機関とプロセス～
- 第14回 公的扶助⑥ ～不服申立制度～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

所得保障法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法

LAW340M

授業の概要 /Course Description

我国の経済システムは、市場主義の経済である。そこでは、自由・公正な「競争」により経済効率の向上が図られるのである。ところが現実には、高度寡占化、政府規制、カルテル（談合）、不公正な取引方法等により「競争」が制限され、市場機能が十分発揮されない状況にあり、いかにして「競争」を維持・促進するかがますます重要な課題となってきた。そのような状況を背景として、「競争理念」の実現を法目的とし、経済憲法ともいわれている独占禁止法について学ぶ。この法律は、自由を促進するといいつながら、他方、過度の自由を規制するものである。したがってこの授業では、自由と規制の線引きをどのような切り口で、どのような論理過程で考えればよいかを多数の事例を通して学ぶこととなる。

「競争」の意義・メリットを理解すれば、この法律が大企業、中小企業、一般消費者という経済のプレーヤーの全てに強く支持されている理由がわかってくる。学生諸君には、この法律を学ぶことによって、「競争」の意義・メリットをよく理解し、実社会において、カルテルなどで競争を回避することなく、自信を持って自由闊達に経済活動ができるようになることを期待しています。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（プリントを製本したもの。生協で販売します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤一雄他『テキスト 独占禁止法(再訂二版)』 青林書院 2010年 5,076円)
- 川濱 昇他『ベーシック経済法 独占禁止法入門(第4版)』(有斐閣アルマ)有斐閣 2014年 2,160円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の進め方。競争の意義・効果
- 2回 独占禁止法の目的・構成・沿革
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
- 4回 ” 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
- 5回 ” 【事業者団体によるカルテル】
- 6回 私的独占 【排除・支配】
- 7回 不公正な取引方法 【一般指定】【特殊指定】
- 8回 ” 【取引拒絶】【差別的取扱い】
- 9回 ” 【事業活動の不当拘束】
- 10回 ” 【不当な顧客誘引・取引強制】【取引上の地位の不当利用】【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法
- 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
- 13回 ” 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的状态】
- 14回 独占禁止法の運用手続 【排除措置】【課徴金納付命令】
- 15回 ” 【不服審査手続】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。日常の授業への取り組み... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

独占禁止法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、現実の経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力（市場支配力） 私的独占 カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度
再販売価格維持制度 優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 排除措置命令 課徴金納付命令

知的財産法【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 知的財産法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える知的財産法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

知的財産法

LAW341M

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「総合編」発明推進協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～、法定通常実施権、パテントマップの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ
16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割(50%程度)、残りはレポート等の最終提出物や授業中の発表、リフレクションカードの記述内容等、日常的学習の成果(50%程度)を参考にして総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知的財産法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作者の権利

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されているのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂，2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

国際法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

国際法II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

民法総則【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW180M

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。民法だけでなく、すべての法律科目の基本となる科目であるため、法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義は、1年生のほとんどが履修することが予想されるため、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。この科目を学習することで、法的な分析と論理的な思考により課題を解決する判断力を身につけ、法と社会とのつながりを再確認することができます。

教科書 /Textbooks

一般に書店で売られている書籍は教科書として使用せず、担当作成のオリジナルな冊子を販売する(900円以下の価格となる予定)。初回の講義のときに教室入り口で販売する予定であるが、詳細は、4月初旬に掲示板に掲示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法とは、民法には何が書いてあるか、2, 市民法の基本原理、法令用語
- 2回(週) 3, 【意思能力】、4, 【未成年者】
- 3回(週) 5, 【成年被後見人】他、6, 【無効】と【取消】
- 4回(週) 7, 【法人】概説、8, 法人の理事の行為
- 5回(週) 9, 【物】、10, 【法律行為】概説、慣習
- 6回(週) 11, 法律行為の有効要件、12, 【公序良俗】
- 7回(週) 13, 【心裡留保】、14, 【虚偽表示】
- 8回(週) 15, 【錯誤】、16, 【詐欺・強迫】
- 9回(週) 17, 不動産登記との関係、18, 意思表示の到達
- 10回(週) 19, 【代理】、20, 【無権代理】概説
- 11回(週) 21, 無権代理と相続、22, 【表見代理】
- 12回(週) 23, 【条件】、【期限】、24, 【期間】
- 13回(週) 25, 【時効】概説、26, 【取得時効】
- 14回(週) 27, 取得時効と登記、28, 【消滅時効】
- 15回(週) 29, 【除斥期間】、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100 % (詳細は6月中に掲示する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法(最新版)は必ず持参して下さい。有斐閣の『ポケット六法』が最も信頼でき、お勧め。

民法総則 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

民法総則

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業取引法(商取引法)の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える企業取引法(商取引法)上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法 I

LAW272M

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。

また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。

火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

教科書 /Textbooks

山下友信・竹濱修・洲崎博史・山本哲生『保険法』（第3版）（有斐閣アルマ・2010年）
六法については、最新版であることが望ましいです。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の理解の度合い等により進捗順番が変わる可能性につきご了承ください。

(【 】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務(1)告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務(2)告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務(3)告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務(4)事例研究とまとめ
- 第9回 保険契約における事情変更・失効
- 第10回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第11回 損害保険契約 【保険代位】
- 第12回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 第13回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第14回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、授業の理解度を把握するために不定期に実施する小テスト等の結果20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業取引法I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 1, 配布される資料は、以後の講義のために事前に配付されるのが通例です。従って、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領した資料レジュメについても持参の上、講義を受けるようにしてください。
- 2, 欠席した場合、配付済レジュメ等は講義担当者の研究室横の棚にスタックされています。各自の責任において入手するようにしてください(残余部数には限りがあります)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
- 2, また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法II 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法II

LAW372M

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをすることも増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法（とりわけ私法）は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動していただいただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち（振出人、受取人、所持人等）の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍見他「商法III - 手形・小切手〔第4版〕」（有斐閣Sシリーズ・2011年）2100円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」（新世社・2005年）、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」（商事法務研究会・2003年）。
- ②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選〔第7版〕」（別冊ジュリスト222号）（有斐閣・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（1）【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（2）【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（3）【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる（1）【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる（2）【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる（3）【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる（4）【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる（5）【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる（6）【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する（1）【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する（2）【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった！（1）【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった！（2）【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

企業取引法II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である（手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（できれば最新の）六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券

企業活動と法 【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』という法体系の中から、特に、「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題（課題）をいくつか取り上げ、これらにつき法解釈論上ならびに立法論上の解説を行うことです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

以上を通して、現代型企業ビジネスが抱えている問題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度・順番が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 民法に対する商法の特徴は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 企業活動と消費者(1) 【普通取引約款の利用】
- 第4回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第5回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附屬的商行為】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業活動と法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているが、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【不正競争】【名板貸し】【約款】【周知商号・著名商号】など

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法の現代的展開

LAW371M

授業の概要 /Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱い、特許法領域については職務発明等の知財管理で要点となる部分のみを扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律・・・等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書 /Textbooks

判決文を木村研究室ホームページから配信します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣別冊ジュリスト「著作権判例百選」
鹿毛丈司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリスト「商標・意匠・不正競争判例百選」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
2. 著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
3. 著作者～著作者、法人著作
4. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作権(著作財産権)Ⅰ～複製権、上演権及び演奏権、上映権、公衆送信権、口述権、展示権、頒布権
7. 著作権(著作財産権)Ⅱ～譲渡権、貸与権、翻訳権・翻案権等、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利
8. 著作隣接権～概論
9. 出版権～概論
10. 著作権侵害
11. 音楽産業と契約実務
12. 映画産業と契約実務
13. 放送事業と契約実務
14. 商標権侵害・不正競争行為
15. まとめ
16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の比重は約5割(50%程度)、残りは授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等の資料(50%程度)を利用して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業法の現代的展開 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

著作権 著作者人格権 著作隣接権 原盤権 出版権

証券市場と法 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融商品取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	金融商品取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場と法

LAW370M

授業の概要 /Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達場である。また、われわれ一般市民においても、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落にとどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界大戦に至るほどの経済の低迷を招いた。最近でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件として記憶に新しい。またギリシャ国債等のデフォルト危機は、EUばかりでなく、世界経済全体を揺さぶっている。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。

本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みとその関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文（！）で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題（粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等）を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論部分（第1回～第4回）の後、情報開示（第5回～第9回）、市場規制（第10回～第11回）および投資勧誘規制（第12回～第15回）まで、全体で4部構成である。

教科書 /Textbooks

松岡啓祐「最新金融商品取引法講義〔第2版〕」（中央経済社・2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近藤光男＝吉原和志＝黒沼悦朗「金融商品取引法入門〔第3版〕」（商事法務研究会・2013年）、河本一郎＝大武泰南他「新・金融商品取引法読本」（有斐閣・2014年）、松尾直彦「金融商品取引法〔第3版〕」（商事法務研究会・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 百年に一度の危機?! 証券市場の暴落で大損した人あるいは大儲けした人【大恐慌から生まれた証券取引法】
- 第2回 金融商品とは何か?(1)【有価証券、デリバティブ取引】
- 第3回 金融商品とは何か?(2)【ニクソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
- 第4回 金融商品取引法の目的【投資者保護、自己責任原則】
- 第5回 発行会社として情報を開示する(1)【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
- 第6回 発行会社として情報を開示する(2)【内部統制システム、内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
- 第7回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【粉飾決算】
- 第8回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【有価証券報告書虚偽記載、発行会社・役員等の責任】
- 第9回 企業買収に関する情報開示【TOB、5%ルール】
- 第10回 証券市場はどのように規制されているのか?(1)【相場操縦、風説の流布・偽計取引】
- 第11回 証券市場はどのように規制されているのか?(2)【インサイダー取引】
- 第12回 金融商品取引業者とは何だろうか?【証券会社、登録制】
- 第13回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(1)【適合性原則】
- 第14回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(2)【説明義務】
- 第15回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(3)【金融庁、証券取引等監視委員会】

証券市場と法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあった、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である（金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（金融商品取引法は毎年のように改正されるので）最新の六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融商品 有価証券 株式 株券 社債 デリバティブ取引 セキュライゼーション 粉飾決算 有価証券報告書虚偽記載 内部統制システム 公認会計士 TOB 相場操縦 インサイダー取引 証券会社 証券市場 適合性原則 説明義務 金融庁 証券取引等監視委員会 金融商品取引法 証券取引

都市経済論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増している。本講義は、都市の経済的側面に注目し、都市のおかれた現状と課題を検討するが、近年の都市論の動向を踏まえ、地域経済の視点や経済性と社会性との共創性にも注目する。

講義では、まず、都市の現状にかかる基礎的な分析を行った後、都市経済の基礎理論に関する理解を深める。さらに、都市の魅力の向上などの課題克服に向けた新しい事業創造の動きを捉え、地域の総合的な活性化への道筋を洞察する。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な知識を修得するほか、課題解決に向けた構造的な理解や分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房（「都市政策論」でも使用します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
- ・小長谷一之[2005]『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- ・川端基夫[2008]『立地ウォーズ』新評論
- ・その他、適宜講義の中で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 都市間競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の現状と都市問題① - 都市経済問題
4. 都市の現状と都市問題② - 都市社会問題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退
8. 都市化の経済
9. 基盤産業と地域経済循環システム
10. 立地戦略と都市経済
11. 工業都市と地域開発
12. 都市経済と事業創造① - 中心市街地活性化
13. 都市経済と事業創造② - 文化創造
14. 地域資源の戦略的活用による価値創出
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席レポート（不定期に実施します）40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

都市経済論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生の迷惑になるため厳禁とします
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

都市と地域に関する経済的な視点から、都市の形成や都市問題に関する理解と、総合的な地域活性化の考え方を、わかりやすく説明します。

キーワード /Keywords

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政学

PA0100M

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄（2009）『ホーンブック基礎行政学』北樹出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝（2001）『行政学』有斐閣
- 真淵勝（2009）『行政学』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
- 5回 行政学史①【官僚制の理論】
- 6回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
- 7回 行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
- 8回 行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
- 9回 行政統制①【行政の責任】【FF論争】
- 10回 行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
- 11回 行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
- 12回 行政統制④【政治的任命職】
- 13回 行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
- 14回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 15回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政、国家、ガバナンス、公務員制度、民主主義

都市経営論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論

PAD213M

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しい。地方消滅危機が議論される中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、基礎的な知識、今後の都市経営に求められるポイントに関する理解を深めるとともに、学際的、多角的な思考能力と構造的な理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 松下圭一[1991]『政策型思考と政治』東京大学出版会
- ・ 松下啓一[2010]『地方自治はやわかり』学陽書房
- ・ 吉田民雄[2003]『都市政府のマネジメント』中央経済社
- ・ その他、講義の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市経営の変遷と課題
4. 地方自治制度
5. 地方行財政制度
6. 公共領域の市場化・民営化
7. ガバナンスとパートナーシップ
8. 新しい公共とサードセクター
9. 公共空間のリ・デザイン
10. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
11. まちづくり事業の特徴と展開
12. まちづくり事業を支える制度
13. 企業と社会の関わり
14. 都市の魅力創出と地域ブランドの形成
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席レポート(原則、毎回実施します)40%、期末試験60%

都市経営論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生の迷惑になるため厳禁とします
- ・ 授業計画は進捗状況等に応じて、変更する場合があります

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、都銀系経済シンクタンクと地方自治体で政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと協働によるまちづくり事業の展開について、わかりやすく解説します。関連講座である都市政策論とあわせて受講されることをお勧めします。

キーワード /Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が進む中、多くの都市では、経済面や社会面など様々な政策課題が存在している。本講義では、都市についての基本的な理解や都市の現状と課題を概観した後、経済政策、地域コミュニティ政策、文化政策など様々な政策分野の状況と政策展開の実際について学んでいく。都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、多重性、多層性を有する政策の構造的な理解や、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
- ・ 石原武政・西村幸夫編[2010]『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
- ・ 川上光彦[2013]『地方都市の再生戦略』学芸出版社
- ・ その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市の形成と成長
5. 都市のカタチ - 都市論の展開
6. 都市経済 - 産業政策
7. 地域コミュニティ政策
8. 都市問題と社会政策
9. 都市文化政策
10. 環境創造
11. 社会資本整備（インフラ）
12. 安全安心社会
13. ニューツーリズムと観光振興
14. 景観形成・町並み保存
15. まとめ

都市政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席レポート(原則、毎回実施します)40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生の迷惑になるため厳禁とします。
- ・ 授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、都銀系経済シンクタンクと地方自治体で政策実務経験を有することから、都市政策の実際と戦略性をわかりやすく解説します。関連講座である都市経営論とあわせて受講されることをお勧めします。

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

このクラスは英語で行います。

教科書 /Textbooks

Essentials of Economics 6th edition N. Gregory Mankiw South-Western cenage learning

ただし、書き込みしない場合は貸し出しまたはused bookで対応することも可能です。しっかり自分の財産としたい方は購入をお勧めします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー入門経済学
アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書
池上彰のやさしい経済学

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week1 Ten principles of economics
week2 Thinking like a economist
week3 Interdependence and the gains from trade
week4 Supply and Demand
week5 Consumers, producers, and the efficiency of markets
week6 Measuring a nation's income
week7 International Trade
week8 Mid-term examination
week9 Production and growth
week10 The cost of production
week11 The firm in competitive markets
week12 Measuring cost of living
week13 Basic tool of finance
week14 The monetary system
week15 Money growth and inflation

ビジネス英語研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(1)Class participation	20%
(2)Homework papers	20%
(3)Mid-quizzes	30%
(3)Final test	30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

All lessons are basically conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

内容は易しいですので特に前知識は必要ありませんが、日本語で経済関係の基礎を学んだことがある学生はより理解が深まると思われる。

キーワード /Keywords

GDP, Inflation, comparative advantage, opportunity cost, market force, GDP deflator, present value, future value, put, call, Black-Sholes, derivative, purchasing power parity, interest rate parity, fixed and float exchange rate, currency crisis, capital flight

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らずに、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史と政治【夜】

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。
 (おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。
 本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようだがみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代に至るまでの家族・親族関係の変容

第4回 伝統的社会における親族関係

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教紛争と日常の中の宗教

第12回 不幸への対処としての呪術

第13回 中間テストの解説

第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 政教分離と世俗化

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート 40%、期末レポート 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- E・フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の変容(1)【高度産業社会】
- 5回 生活世界の変容(2)【美とテクネー】
- 6回 生活世界の変容(3)【複製技術と政治】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容(4)【全体主義と思考能力・前半】
- 9回 生活世界の変容(5)【全体主義と思考能力・後半】
- 10回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説・前半】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャ概説・後半】
- 13回 公私の区別とその起源(3)【古代ギリシャの公と私】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(1)【寛容の概念】
- 15回 宗教の私事性と公的領域(2)【衝突と共生】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障と防衛(1)
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第3回 安全保障と防衛(2)
安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、遺伝子や生物の多様性と進化、それに影響を与えてきた生命を取り巻く環境について広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高・中尾)
- 2回 ミクロとマクロの世界(日高・中尾)【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質(中尾)【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち(日高)【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞(日高)【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ(日高)【地球環境の変化と生物】
- 7回 生物の分類と系統(日高)【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性(日高)【有性生殖】【減数分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前(日高)【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線(日高)【放射性同位元素】
- 11回 科学と似非科学(日高・中尾)【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境(中尾)【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源(日高)【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 映画鑑賞(日高)
- 15回 質疑応答とまとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・小テスト 40%
期末テスト 60%

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -干潟の仕組み-
- 第3回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -海はだれのものか-
- 第4回 伝統的な農村部の生活と自然環境
- 第5回 農業の環境保全的機能と大規模集約型農業について
- 第6回 農業の可能性と第6次産業化
- 第7回 山を守る人々 -守るために利用すること-
- 第8回 森林を焼き払う農業 -焼き畑農業は環境保全的か-
- 第9回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります)
- 第10回 日本人における自然観の変遷と考え方 -環境倫理-
- 第11回 生物多様性と日本の草原
- 第12回 国際的枠組み -SATOYAMAイニシアティブの取り組み-
- 第13回 食物連鎖と地域内物質循環
- 第14回 なぜ環境問題は生じるのか -レポート試験の実施- (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括と復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
不定期に何回か実施する試験(レポート試験含む)：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境問題概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めてほしいと思います。

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

教養基礎演習I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
- 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。

具体的には、受講意識、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。総合的知識・理解については、分析に必要な理論や技術を習得し使いこなすことができるかどうか、人間の行動パターンを数値化してとらえることの意義を理解できているかどうかの観点から評価します。課題発見・分析・解決力については、実際のゲーム映像を分析することで、対象チームや選手個人の特徴を抽出するとともに、試合に勝つために必要なオリジナルの分析結果（解決案）を導き出すことができるかどうかの観点から評価します。生涯学習力については、競技としてのバレーボールとのかかわり方や授業や課題への取り組み姿勢といった観点から評価します。コミュニケーション力については、グループ作業へのかかわり方やプレゼンの状況といった観点から評価します。ゼミへの参加と観点評価...100%（4つの観点・各25%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

最大でも12人を予定しています。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きで、競技接点を持っており、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目：まとめと演習

地球の生いたち【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

今年度は、サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、精神分析・音楽・文学・映画・倫理等のジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通してユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点(1)【概説】
- 3回 ユダヤ人の原点(2)【トーラーの宗教】
- 4回 ユダヤ人の歴史(1)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(2)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(3)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 精神分析の思想(3)【補足回】
- 11回 音楽の思想【シエーンベルク】
- 12回 文学の思想【カフカ】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 40% 期末テスト... 60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ユダヤ人問題の原点ともいえるべき「ユダヤ教」について、その基本的教義や古代史の側面から一層の知識を身につけたい場合には、同じ担当者によるテーマ科目「ヨーロッパ道德思想史」（2学期開講 / 2013年度以降の入学者のみ対象）の受講を推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第7回に確認テスト（第3回～第6回が試験範囲）を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちには民主主義が当たり前になっているかもしれませんが、しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 古代ギリシアの民主制

第3回 近代デモクラシーの基礎① 【秩序か権利か：ホブズとロック】

第4回 近代デモクラシーの基礎② 【一般意志と同調圧力：ルソーとトクヴィル】

第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【日本への輸入：福澤諭吉と中江兆民】

第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】 【ラディカル・デモクラシー】

第7回 現代日本の民主主義理論① 【集合行為問題・境界線の政治学】

第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】

第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】 【権威主義体制】 【全体主義体制】

第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】 【対立理論】 【ポピュリストモデル】

第11回 民主政治の形成と崩壊③ 【調和理論】 【民主化支援】

第12回 民主主義と有権者① 【政治参加】 【エリート民主主義】 【参加民主主義】

第13回 民主主義と有権者② 【政治的有効性感覚】

第14回 民主主義と有権者③ 【シティズンシップ教育】

第15回 民主主義と議会【代表・立法・審議・行政監視機能】 【二院制】 【ねじれ国会】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (80%)、講義への参加態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

民主主義とは何か 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。
私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を身につける。さまざまな現象や表象されたものを対象に分析を実践する。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第4回：自閉症とは①【自閉症観の変遷】
- 第5回：自閉症とは②【自閉症】
- 第6回：医療モデル的作品DVDの視聴①【医療モデル的作品】
- 第7回：医療モデル的作品DVDの視聴②【医療モデル的作品】
- 第8回：医療モデル的作品の解説・評価【3つのモデルとの関連で】
- 第9回：文化モデル的作品DVDの視聴①【文化モデル的作品】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴②【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第12回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（１）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（２）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（３）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データファイルの作成（実習）1
- 第11回 データファイルの作成（実習）2
- 第12回 分布と統計量
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題をきちんと提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という意識）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家の生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのようには振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。
また、レジュメも配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の最新の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002、その他、この論争を紹介している最近の資料を紹介していく。

企業と社会【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらない」?
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語 【資本主義】【市民社会】【ブルジョア社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか 【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程 【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生・英国のケース 【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉 【剰余価値】【利潤】【公表利益】(【公開】【開示】)
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業 【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会そのものの脆弱性 【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場 【恐慌と危機】【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機・市場回帰の新自由主義の台頭 【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食・システム統合危機から社会統合危機へ 【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合・マーケットとその外側(生活世界) 【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻りに聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物(私達の社会的産物)にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。それというのも、私達の社会的産物そのものが、私達自身に刃向かってくるのだから。

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【ブラック企業】
 【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢 IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

- 第1回 山本 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国の海洋進出、南シナ海・東シナ海、シーレーン、アジア・リバランシング戦略
- 第3回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 開発協力大綱、防衛装備移転三原則
- 第4回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(1) 概論
- 第5回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(2) ミュージカル
- 第6回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(3) 演劇
- 第7回 三浦 国境を越える放送文化
- 第8回 下野 中国と民主化
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙
- 第12回 堀地 北京探索 - 悠久の歴史と再開発の現在 -
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(1) 東アジアとは何か、日本との経済関係
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(2) 東アジアの地域統合、九州との経済交流
- 第15回 山本 ヨーロッパの多国間主義と国際情勢

都合により、講義の順番を変えることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて探ります。

以上の概要を通して、開発されている社会の中でのガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度必要資料の配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめめるにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回	韓国セウォル号沈没事件に見るガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回	セウォル号沈没事件を引き起こさないために～危機管理の在り方		担当：ソンミンホ・三宅
第8回	韓国版水俣病の発現～その歴史と事実		担当：ソンミンホ・三宅
第9回	水俣病を繰り返さないための対策～ガバナンスとの関連で		担当：ソンミンホ・三宅
第10回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回	米国におけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第12回	エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回	日本の食品ロス削減運動に見るガバナンスのあり方	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回	まとめ～ガバナンスに関するグループワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

開発と統治【夜】

履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界や日本の地域社会の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 子ども会 食品ロス削減運動 グループワーク

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る 【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第5回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第6回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第7回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第8回 国連による平和の創出③：司法的解決 【国際司法裁判所（ICJ）】【法の支配】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

歴史の読み方I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (既戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだ世界経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言えよう。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)
口述講義 (山崎)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書
 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
 ○藤沢周平『漆の美のみのる国』(文春文庫)
 ○中村彰彦『保科正之』(中公新書)
 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』(ミネルヴァ書房、2008年)

人物と時代の歴史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本,イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
- 第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営
- 第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(1)
- 第5回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(2)
- 第6回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(1)
- 第7回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(2)

(山崎)

- 第8回 イギリスとはどんな国か
- 第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー
- 第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎
- 第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか一雇われ外国人たちを中心に
- 第12回 経済学の父、アダム・スミス『国富論』とはどんな本か
- 第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』
- 第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』
- 第15回 まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明-

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
 - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
 - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
 - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
 - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
 - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
 - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
 - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description
健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

マネジメントをめぐる様々な側面を取り上げ、解説します。企業の中で人間らしく働くことの問題点を明確にして、働くことにとって何が重要であるか、そのためにはどのようなマネジメントが必要であるのか、考えていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しないが、毎回、資料を配布し、それを素材にして、講義を行い、ともに考えていく。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業の概要、勉強することの意義について考える
- 2 私たちのくらしと企業、マネジメント
- 3 企業とマネジメントと社会
- 4 誰が企業を動かし、マネジメントしているのか
- 5 社長と経営者はどのようにマネジメントしているのか
- 6 日本の誇りにしたい企業と良いマネジメント
- 7 日本のブラック企業、失敗したマネジメント
- 8 企業の理念とそれを実現するマネジメント
- 9 マネジメントの仕組みと組織
- 10 企業はどのように製品をつくるのか
- 11 マネジメントと人間らしい働き方
- 12 社員の賃金と労働時間
- 13 人の採用から定年まで
- 14 マネジメントによる社員の人材育成
- 15 企業に入るためには何をすればよいのか

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中での発言内容(加点部分)と定期試験100%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞を読み、ニュースを見聞すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント、誇りにしたい企業、ブラック企業、人間らしい働き方

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。

本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。

本講義の具体的な到達目標は次の通りです。

- ① 企業とはどういうものか、ということについてイメージすることができる。
- ② 企業の種類やその特徴について説明できる。
- ③ 株式会社の制度的特徴について説明できる。
- ④ 株式会社の所有と支配の問題について説明できる。
- ⑤ 日本の株式会社の実態について説明できる。
- ⑥ CSR(企業の社会的責任)の概念と基本的な考え方について説明できる。
- ⑦ 企業の目的や存在意義について自分の意見を述べるすることができる。
- ⑧ CSRの意義について自分の意見を述べるすることができる。

教科書 /Textbooks

『よくわかる企業論』(佐久間信夫編著 ミネルヴァ書房 ¥2,600+税)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(講義の概要や目的、評価方法等の説明)
- 2回 企業とは何か(1) 【企業の定義】 【企業の目的】
- 3回 企業とは何か(2) 【企業の役割】 【企業の存在意義】
- 4回 企業とは何か(3) 【企業は誰のものか】
- 5回 企業形態(1) 【企業の法的形態と経済的形態】
- 6回 企業形態(2) 【合名会社】 【合資会社】 【合同会社】 【株式会社】
- 7回 企業形態(3) 【非営利組織】
- 8回 株式会社の制度的特徴(1) 【会社機関】
- 9回 株式会社の制度的特徴(2) 【資本の証券化】
- 10回 株式会社の制度的特徴(3) 【株式会社と証券市場】
- 11回 株式会社における所有と支配 【専門経営者】 【所有と支配の分離】
- 12回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(1) 【株式所有構造の変化と株主総会】
- 13回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(2) 【取締役会改革と委員会設置会社】
- 14回 企業に求められる21世紀型CSR 【CSR(企業の社会的責任)】
- 15回 まとめ

企業論基礎【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...20% 学期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学や会社法関連の科目を受講しておくこと、本講義の理解が一層深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態(企業の種類) 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論I

ACC110M

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大学会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1)資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2)収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1)仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(2)元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習(1)
- 第10回 仕訳及び元帳の記入練習(2)
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1)帳簿の修正
- 第14回 決算手続(2)帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

簿記論I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基本的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基本的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基本的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論II

ACC111M

授業の概要 /Course Description

後期は、前期に修得した簿記の基本的知識を応用するものとし、会社会計を講義する。

教科書 /Textbooks

「新検定 簿記講義 2級商業簿記」 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 帳簿組織(1) 転記の合理化と事務分掌
- 第2回 帳簿組織(2) 補助簿の仕訳帳化および補助元帳
- 第3回 帳簿組織(3) 総合練習問題
- 第4回 特殊商品売買(1) 委託販売と受託販売
- 第5回 特殊商品売買(2) 未着品販売
- 第6回 特殊商品売買(3) 割賦販売
- 第7回 長期請負工事(1) 工事進行基準と工事完成基準
- 第8回 長期請負工事(2) 練習問題
- 第9回 本支店会計(1) 本支店間の取引の処理
- 第10回 本支店会計(2) 本支店財務諸表の合併
- 第11回 社債(1) 社債の発行と利払いの会計処理
- 第12回 社債(2) 社債償還の会計処理
- 第13回 資本金(1) 株式会社の設立会計
- 第14回 資本金(2) 増資及び減資の会計
- 第15回 資本金(3) 合併の会計

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

後期の講義内容は、簿記論Iの理解を前提に、株式会社社会計を主題としている。
受講者は、簿記論Iの内容を復習しつつ、株式会社社会計を勉強してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論II 【夜】

キーワード /Keywords

経済学入門A 【夜】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社、2005年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済学入門 A 【夜】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

経済学入門B 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済（○）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社（○）
・ J. E. スティグリッツ（藪下史郎ほか訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】（復習）、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策（1）：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策（2）：【課税】
- 5回 市場と厚生（1）：【余剰】
- 6回 市場と厚生（2）：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用（1）：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用（2）：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1):【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2):【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3):【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開（1）：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開（2）：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学 I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDP】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておくこと、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II

ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学（微分・積分）の基礎的な知識について復習しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズのな短期マクロモデル (=45度線モデルやIS-LMモデル) を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、新古典派的な長期マクロモデルを学習し、物価や賃金が伸縮的に調整される経済において短期モデルで成立した諸結果がどのように変化するかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【有効需要原理】【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【政府支出乗数】【均衡予算乗数】【デフレギャップ】
- 4回 45度線モデル(3) 【ケインズ政策の問題点】
- 5回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 6回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利率の決定】
- 7回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 8回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】【コールレート】
- 9回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 10回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 11回 新古典派マクロ経済学(1) 【伸縮価格モデル】【貸付資金説】
- 12回 新古典派マクロ経済学(2) 【フィッシャー方程式】【貨幣の中立性】
- 13回 新古典派マクロ経済学(3) 【経済成長】【成長会計】
- 14回 新古典派マクロ経済学(4) 【新古典派成長モデル】【収束】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を発見するのに必要な統計的分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力) 生涯学習力 コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学 I

ECN130M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方(推定、検定)を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ 確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実(2013)『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔(2011)『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定(準備)
- 10 割合pに関する仮説検定(本体)
- 11 割合pに関する仮説検定(考察)
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題1
- 15 推定と検定に関する標準問題2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

統計学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をやっておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を解決するために必要な統計的手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力) 生涯学習力 コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学II ECN230M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心に展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実(2013)『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔(2011)『コア・テキスト 統計学』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房(本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 乗の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

統計学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。
本講義は2014年度入学生は対象としない。2013年度以前の入学生が対象である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をやっておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

人的資源管理論【夜】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

人間は日々働いています。この「働くこと」を管理するのが人事管理もしくは人的資源管理です。人間が「働くこと」の意味は多面的です。まず組織（企業）にとっては個々の働きが財・サービスを生み、利益を生み、その企業の存続を可能にします。他方、個人にとって自分が働くことは、生きていく糧としてお金を得ることであり、いろいろな人と触れ合うことであり、社会における自己の存在意義を確認することでもあります。本講義では、こうした多面性をもつ「働くこと」に対して、人事管理・人的資源管理の諸施策がどのような意味をもっているかを考えます。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

- ①人事管理・人的資源管理の専門知識を修得する。
- ②日本の人事システムとその変化について理解する。
- ③人事管理・人的資源管理をめぐって、個人と企業それぞれにどのような問題があるのかを理解する。

教科書 /Textbooks

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編『入門 人的資源管理 [第2版]』中央経済社、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル 人事労務管理〔新版〕』有斐閣、2006年。(○)
岩出博『新・これからの人事労務[改訂版]』泉文堂、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【人的資源】【働くこと管理】
- 第2回 日本の人事システム 【企業と個人の関係】【日本企業における諸現象】
- 第3回 雇用管理① 【雇用形態】【終身雇用】
- 第4回 雇用管理② 【柔軟な雇用】【非正規社員】
- 第5回 報酬管理① 【賃金体系】【職能資格制度】
- 第6回 報酬管理② 【職務等級制度】【賃金制度の新動向】
- 第7回 報酬管理③ 【退職金】【福利厚生】
- 第8回 第2回～7回までのまとめとキャリア開発① 【異動の種類】【昇進と昇格】【制度の変化】
- 第9回 キャリア開発② 【人事考課制度】【目標による管理】【コンペティンシー】
- 第10回 キャリア開発③ 【専門職制度】
- 第11回 労使関係 【労働組合】【団体交渉】【労使協議制】
- 第12回 女性労働者 【女性の職場進出】【女性労働者をめぐる諸問題】【ダイバーシティ・マネジメント】
- 第13回 高齢労働者 【高齢化問題】【退職管理の改革】【作業現場における環境改善】【技能伝承問題】
- 第14回 海外派遣者と国際人的資源管理 【国際経営】【本国従業員】【現地従業員】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人的資源管理論【夜】

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容が変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

日本的人事システム、個人と企業の関係性

中小企業論 【夜】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2014年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 “ (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 “ II
 - 第14回 “ III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

中小企業論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

無

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム

INF220M

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【ディジョンテーブル】
- 11回 モデル化の演習
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コンピュータシステム【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

システム分析 【夜】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

システム分析 【夜】

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると考えます。

会社法I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法Ⅱ【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅱ

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅱでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Ⅰから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論I

ECN260M

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③習得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

金融論I【夜】

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

金融論II【夜】

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I 【夜】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引-国際金融&国際投資-）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を基軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになる。

< 本講義の到達目標 >

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基礎理論」を身につける。
2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3. 国際資本の流れ-国際金融の視点-から日本経済を分析できること。

* 日本経済新聞を読むようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】 【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済
【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度: GATT&WTO、及びFTA (EPA)
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点: 対外直接投資と対内直接投資-
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 ドル ユーロ 円高 経常収支 資本収支
外貨準備 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放
対外債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

国際経済論II 【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

国際経済論は、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（趨勢）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、1学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 …… 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（I）：世界経済の不均衡問題 …… 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】
【資本収支の黒字】 【債務大国：アメリカ】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（II）：資本輸出国日本 …… 【経常収支の黒字】 【資本輸出】 【対外投資】
【資本収支の赤字】 【債権大国：日本】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」 …… 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷 …… 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第7回 外国為替取引と為替レート …… 【円建て】 【ドル建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度 …… 【平価】 【為替介入】 【固定レート】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度 …… 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 変動為替相場制度と為替介入（I） …… 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（II） …… 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第12回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 …… 【財政政策】 【金融政策】 【金利の動き】 【為替変動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度：経済政策の効果分析 …… 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第14回 グローバル経済化と自由な国際資本移動 …… 【マンデル＝フレミング・モデル】 【資本移動】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-

国際経済論II 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 80%
- (2) 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1)世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2)授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3)日本経済新聞を読めるようになって下さい。

キーワード /Keywords

経常収支 資本収支 外貨準備高 総需要と総供給 マクロ均衡と不均衡 輸出超過 輸入超過 内需・外需
国際通貨制度 MF体制 円建レート ドル建レート 市場レート 円高・円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会
FB・政府短期証券 平価 為替介入 不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策
財政政策 金融政策 国際資本移動

環境経済学【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣（2008）
時政・藪田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房（2007）○
日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書（2002）○
マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社（2005）○
R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社（2001）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意欲額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

環境経済学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内淳彦、小田宏信編『日本経済地理読本(第9版)』東洋経済新報社、2014年
その他、講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済地理学とは【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 地域構造論【産業構造】、【産業配置】、【地域構造】
- 3回 産業構造の変化と地域構造【産業構造】、【主導産業】、【地域構造】
- 4回 立地論の考え方、農業立地論【立地論】、【チューネン】
- 5回 1～4回の復習とまとめ
- 6回 工業立地論【輸送費】、【労働費】、【産業集積】
- 7回 工業立地の実際(1)・・・基礎素材型産業【規模の経済】、【市場分割型立地】
- 8回 工業立地の実際(2)・・・加工組立型産業【集積の経済】、【工程分業型立地】
- 9回 日本工業の地域的構成【工場配置】、【産業政策】、【立地政策】
- 10回 5～9回の復習とまとめ
- 11回 地域間人口移動【人口減少】、【人口移動】
- 12回 日本の経済地理(1)・・・中心地域【三大都市圏】、【中枢管理機能】
- 13回 日本の経済地理(2)・・・周辺地域【過疎問題】、【農林水産業】
- 14回 日本の経済地理(3)・・・中間地域【高速交通体系】、【インフラ】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済地理学I 【夜】

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

経済地理学II【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域経済I【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 今日の地域経済の諸問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造の高度化①【産業構造】
- 4回 工業化の進展【重化学工業化】【高加工度化】
- 5回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 6回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 7回 地域構造の高度化②【空間的情報流】
- 8回 企業内分業の進展①【工場立地】【オフィス立地】
- 9回 企業内分業の進展②【都市システム】
- 10回 コンピュータ・ネットワークと市場①【市場の広がり】
- 11回 市場の世界化①【金融市場】【物財市場】
- 12回 市場の世界化②【労働市場】
- 13回 コンピュータ・ネットワークと市場②【市場の深まり】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題【地方消滅】【地方創生】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

地域経済I 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済II

ECN245M

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 都市計画【まちづくり3法】、【商業集積】
- 3回 中心市街地活性化【中心市街地】、【集客戦略】
- 4回 観光産業の振興とまちづくり(1)【マスツーリズム】、【インバウンド振興】
- 5回 観光産業の振興とまちづくり(2)【新しい観光の形態】、【グリーンツーリズム】
- 6回 1~5回の復習とまとめ
- 7回 地域の環境問題(1)【公害問題】、【地球環境の変化】
- 8回 地域の環境問題(2)【エコタウン政策】
- 9回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】、【クラスター】
- 10回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】、【知識と情報】
- 11回 7~10回の復習とまとめ
- 12回 人口減少の影響と地域経済(1)【少子高齢化】
- 13回 人口減少の影響と地域経済(2)【中山間地域】、【限界集落】
- 14回 人口減少の影響と地域経済(3)【コンパクトシティ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

地域経済II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方分権、環境政策、観光政策、産業クラスター、人口減少